DENON

AVサラウンドレシーバー

AVR-1612

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前に「簡単セットアップガイド」と「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。詳しくは、「保証と修理について」(107 ページ) をご覧ください。
- 当社は、環境保全のためにペーパーレス化を推進しております。ご協力とご理解に感謝致します。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ネジを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

基本編
応用編
情報編

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示どおりに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

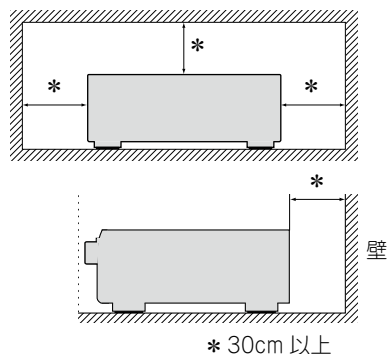
5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

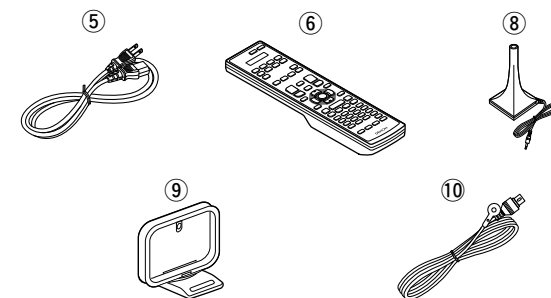
ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 簡単セットアップガイド ………………………… 1
② CD-ROM（取扱説明書）………………………… 1
③ 保証書（梱包箱に貼り付けています）………… 1
④ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内 … 1
⑤ 電源コード【本機専用】………………………… 1
⑥ リモコン（RC-1157）…………………………… 1
⑦ 単3形乾電池 …………………………………… 2
⑧ セットアップマイク（DM-A409）……………… 1
⑨ AMループアンテナ ……………………………… 1
⑩ FM室内アンテナ ………………………………… 1

⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩

本機の特長

ディスクリート回路構成による全 5 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載
(実用最大出力 130W、6 Ω)

本機には、オリジナル音源を忠実にサラウンド再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位なサラウンド再生を実現しています。

基本的な設定が簡単にできるセットアップウィザード

テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続や基本的な設定がおこなえます。

操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース

本機には、メニュー表示や階層ディレクトリーを視覚的にわかりやすくした“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載しています。階層を表示させることで、自分が何処にいて、何を設定しようとしているのかがわかりやすくなり、操作性を向上させています。

iPhone® や iPod® の再生に対応した USB 端子搭載
（☞14 ページ）

iPod に付属の専用 USB ケーブルを本機の USB 端子に接続すると、iPod の再生や、本機のリモコンで iPod の操作ができます。
また、iPod が接続された状態で、本体の **iPod** ▶ ボタンを押すと、すぐに iPod の音楽を再生します。

HDMI（3D、ARC、Deep Color、“x.v.Color”、オートリップシンク）および HDMI コントロール機能対応
（☞10 ページ）

本機は、ブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D ビデオ信号を、3D 対応テレビに出力することができます。また、本機とテレビ * を接続している HDMI ケーブルを経由してテレビの音声を本機で再生する ARC（Audio Return Channel）機能にも対応しています。

＊ テレビも ARC 機能に対応していることが必要です。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備（入力：4 系統、出力 1 系統）

本機には 4 系統の HDMI 入力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子搭載機器との接続ができます。

ブルーレイディスクプレーヤーの HD オーディオに対応

本機は、ブルーレイディスクプレーヤーの音声フォーマットである Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio などの高品位デジタル音声フォーマットを再生できます。

Basic version

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

機器	項目	ページ
TV	接続のしかた	☞11、12 ページ
	再生のしかた	–
DVD	接続のしかた	☞11、12 ページ
	再生のしかた	☞24 ページ
DOCK	接続のしかた	☞14 ページ
	再生のしかた	☞25 ページ
USB	接続のしかた	☞14 ページ
	再生のしかた	☞33 ページ
V.AUX	接続のしかた	☞13 ページ
	再生のしかた	–

機器	項目	ページ
BD	接続のしかた	☞11、12 ページ
	再生のしかた	☞24 ページ
SAT/CBL	接続のしかた	☞11、13 ページ
	再生のしかた	–
iPod	接続のしかた	☞14 ページ
	再生のしかた	☞28 ページ
GAME	接続のしかた	☞10 ページ
	再生のしかた	–
TUNER	接続のしかた	☞15 ページ
	再生のしかた	☞30 ページ

スピーカーの接続については、43 ページ、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。

基本編
応用編
情報編

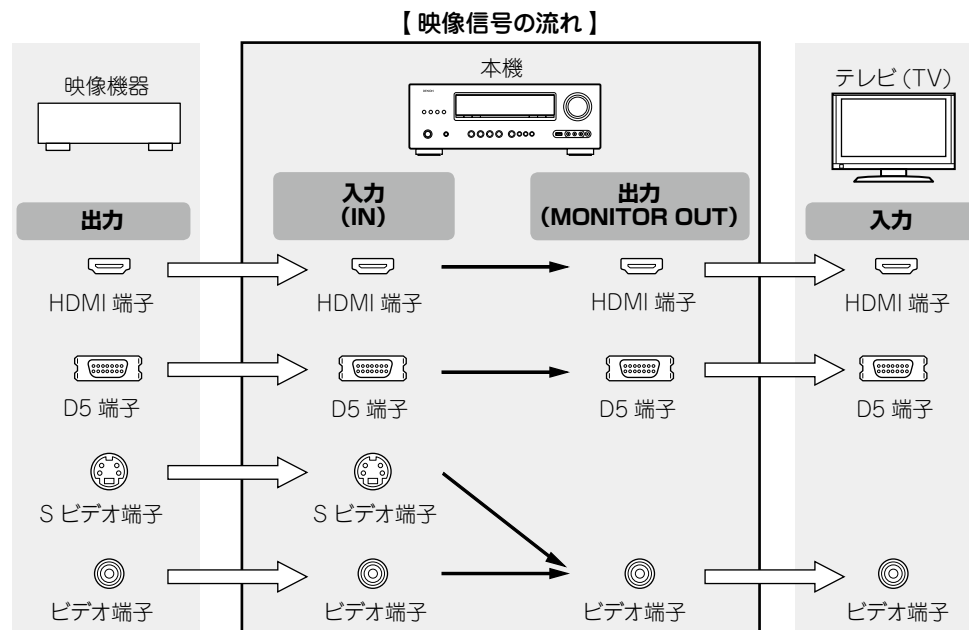
接続のしかた

知っておいてほしいこと

- **この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法を選んでください。**
- **接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。**
- **ご使用になる機器に合わせて、別売りのケーブルをご用意ください。**

ご注意

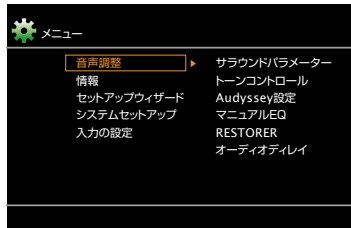
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。（ただし、セットアップウィザード（8 ページ）中はセットアップウィザードの指示に従って接続してください。）
- セットアップウィザード（8 ページ）中は、接続する機器の電源をオフにしてください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

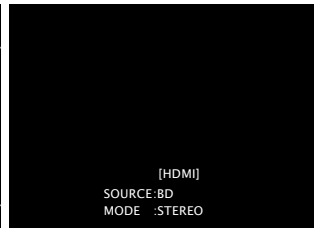
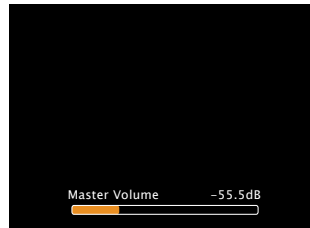
映像信号とモニター出力の関係

HDMI 対応テレビの解像度は、“モニター情報”（65 ページ）で確認することができます。

ご注意

- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません（100 ページ）。
- アナログ信号を HDMI 信号に変換することはできません（100 ページ）。

次のページへ

画面表示の例

- メニュー画面

- 状態表示画面

入力ソース切り替え時　　音量調節時

状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時に、一時的に操作の状態を表示します。

ご注意

- 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度（例：VGA）の映像を再生中にメニューを操作すると、再生中の映像がメニュー画面に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 本機は 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度（例：VGA）の映像を再生中は、状態表示画面を表示しません。
- 本機とテレビをビデオケーブルまたは D 端子ケーブルで接続しているときは、メニュー画面と状態表示画面を表示しません。メニュー画面と状態表示画面を表示するには、本機とテレビを HDMI ケーブルで接続してください。

HDMI 端子付きの機器を接続する

本機へ HDMI 対応機器を 5 台（4 入力 /1 出力）まで接続できます。

HDMI 機能

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- 3D
- Deep Color（☞101 ページ）
- オートリップシンク（☞70 ページ）
- “x.v.Color”、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601color（☞101、102 ページ）
- HD オーディオフォーマット
- ARC（Audio Return Channel）
- Content Type
- CEC（HDMI コントロール）

著作権保護システムについて
HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビ、プレーヤーと AV アンプなどの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。 • HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力しません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI ケーブルについて

- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- ARC 機能を使用するときは、HDMI 対応の“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”で接続してください。

HDMI コントロール機能（☞49 ページ）

本機で外部機器を操作したり、外部機器から本機を操作したりすることができます。

ご注意

- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

3D 機能について

本機は、HDMI 規格の 3D（3 次元）映像信号の入力 / 出力に対応しています。3D 映像の再生には本機の他に、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

ご注意

- 3D 映像を再生するときは、本機の取扱説明書と一緒に 3D 映像機器の取扱説明書もご覧ください。
- 3D ビデオ信号を再生中にメニューの操作をおこなうと、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 3D ビデオ信号の再生中は、状態表示画面を表示しません。
- 3D 情報がない 3D 映像を入力した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面がオーバーレイします。
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像へ変換した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面は正しく表示しません。本機のメニュー画面および状態表示画面を正しくご覧になりたいときは、テレビの 2D 映像を 3D 映像へ変換する設定をオフにしてください。

ARC（Audio Return Channel）機能について

テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。

ご注意

- ARC 機能は、ARC 機能対応のテレビを HDMI 接続したときに動作します。このとき、メニューの“HDMI コントロール”（☞70 ページ）を“オン”に設定してください。
- ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルの他に音声ケーブルが必要になります。このときの接続方法は、「テレビを接続する」（☞12 ページ）をご覧ください。

Content Type 機能について

HDMI 規格で追加された機能です。この機能は、出力映像の種類（コンテンツ情報）に適した設定を自動でおこなう機能です。

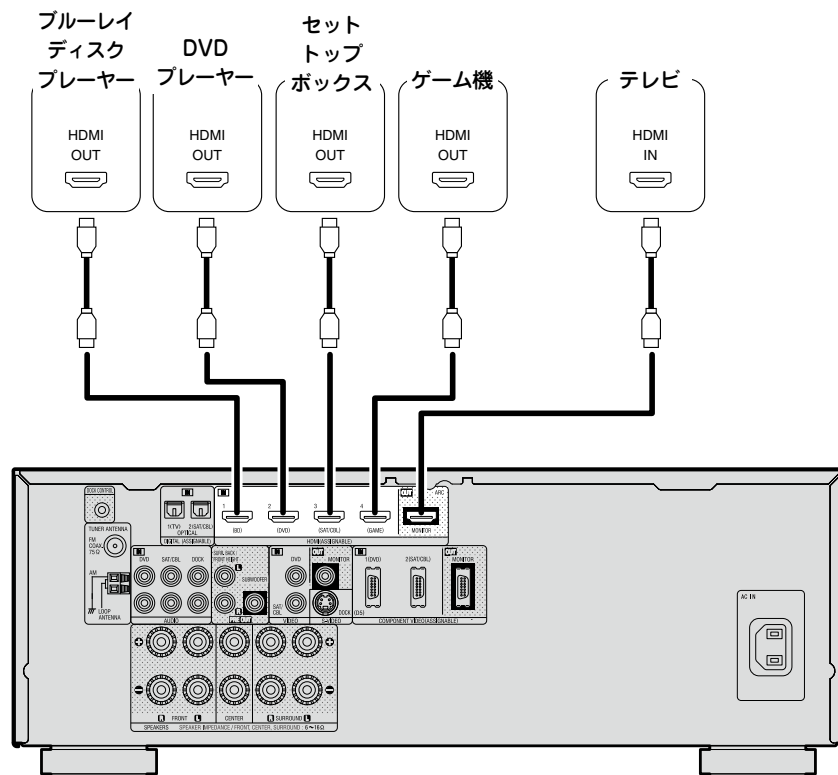
ご注意

本機では、メニューの“ビデオモード”設定（☞77 ページ）が“オート”のときに Content Type 機能が動作します。

☞ 次のページへ

接続に使用するケーブル

音声＆映像ケーブル（別売り）
HDMI ケーブル

• デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。

• 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
• Deep Color 対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
• プレーヤーの解像度を、テレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
• 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。

ご注意

HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

• DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
• HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
• 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

❑HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

入力端子の割り当て（76 ページ）

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定してください。

HDMI 設定（70 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

• オートリップシンク
• HDMI 音声出力
• HDMI コントロール
• スタンバイ時の HDMI 入力
• パワーオフコントロール

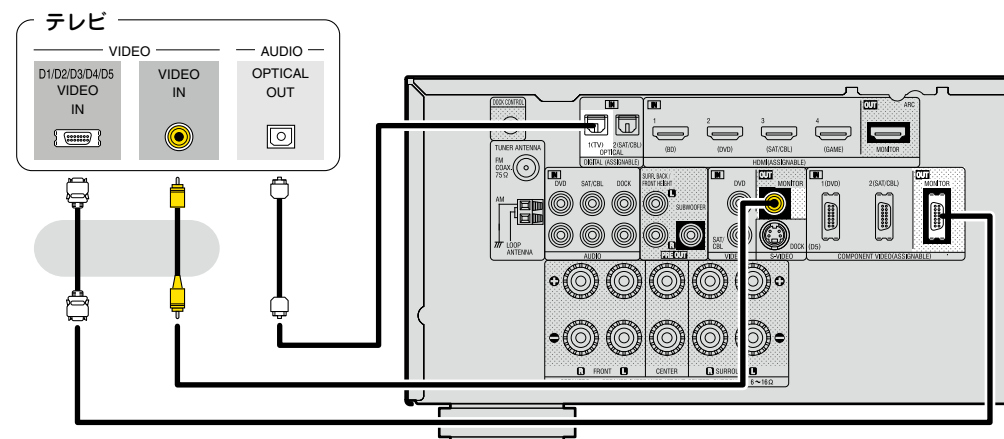
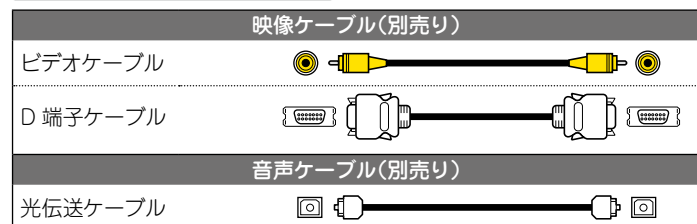
ご注意

HDMI 入力端子から入力した音声信号を本機と HDMI 接続しているテレビに出力するには、HDMI 音声の出力先をテレビに設定してください。
アナログ / デジタル入力端子から入力した音声信号は、HDMI 出力端子（MONITOR）から出力することができません。

テレビを接続する

ご注意

本機に ARC 機能対応のテレビを接続した場合、光伝送ケーブルの接続は不要です。詳しくは、「ARC（Audio Return Channel）機能について」（☞10 ページ）またはテレビの取扱説明書をご覧ください。

- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞10 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

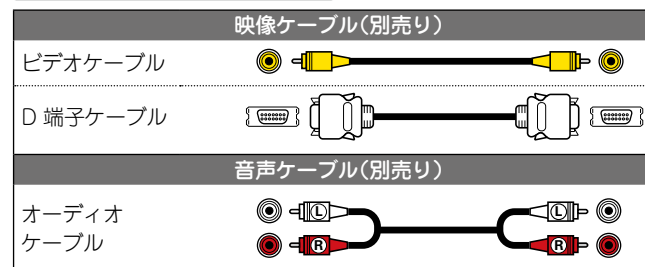
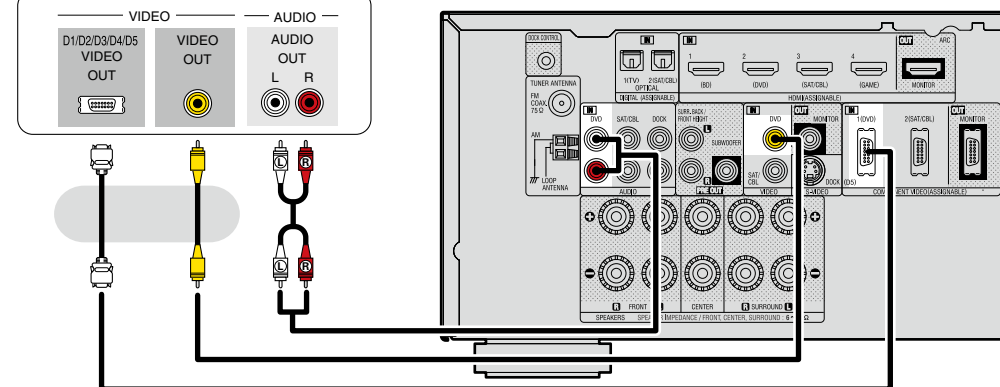
必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"（☞76 ページ）

本機とテレビをビデオケーブルで接続しているときは、メニュー画面と状態表示画面を表示しません。メニュー画面と状態表示画面を表示するには、本機とテレビを HDMI ケーブルで接続してください。

ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを接続する

- ブルーレイディスクまたは DVD の映像や音楽を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞10 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

必要に応じて設定してください

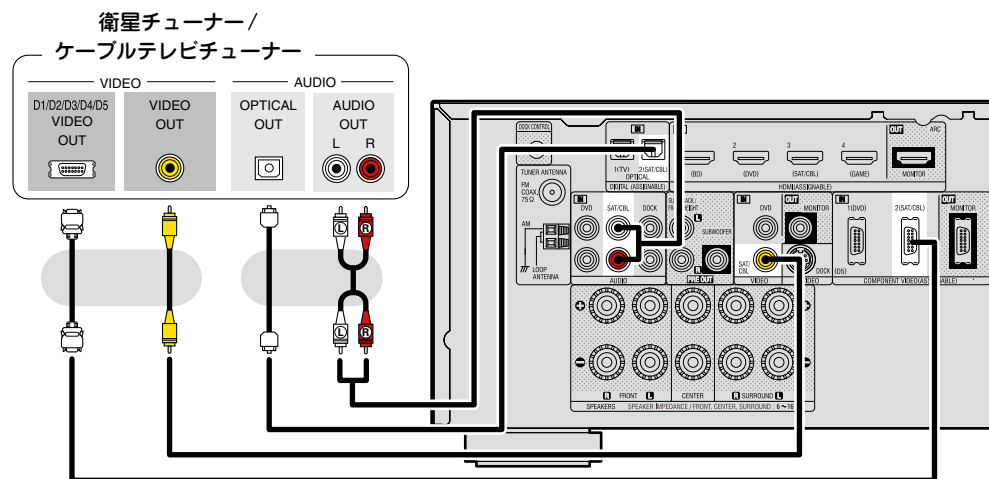
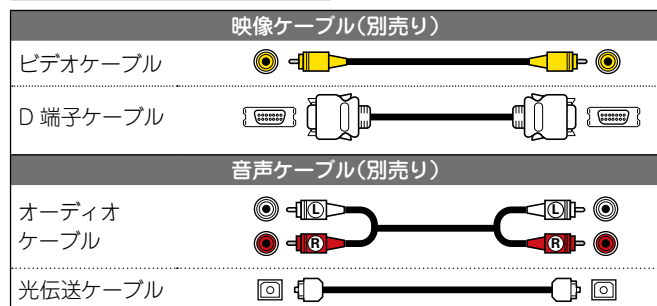
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"（☞76 ページ）

HD オーディオ（Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express）およびマルチチャンネル PCM 信号を再生する場合は、HDMI 接続をしてください（☞10 ページ「HDMI 端子付きの機器を接続する」）。

セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）を接続する

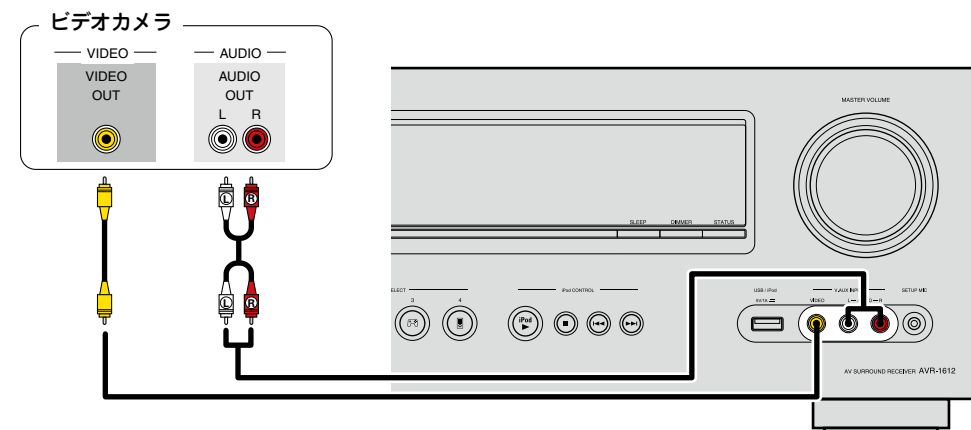
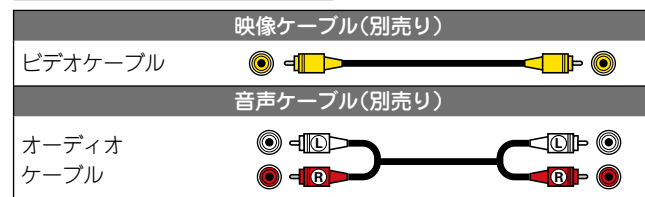
- 衛星チューナーやケーブルテレビチューナーの映像を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞10 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	
D 端子ケーブル	
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	L / R
光伝送ケーブル	

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"（☞76 ページ）

ビデオカメラを接続する

- ビデオカメラの映像や音声を楽しむことができます。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞10 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

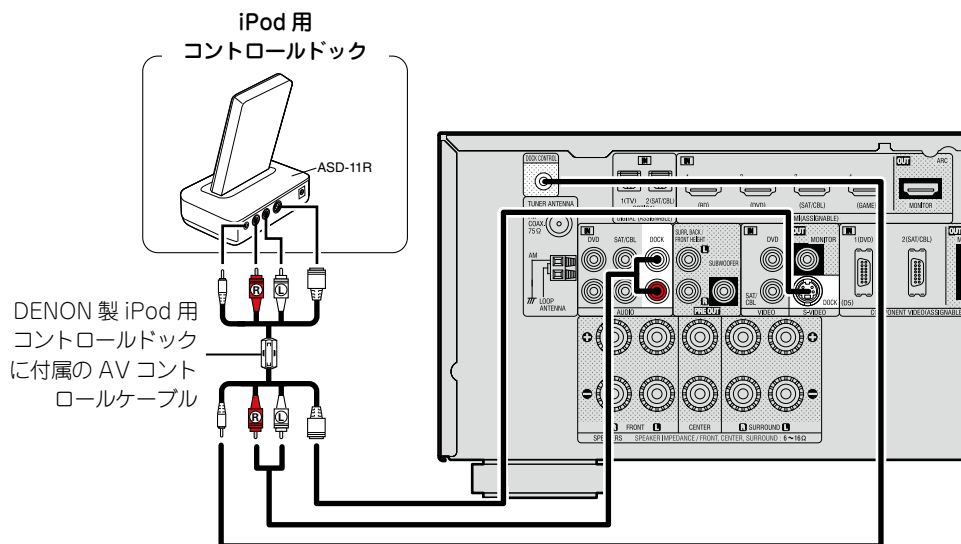
映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	L / R

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"（☞76 ページ）

本機の V.AUX 入力端子にゲーム機を接続してもゲームを楽しむことができます。このような場合は、入力ソースを "V.AUX" に設定してください。

iPod 用コントロールドックを接続する

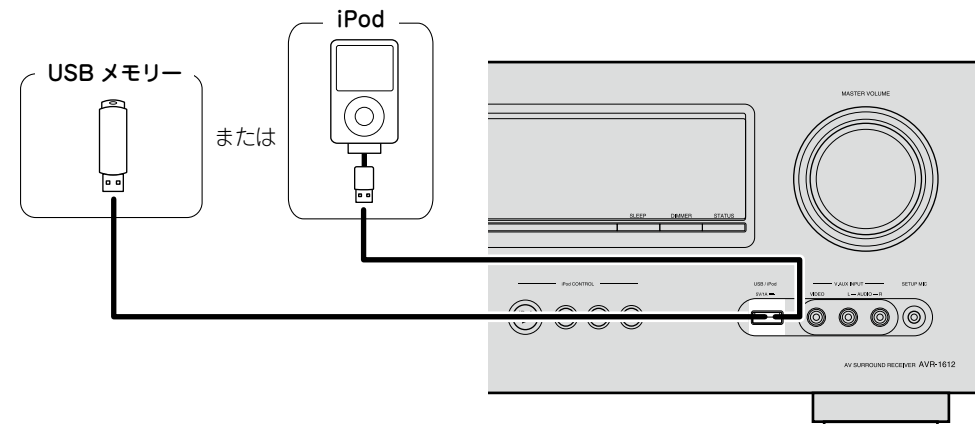
- iPod 用コントロールドックを接続すると、iPod 内の映像や音声を楽しむことができます。
- 本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック(ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り)をご使用ください。
- iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

本機の HDMI MONITOR 出力端子からは、iPod のビデオ映像を出力しません。iPod 内のビデオ映像を再生する場合は、HDMI 接続のほかに、テレビを本機の VIDEO MONITOR 出力端子に接続してください。このとき、テレビの入力設定は“ビデオ”に切り替えてください。

USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

iPod や USB メモリー内の音楽を楽しむことができます。

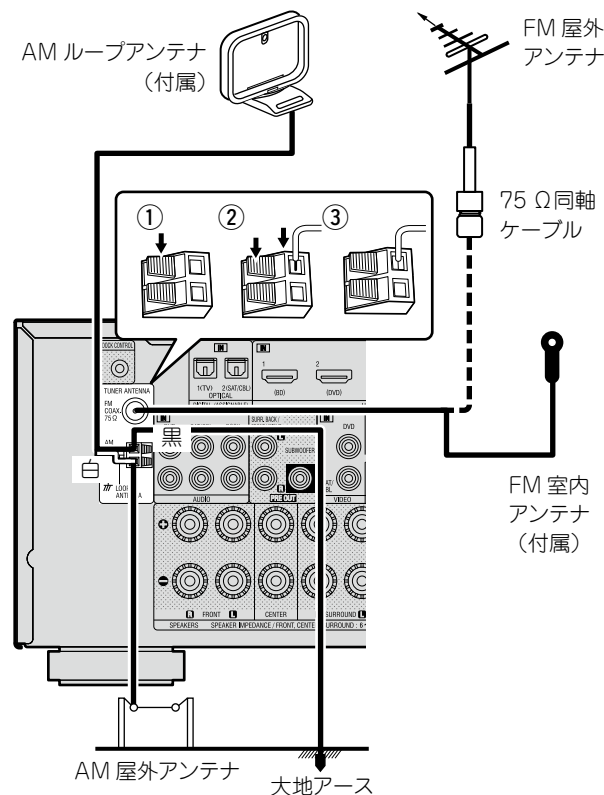
接続に使用するケーブル

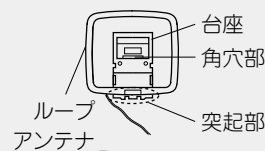
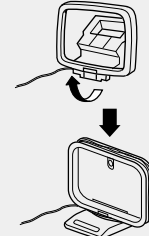
本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルをご使用ください。

- iPod 内のビデオファイルを再生する場合は、DENON 製 iPod 用コントロールドック(ASD-1R または ASD-11R、別売り)を使用してください(☞14 ページ「iPod 用コントロールドックを接続する」)。
- iPod は、第 5 世代以降に発売された iPod touch、iPod classic、iPod nano で再生することができます。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

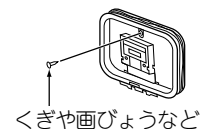
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。
- 本機は iPad の再生には対応していません。本機に iPad を接続しないでください。
- 本機に iPhone を接続するときは、iPhone を本機から 20cm 以上離してください。iPhone を本機に近づけていると、iPhone が電話を受信したときに、本機の音声出力にノイズが入ることがあります。

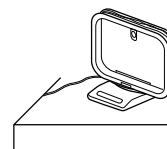
アンテナを接続する

- 本機に付属の FM アンテナや AM ループアンテナを接続すると、ラジオ放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続したあとに放送を受信し(☞30 ページ「FM/AM 放送を聴く」)、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。

❑AM ループアンテナの組み立てかた

1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。

2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。

❑AM ループアンテナの使いかた

壁にかけて使う

組み立てずにそのままお使いください。

置いて使う

上図のように組み立ててお使いください。

ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやネジに接触していないかご確認ください。
- AM や FM の受信感度はアンテナの設置場所や設置方向によって変わります。最もよく受信できるところに設置してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- ケーブルテレビにご加入の場合は、ケーブルテレビのアンテナで FM 放送を受信できる場合があります。詳しくは、ご加入のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

設定のしかた

ここではお使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう"Audyssey® オートセットアップ"について説明します。

スピーカーを設定する(Audyssey® オートセットアップ) GUI

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を"Audyssey® オートセットアップ"と呼びます。

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るために、6 箇所で測定することをおすすめします。

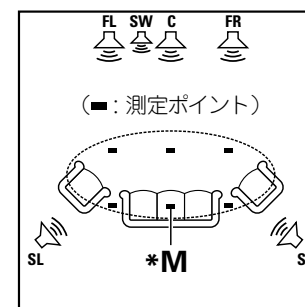
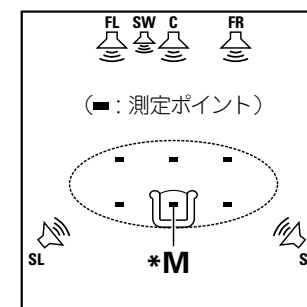
- Audyssey® オートセットアップをおこなうと、MultEQ®/Dynamic EQ®/Dynamic Volume® の機能(☞63 ページ)が有効になります。
- 手動でスピーカーを設定したい場合は、メニューの"スピーカーの設定"(☞67 ページ)でおこなってください。

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、Audyssey® オートセットアップが完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中に 🔈 ▲▼ を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey® オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例 ①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように 6 箇所で測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例 ②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例 ①】

【例 ②】

FL	フロントスピーカー(左)	SW	サブウーハー
FR	フロントスピーカー(右)	SL	サラウンドスピーカー(左)
C	センタースピーカー	SR	サラウンドスピーカー(右)

メインリスニングポイント(* M)について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときに座る位置です。Audyssey® オートセットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

☞ 次のページへ

1 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

三脚やスタンドがない場合は、背もたれのない椅子などに設置してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❏ ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❏ ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合

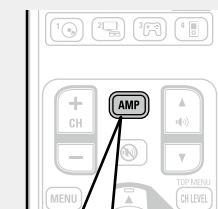
次のように設定してください。

- **音量の設定**：“12 時”の位置
- **クロスオーバー周波数の設定**：“最大 / 最高周波数”
- **ローパスフィルターの設定**：“オフ”
- **スタンバイモードの設定**：“オフ”

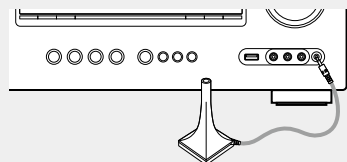
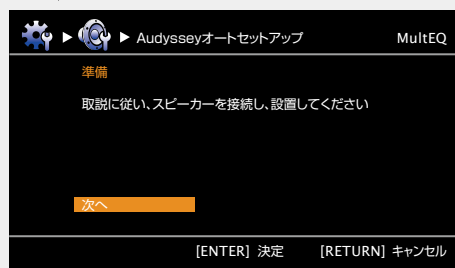
3 リモコンの設定をする

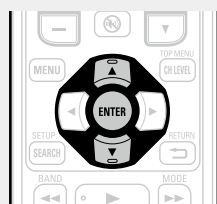
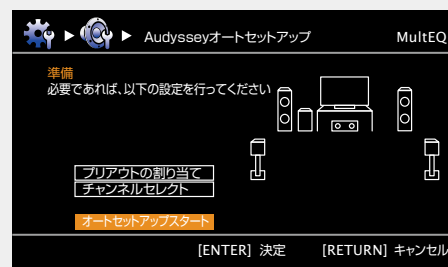
❏ 操作モードの設定

AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

次のページへ

ステップ 1 準備

ステップ 2 スピーカー検出と測定（メイン）

4 **セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。**

セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

- スピーカーの設置や接続については、「スピーカーを設置 / 接続 / 設定する（応用接続）」（☞41 ページ）をご覧ください。
- テレビの接続については、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞10 ページ）をご覧ください。

5 **“次へ”を選び、ENTER を押す。**

6 **△▽ を押して“オートセットアップスタート”を選び、ENTER を押す。**

ここでは、5.1 チャンネル再生の設定方法について説明しています。
5.1 チャンネル以外の設定のしかたは、、“プリアウトの割り当て”を選び、「“プリアウトの割り当て”の設定」（☞47 ページ）の手順 4、5 をおこなってください。
また、“チャンネルセレクト”で、測定しないチャンネルをあらかじめ設定すると、測定時間を短縮することができます。操作のしかたは、「“チャンネルセレクト”の設定」（☞48 ページ）の手順 7～10 をおこなってください。

- ステップ 2 では、メインリスニングポイントの測定をします。
- ここでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。

7 **“測定”を選び、ENTER を押す。**
各スピーカーからテストトーンを出力し、測定を開始します。

- 測定には数分間かかります。

8 **検出されたスピーカーを表示します。**

- 次の図は、フロントスピーカー / センタースピーカー / サブウーハー / サラウンドスピーカーを検出したときの表示例です。

ご注意
接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

9 **△▽ を押して“次へ→測定”を選び、ENTER を押す。**

☞ 次のページへ

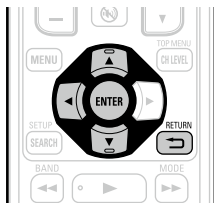
ステップ 2(つづき)
スピーカー検出と測定(メイン)

ステップ 3
測定(2 箇所目以降)

ステップ 4
解析

ご注意

テレビ画面に"注意!"が表示された場合

「エラーメッセージについて」(☞21 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。
エラーが解決したら、再び"Audyssey® オートセットアップ" をはじめからおこなってください。

再び Audyssey® オートセットアップをおこなうとき

△▽ を押して"再測定"を選び、**ENTER** を押す。

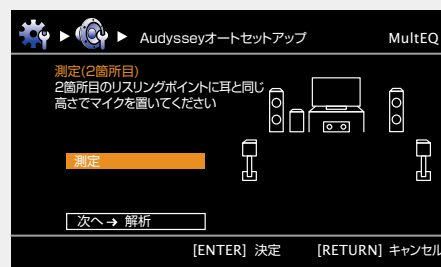
測定を中止するとき

① **RETURN** ⮌を押すと、"オートセットアップを中止しますか?"が表示されます。
② ◁を押して"はい"を選び、**ENTER**を押してください。

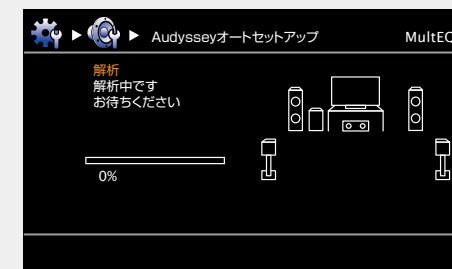
再度スピーカーを設定するとき

ステップ 1 準備 の手順 4 以降の操作をおこなってください。

- ステップ 3 では、メインリスニングポイント以外の複数の箇所(2～6 箇所)を測定します。
- メインリスニングポイントの 1 箇所のみでも測定可能ですが、複数の箇所を測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

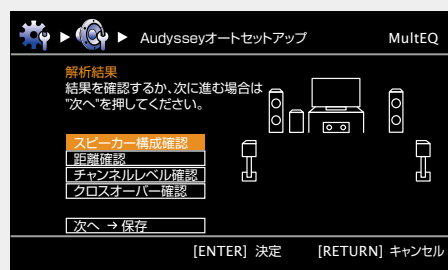
10 **2 箇所目にセットアップマイクを移動させ、△▽ 押して"測定"を選び、ENTER を押す。**
2 箇所目の測定をはじめます。
最大 6 箇所まで測定できます。

次のポイント以降の測定を省略する場合は、"次へ→解析" を選んでください。
(ステップ 4 解析 へ進みます。)

11 **手順 10 をくり返して 3～6 箇所を測定する。**
6 箇所目の測定が完了すると、"測定が終わりました"を表示します。

12 **ステップ 3 の画面で △▽ を押して"次へ→解析"を選び、ENTER を押す。**
測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

- 解析には数分間かかります。
接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

☞ 次のページへ

ステップ 5 解析結果の確認

13 △▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
- 他の項目を確認したいときは、RETURN を押してください。

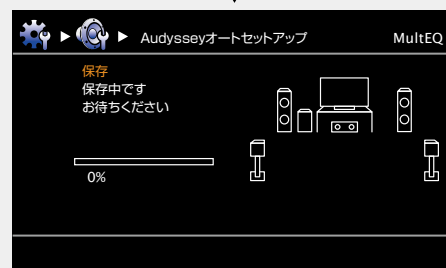
14 △▽ 押して"次へ→保存"を選び、ENTER を押す。

ご注意

- 接続している状態と異なる結果や"注意 !" が表示された場合は、「エラーメッセージについて」(☞21 ページ)をご覧ください。そのあと、再度 Audyssey® オートセットアップをおこなってください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey® オートセットアップをおこなってください。

ステップ 6 保存

15 "保存"を選び、ENTER を押す。

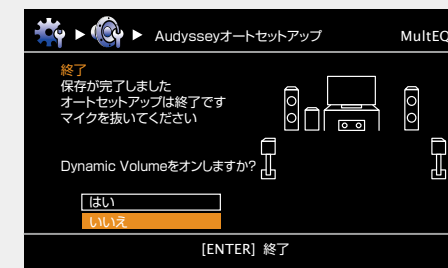
測定結果を保存します。

- 保存には 10 秒程度かかります。
- 測定結果を保存しないときは、RETURN を押してください。"オートセットアップを中止しますか ?" を表示しますので、◁ を押して"はい" を選んでください。すべての Audyssey® オートセットアップの測定結果を消去します。
- 測定結果の保存中は"保存中です　お待ちください" を表示します。保存が終了すると、"保存が完了しました　オートセットアップは終了です"を表示します。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

終了

16 本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。

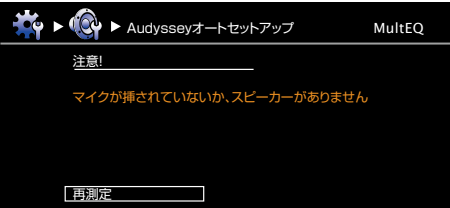
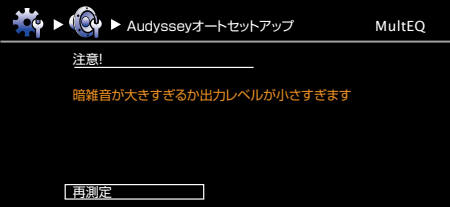
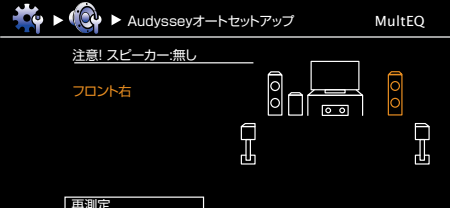
17 Audyssey Dynamic Volume® の設定をする。

- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切なボリュームコントロールを自動的におこないます。

❑ **Dynamic Volume® の設定をするとき**

- △ を押して"はい"を選び、ENTER を押す。
  自動的に"Evening" モードになります。

❑ **Dynamic Volume® の設定をしないとき**

- ▽ を押して"いいえ"を選び、ENTER を押す。

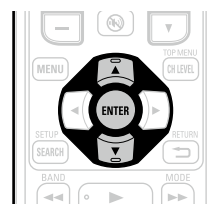
ご注意

Audyssey® オートセットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、再び Audyssey® オートセットアップをおこなってください。

基本編
応用編
情報編

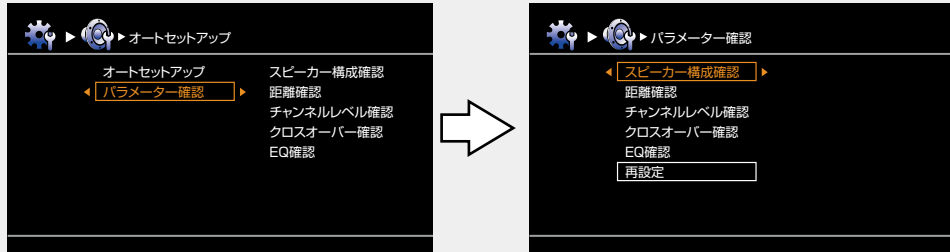
エラーメッセージについて

ご注意

- スピーカーの設置や測定環境などにより Audyssey® オートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。そのあと、再び Audyssey® オートセットアップをおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

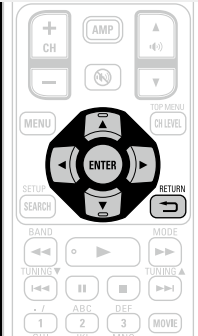
エラーメッセージ（例）	エラーの内容	エラーの処理方法
Audysseyオートセットアップ MultEQ 注意! マイクが挿されていないか、スピーカーがありません 再測定	•接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 •接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 •フロントスピーカー（左）が正しく検出されない。	•付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 •スピーカーの接続を確認してください。
Audysseyオートセットアップ MultEQ 注意! 暗雑音が大きすぎるか出力レベルが小さすぎます 再測定	•部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 •スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	•騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 •周囲がより静かなときに再度おこなってください。 •スピーカーの設置や向きを確認してください。 •サブウーハーの音量を調節してください。
Audysseyオートセットアップ MultEQ 注意! スピーカー:無し フロント右 再測定	•表示されたスピーカーが検出されない。 （左の画面は、フロント右スピーカーが検出できないことをあらわします。）	•表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Audysseyオートセットアップ MultEQ 注意! スピーカー:位相 フロント右 スキップ 再測定	•表示されたスピーカーの位相が逆である。 （左の画面は、フロント右スピーカーの位相が逆になっていることをあらわします。）	•表示されたスピーカーの極性を確認してください。 •スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、ΔΣ を押して“スキップ”を選び、**ENTER** を押してください。

パラメーターを確認する

Audyssey® オートセットアップをおこなったあとに、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

1 **△▽ を押して“パラメーター確認”を選び、ENTER を押す。**

2 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。**

スピーカーごとに測定結果を表示します。

スピーカー構成確認	スピーカーの構成を確認します。
距離確認	スピーカーの距離を確認します。
チャンネルレベル確認	スピーカーのチャンネルレベルを確認します。
クロスオーバー確認	スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。
EQ確認	イコライザーの補正カーブを確認します。

- “EQ 確認”を選んだ場合は、△▽ を押して確認したい補正カーブ（“Audyssey” または “Audyssey Flat”）を選び、**ENTER** または ▷ を選んでください。
◁ ▷ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。

3 **RETURN ⮌ を押す。**

確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

Audyssey® オートセットアップの設定値に戻すとき

- 各設定を手動で変更した場合でも Audyssey® オートセットアップの測定結果（MultEQ® が当初計算した値）に戻すことができます。
- “再設定”を選んで **ENTER** を押すと、“オートセットアップで測定した結果に戻しますか ?”というメッセージが表示されますので、“はい”を選び、**ENTER** を押してください。

再生のしかた(基本操作)

知っておいてほしいこと

再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

ご注意

再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

入力ソースを選ぶ

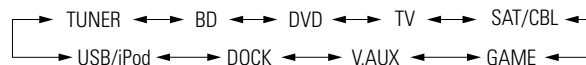
再生する入力ソース選択ボタン(BD、SAT/CBL、TV、USB/iPod、DVD、V.AUX、DOCK、TUNER または GAME)を押す。

入力ソースをダイレクトに選べます。

次の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

❑本体の操作で入力ソースを選ぶ

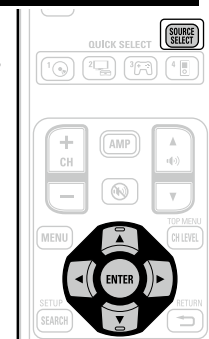
SOURCE ▲ または **SOURCE ▼** を押す。

- **SOURCE ▲** または **SOURCE ▼** を押すたびに、入力ソースが次の順序で切り替わります。

- **iPod ▶** を押すと、本機の入力ソースが"DOCK" または"USB/iPod" に切り替わり、接続されている iPod を自動的に再生します(☞29 ページ「iPod 再生機能」)。

❑" ソース選択 " メニューで入力ソースを選ぶ

現在選択中の入力ソースをハイライトで表示します。

① **SOURCE SELECT**を押す。
"ソース選択"メニューを表示します。

② △▽◁ ▷を押して入力ソースを選び、**ENTER**を押す。
入力ソースを確定し、"ソース選択" メニューを終了します。

- 本機の USB 端子に接続している iPod を入力ソースに選ぶときは"USB/iPod"を選んでください。
- 使用しない入力ソースを設定すると、その入力ソースを表示しません。"使用ソースの選択"(☞71 ページ) で設定してください。
- 入力ソースを選ばずに"ソース選択" メニューを終了させる場合は、もう一度 **SOURCE SELECT** を押してください。
- **SOURCE SELECT** を押すと、自動的にアンプ操作モードに移行します (☞80 ページ)。

主音量を調節する

🔊 ▲▼ を押して、音量を調節する。

- メニューの"音量表示"（☞71 ページ）の設定により、音量の表示方式が異なります。

❑ **"音量表示"の設定（☞71 ページ）が"相対値"のとき**

【調節できる範囲】 - - - -80.5dB ～18.0dB

❑ **"音量表示"の設定（☞71 ページ）が"絶対値"のとき**

【調節できる範囲】 0.0 ～ 99.0

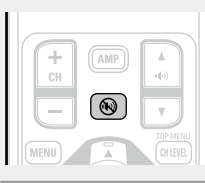
- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

本体の **MASTER VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミューティング）

🔇 を押す。

- 電源表示が緑色で点滅します。
- ディスプレイの"MUTE"表示が点灯します。
- テレビ画面に を表示します。

✎

- メニューの"ミューティングレベル"（☞71 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。
- ミューティングを解除するときは、もう一度 🔇 を押してください。ミューティング中に主音量を調節しても解除します。

ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する

ブルーレイディスクプレーヤーと DVD プレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。

① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を、本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 BD または DVD を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを再生する。

- あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

iPod を再生する

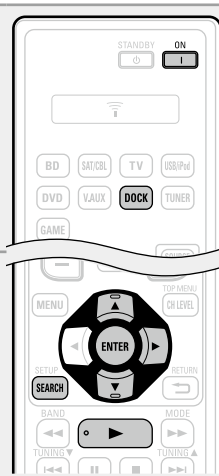
iPod の再生方法は、2 つあります。

① DENON製iPod用コントロールドックを使用して再生する方法
iPod の映像や写真、音楽の再生ができます。
② iPodをUSB端子に直接接続して再生する方法
（☞28ページ）
iPod の音楽のみ再生できます。

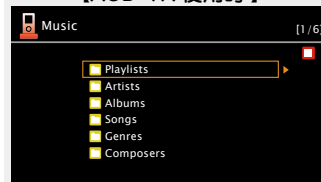
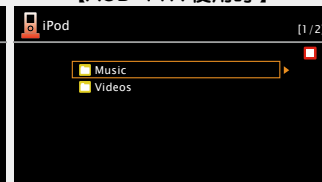
① DENON 製 iPod 用コントロールドックを使用して再生する

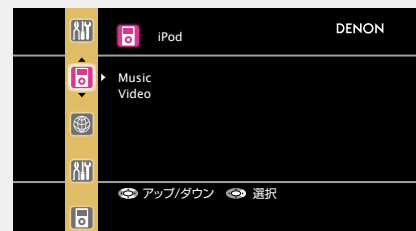
別売りの DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W）をお使いになると、iPod の映像や写真、音楽などの再生ができます。
ご使用になる iPod 用コントロールドックや、再生するファイル（Music または Video）によって再生のしかたが異なります。

❏iPod の音楽を聴く

1 再生の準備をする。
① DENON製iPod用コントロールドックに、iPodを接続する（☞14ページ「iPod用コントロールドックを接続する」）。
② iPod用コントロールドックにiPodをセットする。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 DOCK を押して、入力ソースを“DOCK”に切り替える。

- 手順 4 で“ブラウズモード”を選ぶと、接続している iPod 用コントロールドックによって次の画面を表示します。

【ASD-1R 使用時】　【ASD-11R 使用時】

【ASD-3N または ASD-3W 使用時】

- テレビを本機の VIDEO MONITOR 出力端子に接続し、テレビの入力設定を“ビデオ”に切り替えると、テレビに次の画面を表示します。

- “ブラウズモード”のとき、iPod の画面表示は右図のようになります。

ご注意
画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

4 SEARCH を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード　iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。
- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

リモートモード　iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。
- 本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	✓	✓
	写真ファイル		✓ ＊2
	ビデオファイル	✓＊1	✓ ＊2
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod		✓

＊1　DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W を使用しているときに再生できます。
＊2　DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

5 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

6 ENTER、▷ または ▶ を押す。
再生をはじめます。

☞ 次のページへ

- メニューの“iPod”（☞72 ページ）で、iPod 画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER（リストアラー）モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます（☞64 ページ）。お買い上げ時は、“Mode 3”に設定しています。
- ブラウズモードで再生中に本体の **STATUS** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

ご注意

- iPod は、**STANDBY** を押して本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。入力ソースを“DOCK”以外に切り替えて、iPod を取り外すこともできます。
- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

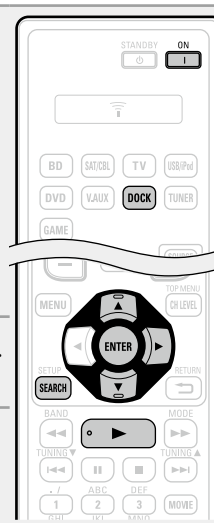
❑ブラウズモードで iPod の映像を見る

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W にビデオ機能対応の iPod を接続すると、ブラウズモードで映像ファイルを再生することができます。

ASD-11R を使用するとき

1 再生の準備をする。

① DENON製iPod用コントロールドックに、iPodを接続する（☞14ページ「iPod用コントロールドックを接続する」）。
② iPod用コントロールドックにiPodをセットする。
③ テレビを本機のVIDEO MONITOR出力端子に接続する。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 DOCK を押して、入力ソースを“DOCK”に切り替える。

4 SEARCH を 2 秒以上長押しして、“ブラウズモード”を選ぶ。

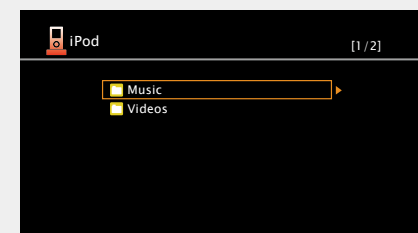
- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。
- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

リモートモード iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。
- 本機のディスプレイに“Dock Remote”を表示します。

- “ブラウズモード” のとき、iPod の画面表示は右図のようになります。

iPod
DENON
接続を解除できます。

ご注意

画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

5 △▽ を押して“Videos” を選び、ENTER または ▷ を押す。

6 △▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

7 △▽ を押して映像ファイルを選び、ENTER、▷ または ▶ を押す。

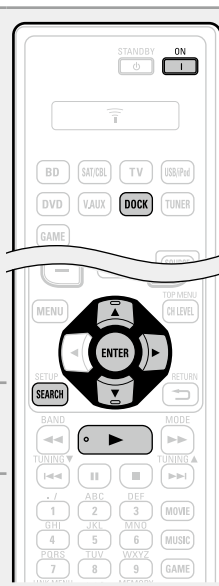
再生をはじめます。

8 テレビの入力設定を“ビデオ”に切り替える。

映像ファイルをテレビ画面に表示します。

ASD-3N または ASD-3W を使用するとき

1 再生の準備をする。
① DENON製iPod用コントロールドックに、iPodを接続する（☞14ページ「iPod用コントロールドックを接続する」）。
② iPod用コントロールドックにiPodをセットする。
③ テレビを本機のVIDEO MONITOR出力端子に接続する。
④ テレビの入力設定を“ビデオ”に切り替える。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 DOCK を押して、入力ソースを“DOCK”に切り替える。

4 SEARCH を 2 秒以上長押しして、“ブラウズモード”を選ぶ。

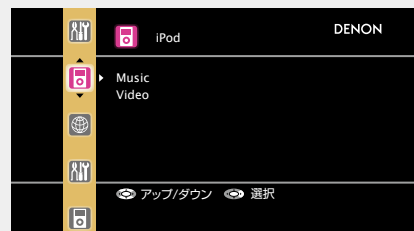
- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。
- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

リモートモード iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。
- 本機のディスプレイに“Dock Remote”を表示します。

- “ブラウズモード” のとき、iPod の画面表示は右図のようになります。

iPod
DENON
接続を解除できます。

ご注意
画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

5 △▽ を押して“Video”を選び、ENTER または ▷ を押す。

6 △▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

7 △▽ を押して映像ファイルを選び、ENTER、▷ または ▶ を押す。
再生をはじめます。

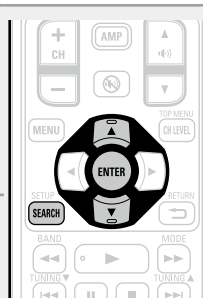
❑リモートモードで iPod の写真や映像を見る

本機では、スライドショーやビデオ機能を搭載している iPod の写真や映像を再生できます。

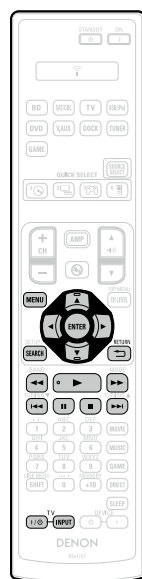
1 SEARCH を 2 秒以上長押しして、リモートモードに切り替える。
本機のディスプレイに“Dock Remote”を表示します。

2 iPod の画面を見ながら △▽ を押して、“写真” または“ビデオ” を選ぶ。

- 使用する iPod によっては、iPod 本体を直接操作する必要があります。

3 再生したい写真または映像が表示されるまで、ENTER を押す。

iPod の写真や映像をテレビに映し出すには、iPod の“スライドショー設定” または“ビデオ設定” の“TV 出力” を“オン” に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

ご注意
DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

❑iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ(頭出し、△▽)/ マニュアルサーチ(長押し、△▽)
ENTER (短押し)	確定 / 一時停止
ENTER (長押し)	停止
SEARCH (短押し)	ページ検索モード * (ASD-1R, ASD-11R のみ)
SEARCH (長押し)	ブラウズモードとリモートモードの切り替え
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶ (長押し)	マニュアルサーチ (早戻し / 早送り)
▶	再生 / 一時停止
⏮ ⏭	オートサーチ(頭出し)
❚❚	一時停止
■	停止
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ (お買い上げ時の設定:SONY)
TV INPUT	テレビの入力切り替え (お買い上げ時の設定:SONY)

- **リピート再生**(☞79 ページ"リピート")
- **シャッフル再生**(☞79 ページ"シャッフル")

＊ メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁(前のページ)または ▷(次のページ)を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を押してください。

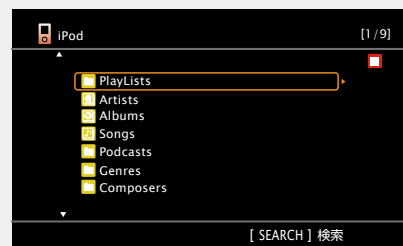
② USB 端子に iPod を直接接続して再生する

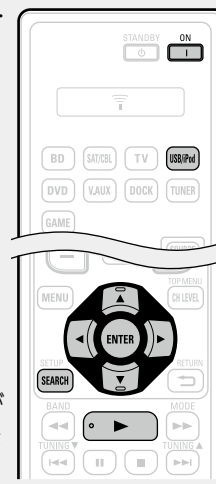
iPod に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。

- 本機は、iPod(第 5 世代以降)、iPod nano、iPod classic、iPod touch、iPhone の音声に対応しています。(iPod shuffle には対応していません。)

1 iPod に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続する(☞14 ページ「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」)。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 USB/iPod を押して、入力ソースを"USB/iPod"に切り替える。

ご注意

"iPod" が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

4 SEARCH を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。

- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、". (ピリオド)"に置き換えて表示します。

リモートモード iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。

- 本機のディスプレイに"Remote iPod"を表示します。
- 本機は、iPod の第 5 世代および iPod nano の第 1 世代には対応していません。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	✓	✓
	ビデオファイル		＊
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod		✓

＊ 音声のみ再生します。

5 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

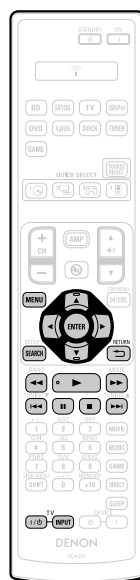
6 ENTER、▷ または ▶ を押す。
再生をはじめます。

☞ 次のページへ

- メニューの“iPod”（☞72 ページ）で、iPod 画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER（リストアラー）モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます（☞64 ページ）。お買い上げ時は、“Mode 3”に設定しています。
- ブラウズモードで再生中に本体の **STATUS** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

❑iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）/ マニュアルサーチ（長押し、△▽）
ENTER （短押し）	確定 / 一時停止
ENTER （長押し）	停止
SEARCH （短押し）	ページ検索モード ＊
SEARCH （長押し）	ブラウズモードとリモートモードの切り替え
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶ （長押し）	マニュアルサーチ （早戻し / 早送り）
▶	再生 / 一時停止
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ （お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え （お買い上げ時の設定：SONY）

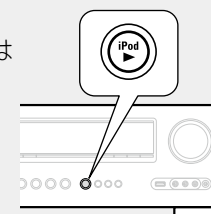
- **リピート再生**（☞79 ページ “リピート”）
- **ランダム再生**（☞79 ページ “シャッフル”）

＊ メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を 2 回押してください。

iPod 再生機能

iPod 用コントロールドックを接続しているときや iPod を USB 端子に接続しているときに、本体の **iPod ▶** を押すだけで、iPod の再生ができます。

iPod ▶ を押す。

- 本機の入力ソースが“DOCK” または “USB/iPod”に切り替わります。
- iPod の再生をはじめます。

ご注意

iPod 用コントロールドック（“DOCK”）と iPod（“USB/iPod”）の両方を接続している場合は、iPod 用コントロールドック（“DOCK”）の再生を優先します。

ラジオ放送局を受信する

アンテナの接続については、「アンテナを接続する」(☞15ページ)をご覧ください。

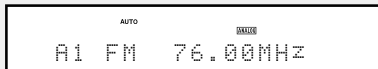
FM/AM 放送を聴く

1 TUNER を押して、入力ソースを“TUNER”に切り替える。

2 BAND を押して、“FM” または “AM”を選ぶ。

FM	FM 放送を聴くときに選びます。
AM	AM 放送を聴くときに選びます。

【テレビ画面】

【本体のディスプレイ】

3 放送局を受信する。

オートチューニング 自動で放送局を受信します。

① **MODE**を押して、ディスプレイの“AUTO”表示を点灯させる。
② **TUNING ▲**または**TUNING ▼**を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

マニュアルチューニング 手動で放送局を受信します。

① **MODE**を押して、ディスプレイの“AUTO”表示を消灯させる。
② **TUNING ▲**または**TUNING ▼**を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

- オートチューニングで聴きたい放送局を受信できない場合は、マニュアルチューニングで放送局を受信してください。
- マニュアルチューニング中に **TUNING ▲** または **TUNING ▼** を押し続けると、連続的に受信周波数が変わります。
- メニューの“Tuner”(☞72 ページ)で、チューナー画面の表示時間(お買い上げ時の設定:30 秒)を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

❑手動でラジオ放送を選局しプリセットする（マニュアルプリセット）

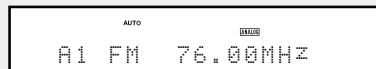
手動でお好みの放送を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

- **メニューの“オートプリセット”(☞75 ページ)をおこなうと、自動で放送局をプリセットできます。**ただし、マニュアルプリセット後に“オートプリセット”をおこなった場合、マニュアルプリセットで設定していた放送局に上書きします。

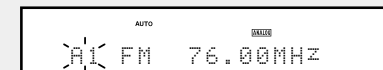
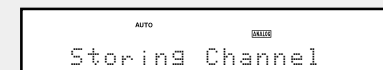
1 プリセットしたい放送局を受信する。

【テレビ画面】

【本体のディスプレイ】

A1 FM 76.00MHz

2 MEMORY を押す。

【テレビ画面】

【本体のディスプレイ】

3 SHIFT を押して、プリセットしたいブロック(A～G)とチャンネル(1 ブロックあたり 1～8)を選ぶ。そのあと、CH +, CH – または 1 ~ 8 でプリセット番号を選ぶ。

4 もう一度 MEMORY を押して、設定を確定する。

- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1～4 をおこなってください。

☞ 次のページへ

お買い上げ時の設定

ブロック（A～G）および チャンネル（1～8）	お買い上げ時の設定
A1～A8	76.00/83.00/89.00/90.00/90.00/90.00/90.00/90.00MHz
B1～B8	522/603/999/1404/1629kHz, 90.00/90.00/90.00MHz
C1～C8	90.00MHz
D1～D8	90.00MHz
E1～E8	90.00MHz
F1～F8	90.00MHz
G1～G8	90.00MHz

プリセットした放送局に名前をつける（プリセットネーム）（☞75 ページ）

❑プリセットした放送局を聴く

1 **SHIFT を押して、プリセットしたブロック（A～G）を選ぶ。**

2 **CH +, CH – または 1 ~ 8 でプリセットしたチャンネルを選ぶ。**

本体で操作する場合は、次の手順でおこなってください。

① **SHIFT**を押してプリセットしたブロック（A～G）を選ぶ。

② **TUNER PRESET CH +** または **TUNER PRESET CH –** を押して、プリセットした放送局を選ぶ。

❑ダイレクトに放送局を受信する

ダイレクトに周波数を入力し、放送局を受信します。

1 **SEARCH を押す。**

2 **0 ~ 9 を押して、周波数を入力する。**

- ◁ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。

3 **入力が完了したら、ENTER を押す。**

放送局を受信します。

☞ 次のページへ

❏FM/AM 放送を受信時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
CH +, –	プリセットチャンネルの選択
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH	ダイレクト選局
RETURN ⮌	リターン
BAND	FM/AM 受信バンドの切り替え
MODE	サーチモードの切り替え
TUNING ▲▼	選局（アップ / ダウン）
0 ~ 9	プリセットチャンネルの選択（1 ～ 8）/ ダイレクト選局（0 ～ 9）
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	プリセットチャンネルの登録
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

USB メモリーを再生する

USB メモリーに保存されている音楽ファイルを再生することができます。

知っておいてほしいこと

❑再生可能なファイル数およびフォルダ数

項目＼メディア	USB メモリー
フォルダの階層数	8 段階
フォルダ数	2000
ファイル数	6000

- 再生可能な数にはルートフォルダを含みます。

❑USB メモリーについて

本機の USB 端子に USB メモリーを接続すると、USB メモリーに保存された音楽ファイルを再生することができます。

- 本機は、マスストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーのフォーマットは、FAT16 または FAT32 に対応しています。

【各機能で再生できるファイルの種類】

	USB メモリー *1
WMA (Windows Media Audio)	✓*2
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓
MPEG-4 AAC	✓*3

*1 USB メモリーについて
- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.*)に対応しています。
- WMA META タグに対応しています。

*2 MTP に対応した一部のポータブルプレーヤーは、著作権保護のあるファイルを再生できます。

*3 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

【再生できるファイルの仕様】

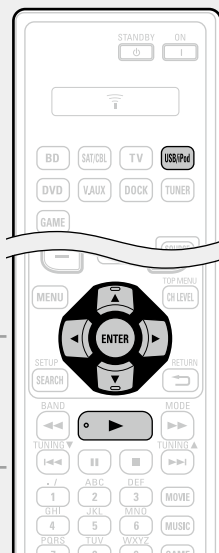
	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48 kHz	48～192 kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48 kHz	32～320 kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48 kHz	16～320 kbps	.aac/.m4a/.mp4

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

1 USB メモリーを USB 端子に接続する（☞14 ページ「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。

2 **USB/iPod を押して入力ソースを“USB/iPod”に切り替える。**

3 **△▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER、▷ または ▶ を押す。**
再生をはじめます。

- メニューの“USB”（☞72 ページ）で、表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER（リストアラー）モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞64 ページ）。お買い上げ時は、“Mode 3” に設定しています。
- USB メモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭のパーティションのみを選べます。
- 本機で対応している MP3 ファイルの規格は、「MPEG-1 Audio Layer-3」です。

ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。

❑USB メモリー再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁ ▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER （短押し）	確定 / 一時停止
ENTER （長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード *
RETURN ⮌	リターン
▶	再生 / 一時停止
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
⏸	一時停止
■	停止
1 ~ 8	プリセットチャンネルの選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
TV I/⏻	テレビ電源オン / スタンバイ （お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビ入力切り替え （お買い上げ時の設定：SONY）

- **リピート再生**（☞79 ページ “リピート”）
- **ランダム再生**（☞79 ページ “シャッフル”）

＊ メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を 2 回押してください。

リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）

本機は、本機に入力される音声信号を、マルチチャンネルサラウンドやステレオで再生することができます。
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください。

リスニングモードを選ぶ

1 機器を再生する（☞24～33 ページ）。

2 **MOVIE**、**MUSIC**、**GAME** または **DIRECT** を押して、リスニングモードを選ぶ。

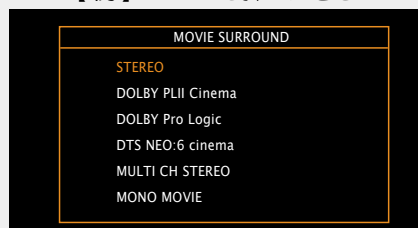
MOVIE リスニングモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。

MUSIC リスニングモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。

GAME リスニングモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

DIRECT リスニングモードをダイレクトモードに切り替えます。ダイレクトモードでは、ソースに収録されている音声をそのまま再生します。

- **MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** を押すと、それぞれのモードの選択できるリスニングモードを表示します。**MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** を押すたびに、リスニングモードが切り替わります。
- この一覧を表示中に Δ∇ でリスニングモードを選択することもできます。

【例】**MOVIE** を押したとき

❑リスニングモード

- **MOVIE**、**MUSIC**、**GAME** または **DIRECT** ボタンで下記のリスニングモードが選べます。
- メニューの"サラウンドパラメーター"（☞60 ページ）で音場効果を調節すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。

MOVIE

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MOVIE	2 チャンネル *1		STEREO
			DOLBY PLIIx Cinema*2
			DOLBY PLII Cinema*2
			DOLBY Pro Logic*2
			DTS NEO:6 Cinema*2
			DOLBY PLIIz Height*2
			MULTI CH STEREO
			MONO MOVIE
			VIRTUAL
	マルチチャンネル *3		STEREO
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL
			DOLBY DIGITAL EX
			DOLBY DIGITAL + PLIIx Cinema
			DOLBY DIGITAL + PLIIz
		Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD
			DOLBY TrueHD + EX
			DOLBY TrueHD + PLIIx Cinema
			DOLBY TrueHD + PLIIz
		Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus
			DOLBY DIGITAL Plus + EX
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx Cinema
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz
		DTS	DTS SURROUND
			DTS ES DSCRT 6.1
			DTS ES MTRX 6.1
			DTS 96/24
			DTS + NEO:6
			DTS + PLIIx Cinema
			DTS + PLIIz

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MOVIE		DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES
			DTS-HD MSTR
			DTS Express
			DTS-HD + NEO:6
			DTS-HD + PLIIx Cinema
			DTS-HD + PLIIz
		PCM マルチチャンネル	MULTI CH IN
			MULTI CH IN 7.1
			MULTI IN + Dolby EX
			MULTI IN + PLIIx Cinema
			MULTI IN + PLIIz
		MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
			AAC + Dolby EX
			AAC + PLIIx Cinema
			AAC + PLIIz
	マルチチャンネル *3		MULTI CH STEREO
			MONO MOVIE
			VIRTUAL

*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
*2 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」（☞97 ページ）をご覧ください。

☞ 次のページへ

基本編
応用編
情報編

MUSIC

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MUSIC	2 チャンネル *1		STEREO
			DOLBY PLIIx Music *2
			DOLBY PLII Music *2
			DTS NEO:6 Music *2
			DOLBY PLIIz Height *2
			MULTI CH STEREO
			ROCK ARENA
			JAZZ CLUB
			MATRIX
			VIRTUAL
	マルチチャンネル *3		STEREO
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL
			DOLBY DIGITAL EX
			DOLBY DIGITAL + PLIIx Music
			DOLBY DIGITAL + PLIIz
		Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD
			DOLBY TrueHD + EX
			DOLBY TrueHD + PLIIx Music
			DOLBY TrueHD + PLIIz
		Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus
			DOLBY DIGITAL Plus + EX
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx Music
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz
		DTS	DTS SURROUND
			DTS ES DSCRT 6.1
			DTS ES MTRX 6.1
			DTS 96/24
			DTS + NEO:6
			DTS + PLIIx Music
			DTS + PLIIz

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MUSIC		DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES
			DTS-HD MSTR
			DTS Express
			DTS-HD + NEO:6
			DTS-HD + PLIIx Music
			DTS-HD + PLIIz
		PCM マルチチャンネル	MULTI CH IN
			MULTI CH IN 7.1
			MULTI IN + Dolby EX
			MULTI IN + PLIIx Music
			MULTI IN + PLIIz
		MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC
			AAC + Dolby EX
			AAC + PLIIx Music
			AAC + PLIIz
	マルチチャンネル *3		MULTI CH STEREO
			ROCK ARENA
			JAZZ CLUB
			MATRIX
			VIRTUAL

*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
*2 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」(☞97 ページ) をご覧ください。

☞ 次のページへ

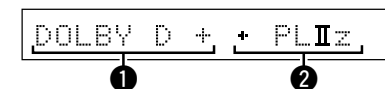
GAME

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
GAME	2 チャンネル ＊1	STEREO
		DOLBY PLⅡx Game ＊2
		DOLBY PLⅡ Game ＊2
		DOLBY PLⅡz Height ＊2
		MULTI CH STEREO
		VIDEO GAME
		VIRTUAL
	マルチチャンネル ＊3	STEREO
	Dolby Digital	DOLBY DIGITAL
		DOLBY DIGITAL EX
		DOLBY DIGITAL ＋ PLⅡz
	Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD
		DOLBY TrueHD ＋ EX
		DOLBY TrueHD ＋ PLⅡz
	Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus
		DOLBY DIGITAL Plus ＋ EX
		DOLBY DIGITAL Plus ＋ PLⅡz
	DTS	DTS SURROUND
		DTS ES DSCRT 6.1
		DTS ES MTRX 6.1
		DTS 96/24
		DTS ＋ NEO:6
		DTS ＋ PLⅡz
	DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES
		DTS-HD MSTR
		DTS Express
		DTS-HD ＋ NEO:6
		DTS-HD ＋ PLⅡz
	PCM マルチチャンネル	MULTI CH IN
		MULTI CH IN 7.1
		MULTI IN ＋ Dolby EX
		MULTI IN ＋ PLⅡz
	MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC
		AAC ＋ Dolby EX
		AAC ＋ PLⅡz
	マルチチャンネル ＊3	MULTI CH STEREO
		VIDEO GAME
		VIRTUAL

＊1　2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
＊2　2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
＊3　入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」(☞97 ページ) をご覧ください。

DIRECT

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
DIRECT	すべて	DIRECT

❏テレビ画面およびディスプレイの表示について

❶ 使用するデコーダーをあらわします。
- DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは、“DOLBY D +” と表示します。

❷ サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成するデコーダーをあらわします。
- “＋ PLⅡz” はフロントハイトスピーカーからのフロントハイト音声をあらわします。

AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ” になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

☞ 次のページへ

❏リスニングモードの種類について

ドルビーリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DOLBY PLⅡx*1	Dolby PLⅡx デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルによって、Dolby Pro Logic Ⅱ に比べ、より包囲感が向上します。 映画再生に適した“Cinema” モード、音楽再生に適した“Music” モードおよびゲームに最適な“Game” モードがあります。
DOLBY PLⅡ	Dolby PLⅡ デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを自然で臨場感のある 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを 4.1 チャンネル(フロント左 / センター / フロント右 / サラウンドモノ)のサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY PLⅡz*2	Dolby PLⅡz デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントハイトチャンネルを加えた 7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 フロントハイトチャンネルの追加によって、垂直方向の表現が豊かになり、立体感が向上します。
DOLBY DIGITAL	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL EX*1	Dolby Digital EX デコーダーを使用して、Dolby Digital ソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルが加わることにより、空間表現力や定位感が向上します。
DOLBY TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。

*1 メニューの“スピーカー構成” ⇨“サラウンドバック” 設定(☞67 ページ) が“無し” 以外のときに選べます。
*2 メニューの“スピーカー構成” ⇨“フロントハイト” 設定(☞68 ページ) が“無し” 以外のときに選べます。

DTS リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DTS NEO:6	DTS NEO:6 デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを含んだ 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 映画再生に適した“Cinema” モードと、音楽再生に適した“Music” モードがあります。
DTS SURROUND	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES DSCRT6.1*	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリート方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。 すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES MTRX6.1*	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードにより、サラウンド左 / サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを、本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。

* メニューの“スピーカー構成” ⇨“サラウンドバック” 設定(☞67 ページ) が“無し” 以外のときに選べます。

PCM マルチチャンネルリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH IN	このモードは、マニュアルチャンネルの PCM ソースを入力しているときに選べます。

AAC リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

☞ 次のページへ

基本編
応用編
情報編

DENON オリジナルサラウンドモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH STEREO	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。 フロントスピーカー（左 / 右）と同じ音声を、サラウンドスピーカー（左 / 右）およびサラウンドバックスピーカー（左 / 右）から同じレベルでそれぞれ再生します。
ROCK ARENA	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
JAZZ CLUB	ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
MONO MOVIE	モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。 モノラル録音ソースを“MONO MOVIE” モードで再生する場合、片チャンネル（左または右）では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。
VIDEO GAME	ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。
MATRIX	ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
VIRTUAL	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

ステレオリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
STEREO	音質調節ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。 • フロントスピーカー（左 / 右）とサブウーハーから音声を出力します。 • マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DIRECT	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。 • サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。

ダイレクトリスニングモードのとき、次の設定ができません。

- トーンコントロール（☞62 ページ）
- MultEQ®（☞63 ページ）
- Dynamic EQ®（☞63 ページ）
- Dynamic Volume®（☞63 ページ）
- RESTORER（リストアラー）（☞64 ページ）

応用編

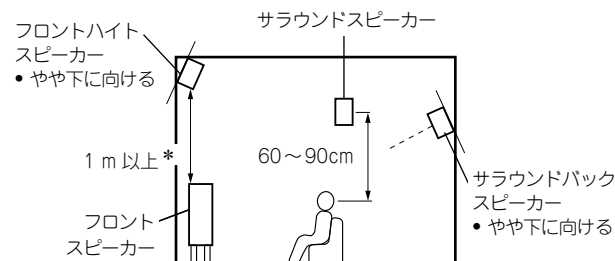
ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

スピーカーを設置 / 接続 / 設定する（応用接続）

ここでは、5.1 チャンネルスピーカー以外の設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。5.1 チャンネルスピーカーの設置 / 接続 / 設定方法は、8 ページ「セットアップウィザード」をご覧ください。
本機の Audyssey® オートセットアップで、接続しているスピーカーの本数を検出し、ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

設置

本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Dolby Pro Logic IIz（101 ページ）に対応しています。
Dolby Pro Logic IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

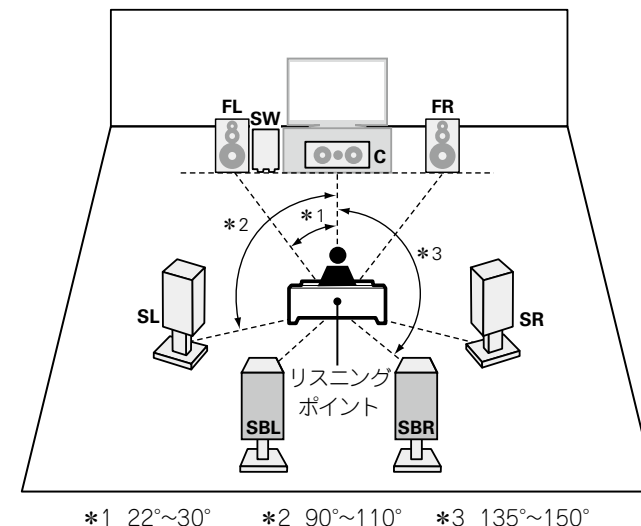
サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60～90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

【側面から見た図】

* Dolby Pro Logic IIz 推奨

ご注意

サラウンドバックスピーカーとフロントハイトスピーカーを同時に使用することはできません。

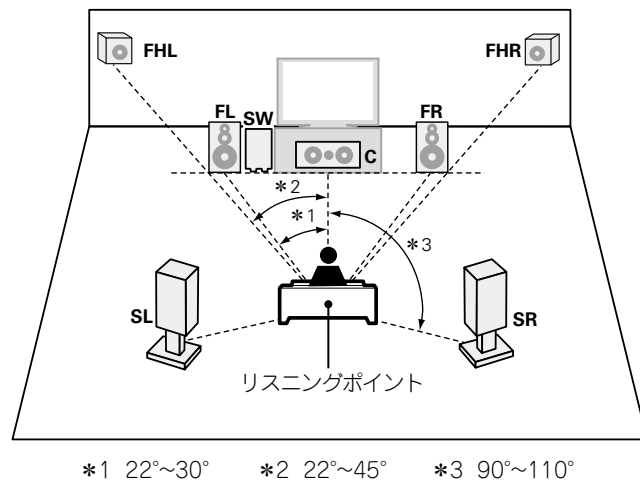
サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

＊1 22°～30°　＊2 90°～110°　＊3 135°～150°

【各スピーカーの呼称について】

FL	フロントスピーカー（左）	**SL**	サラウンドスピーカー（左）
FR	フロントスピーカー（右）	**SR**	サラウンドスピーカー（右）
C	センタースピーカー	**SBL**	サラウンドバックスピーカー（左）
SW	サブウーハー	**SBR**	サラウンドバックスピーカー（右）

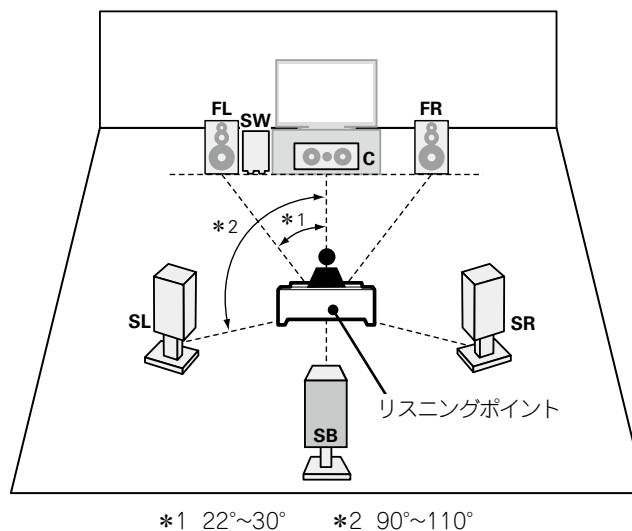
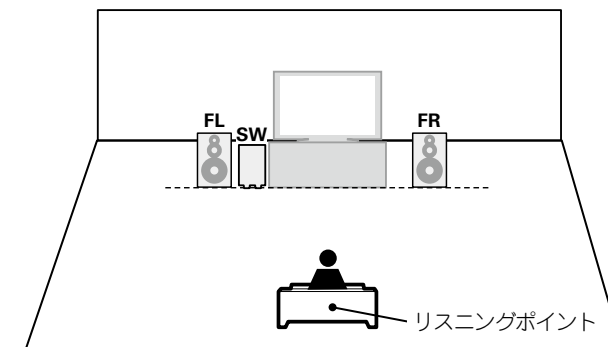
次のページへ

フロントハイトスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

＊1 22°~30°　＊2 22°~45°　＊3 90°~110°

【各スピーカーの呼称について】

FL	フロントスピーカー（左）	**SL**	サラウンドスピーカー（左）
FR	フロントスピーカー（右）	**SR**	サラウンドスピーカー（右）
C	センタースピーカー	**SB**	サラウンドバックスピーカー
SW	サブウーハー	**FHL**	フロントハイトスピーカー（左）
		FHR	フロントハイトスピーカー（右）

6.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

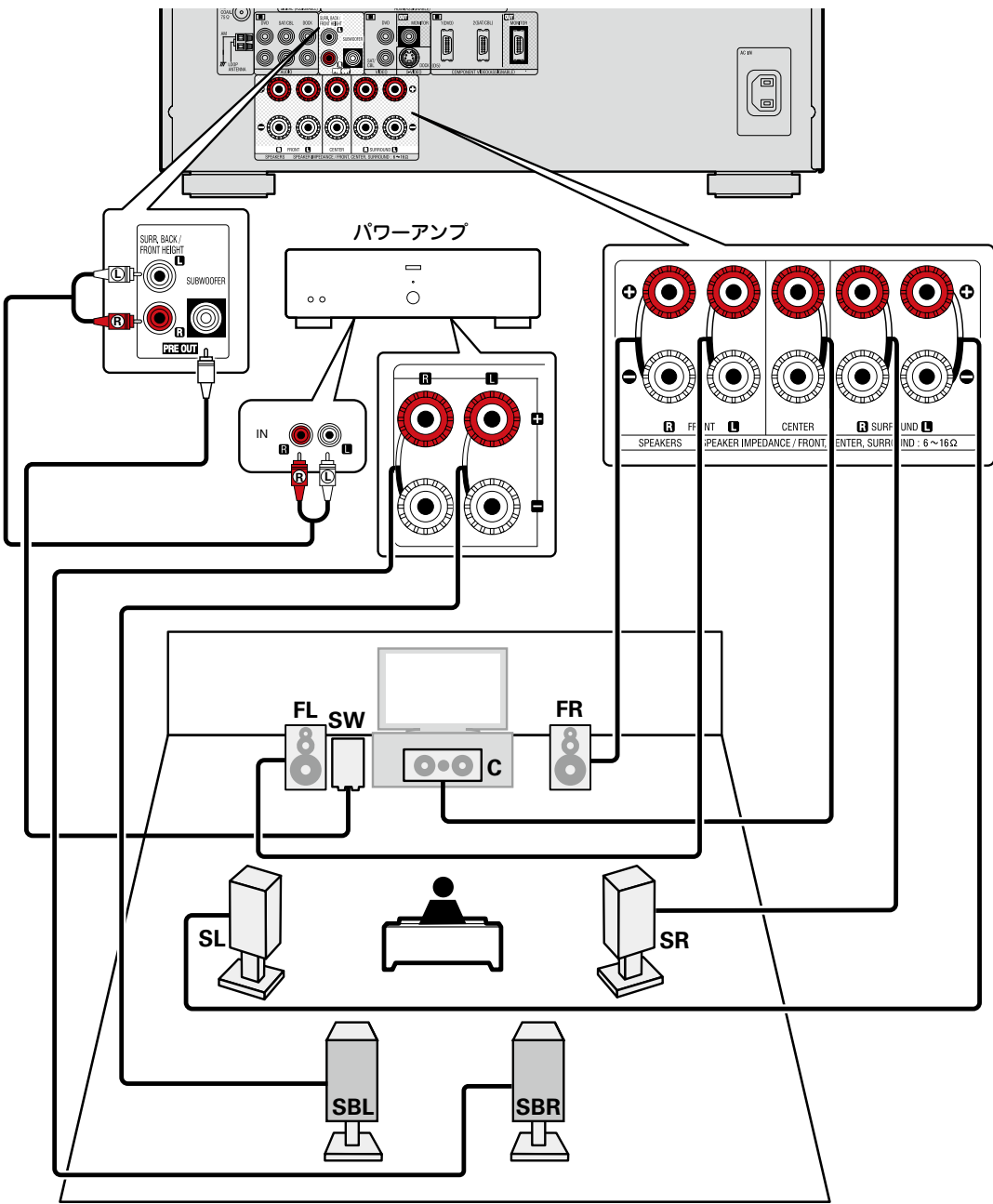
＊1 22°~30°　＊2 90°~110°

2.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

- 5.1 チャンネルスピーカーの接続方法については、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。
- テレビの接続方法は、7 ページ「HDMI ケーブル(別売り)で本機とテレビを接続する」をご覧ください。

サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

右図は、サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1 チャンネルの再生をおこなうときの接続例です。
サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルの再生をおこなう場合は、「"プリアウトの割り当て" の設定」(47 ページ) の手順 3、4 で、"プリアウトの割り当て" を "NORMAL" に設定してください。

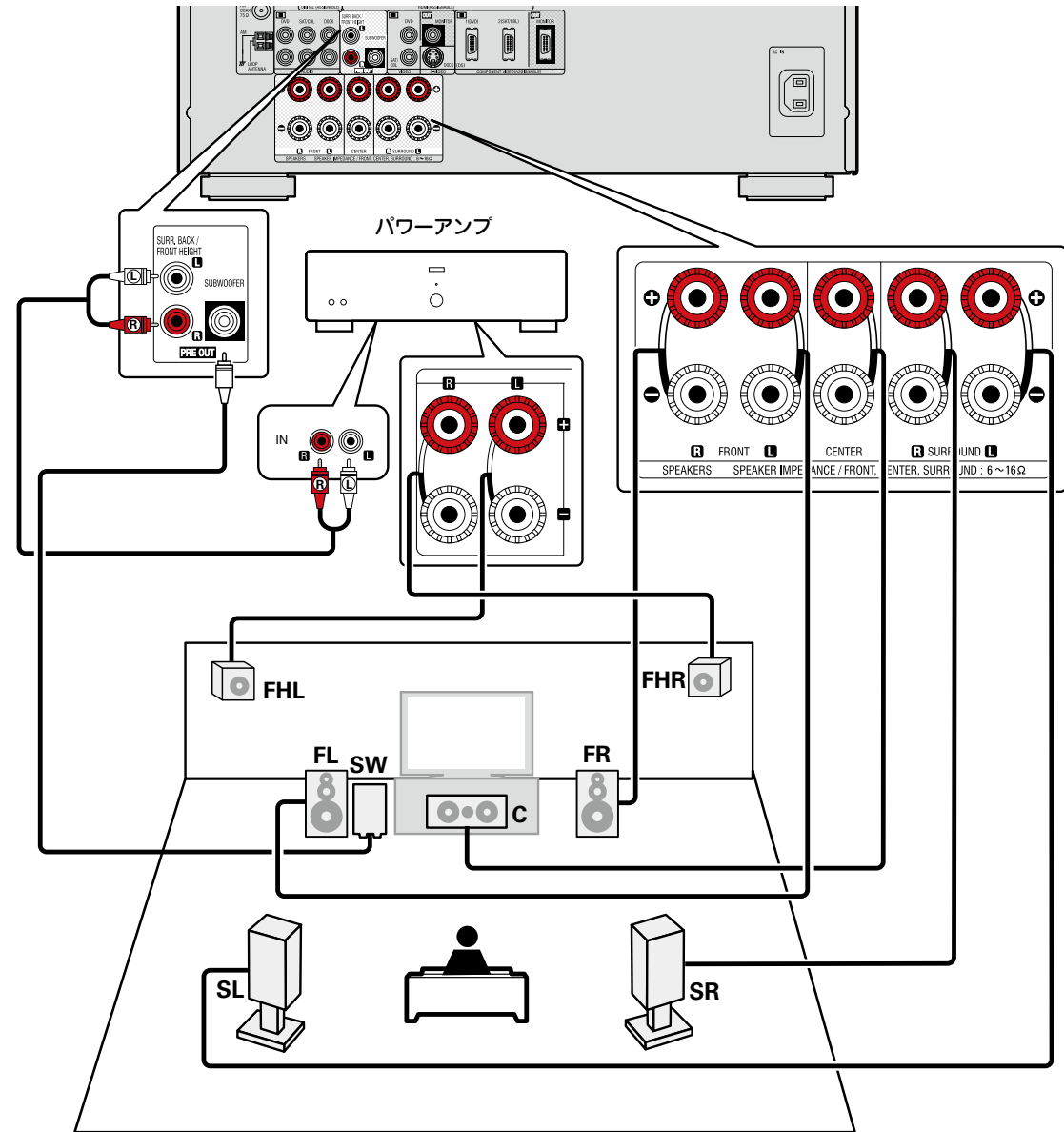
ご注意

- 接続には別売りのパワーアンプが必要です。
- **スピーカーケーブルの接続方法については、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。**
- **スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやネジに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します(102 ページ「保護回路」)。**
- **通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。(ただし、セットアップウィザード(8 ページ)中はセットアップウィザードの指示に従って接続してください。)**
- **接続するスピーカーは次のインピーダンスのものをご使用ください。**

ご使用になるスピーカー端子	スピーカーインピーダンス
FRONT	6～16 Ω
CENTER	
SURROUND	

フロントハイトスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

右図は、フロントハイトスピーカーを使用して、7.1 チャンネルの再生をおこなうときの接続例です。
フロントハイトスピーカースピーカーを使用して 7.1 チャンネルの再生をおこなう場合は、「"プリアウトの割り当て" の設定」(☞47 ページ) の手順 3、4 で、"プリアウトの割り当て" を "F.HEIGHT" に設定してください。

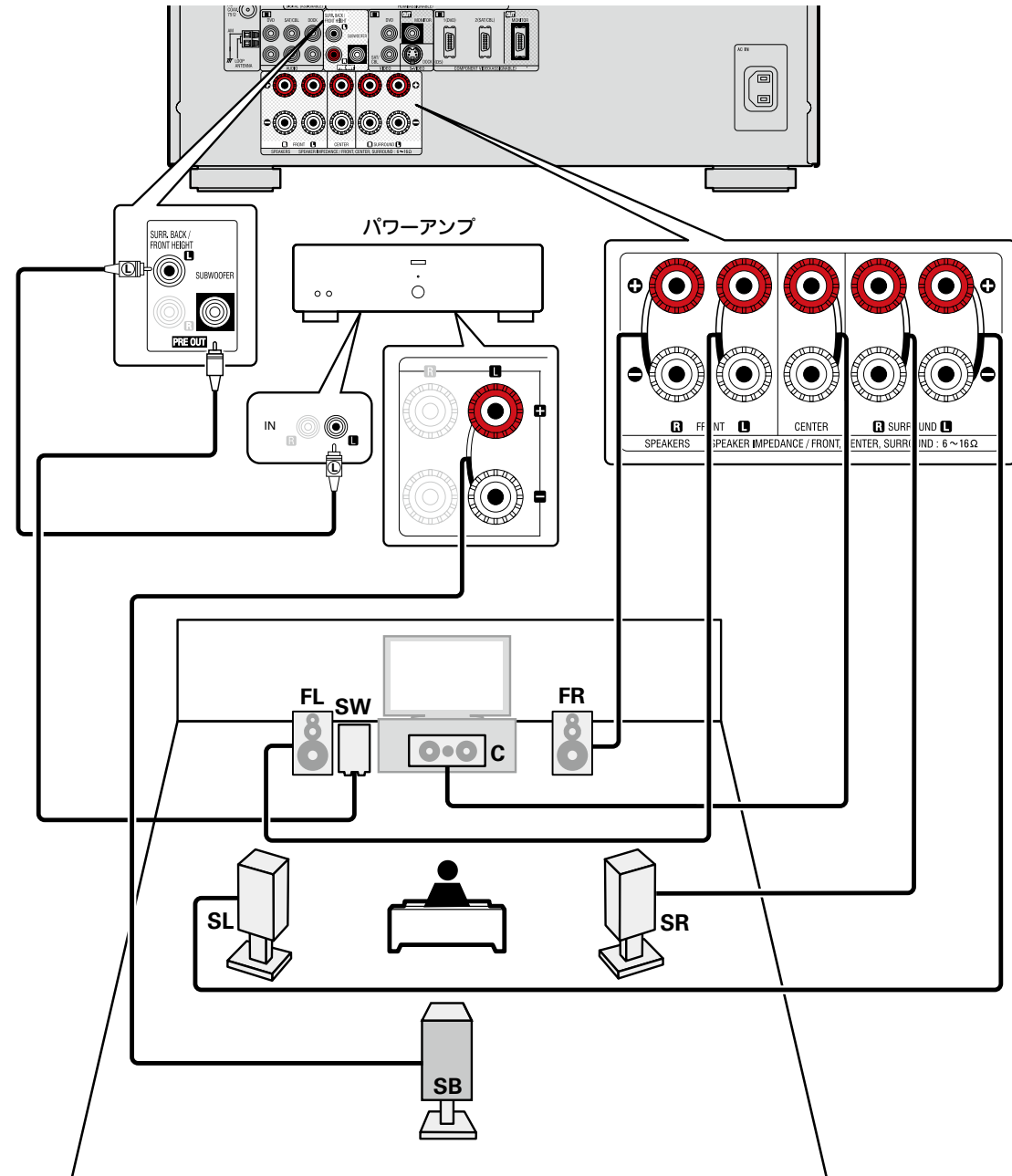
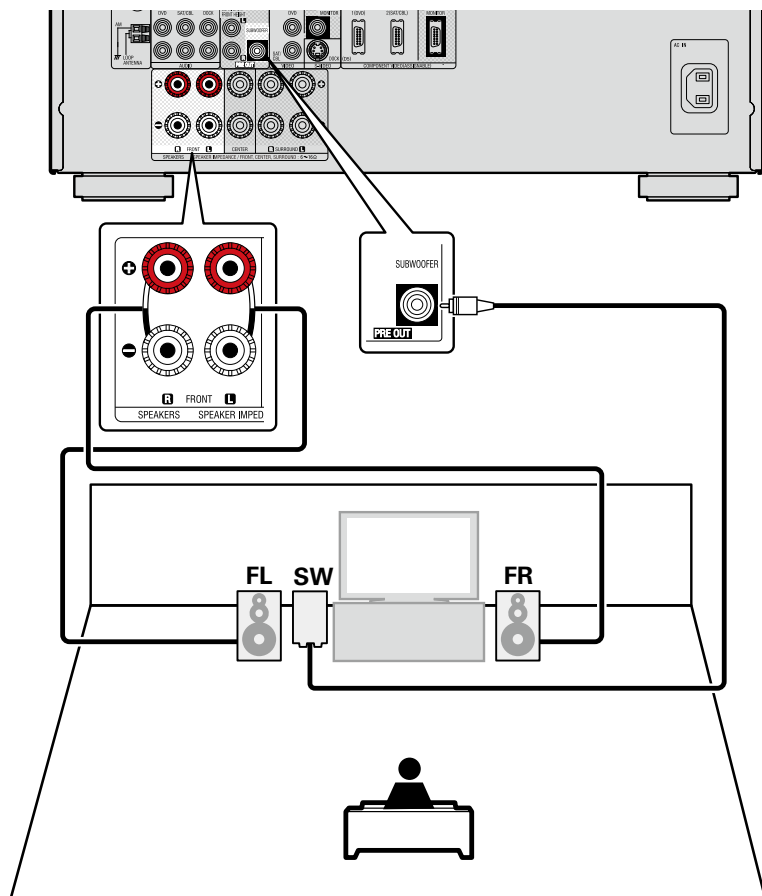
ご注意

- 接続には別売りのパワーアンプが必要です。
- **スピーカーケーブルの接続のしかたについては、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。**
- **スピーカーインピーダンスについては、43 ページをご覧ください。**

1本のサラウンドバックスピーカーを使用して6.1チャンネルのスピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーを1本だけ使用する場合は、SURR. BACK/FRONT HEIGHT端子の"L"側に接続してください。このときのスピーカー設置については、「6.1チャンネルのスピーカーを設置するとき」(☞42ページ)をご覧ください。

サラウンドバックスピーカーを使用して6.1チャンネルの再生をおこなう場合は、「"プリアウトの割り当て"の設定」(☞47ページ)の手順3、4で、"プリアウトの割り当て"を"NORMAL"に設定してください。また、メニューの"スピーカー構成"設定(☞67ページ)で、"サラウンドバック"を"1台"に設定してください。

ご注意

- 接続には別売りのパワーアンプが必要です。
- **スピーカーケーブルの接続のしかたについては、10ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。**
- **スピーカーインピーダンスについては、43ページをご覧ください。**

2.1 チャンネルのスピーカーを接続する

ご注意

- スピーカーケーブルの接続のしかたについては、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。
- スピーカーインピーダンスについては、43 ページをご覧ください。

基本編
応用編
情報編

スピーカーを設定する

ここでは、5.1 チャンネル以外の設定方法を説明しています。
5.1 チャンネルのスピーカーの設定方法は、 **8 ページ「セットアップウィザード」をご覧ください。**

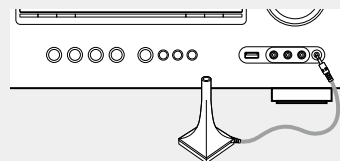
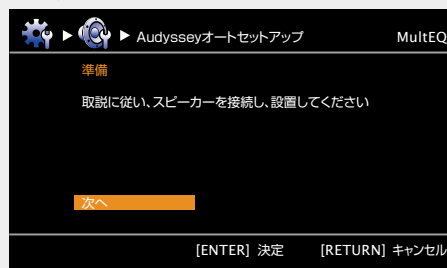
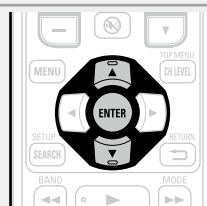
あらかじめスピーカーを設置し、本機とスピーカーを接続してください。

"Audyssey® オートセットアップ"の測定前に、次の設定をおこなうことができます。

- プリアウトの割り当てを変更する（"プリアウトの割り当て"）
  PRE OUT の SURR.BACK/FRONT HEIGHT 端子から出力する信号をご使用になるスピーカー環境に合わせて切り替えて出力することができます（47 ページ「"プリアウトの割り当て"の設定」）。
- 使用するチャンネルを設定する（"チャンネルセレクト"）
  使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サブウーハーやサラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます（48 ページ「"チャンネルセレクト"の設定」）。

1 リモコンの設定

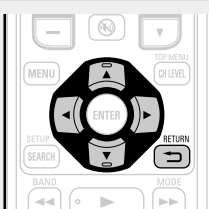
❏ 操作モードの設定

AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

2 セットアップマイクを接続する。

3 "次へ"を選び、ENTER を押す。

4 "プリアウトの割り当て"の設定

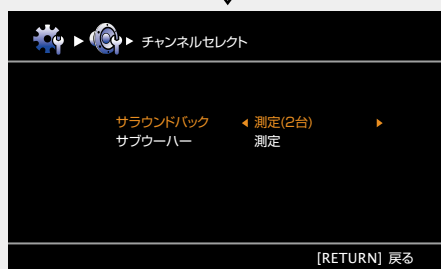
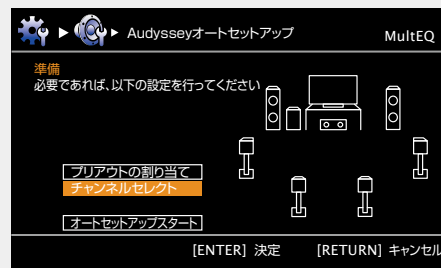
△▽ を押して"プリアウトの割り当て"を選び ENTER を押す。

次のページへ

5 ◁ ▷ を押して、接続したスピーカーの構成を選ぶ。

NORMAL	PRE OUT の SURR.BACK/FRONT HEIGHT 端子に別売りのパワーアンプを接続してサラウンドバックスピーカーを使用するときに選びます。
F.HEIGHT	PRE OUT の SURR.BACK/FRONT HEIGHT 端子に別売りのパワーアンプを接続してフロントハイトスピーカーを使用するときに選びます。

6 RETURN を押して、"プリアウトの割り当て"の設定を終了する。

7 "チャンネルセレクト"の設定

△▽ を押して"チャンネルセレクト"を選び、ENTER を押す。

8 △▽ を押してチャンネルを選ぶ。

サラウンドバック	使用するサラウンドバックスピーカーの本数を選択します。この場合、手順 9 へ進んでください。 • "サラウンドバック"は、メニューの"プリアウトの割り当て"の設定が"NORMAL"のときに設定できます。
サブウーハー	使用するサブウーハーを測定するかしないか選択します。この場合、手順 10 へ進んでください。

9 ◁ ▷ でサラウンドバックチャンネルを測定するか設定する。

測定(2台)	サラウンドバックスピーカーを 2 台測定するときに設定します。
測定(1台)	サラウンドバックスピーカーを 1 台測定するときに設定します。
スキップ	サラウンドバックスピーカーを測定しないときに設定します。

10 ◁ ▷ でサブウーハーチャンネルを測定するか設定する。

測定	サブウーハーを測定するときに設定します。
スキップ	サブウーハーを測定しないときに設定します。

11 RETURN を押す。

18 ページの ステップ 1 準備 手順 6 へ進む。

ご注意

Audyssey® オートセットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey® オートセットアップをおこなってください。

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

❑HDMI コントロールでできること

- **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**
- **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**
- **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**
- **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**
- **本機の入力ソースを“TV”にすると、テレビの音声を本機で再生できます（☞10 ページ「ARC（Audio Return Channel）機能について」）。**
- **メニューの“HDMI コントロール”（☞70 ページ）を“オン”に設定している場合、本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します（パススルー機能）。**

✎

- ARC 機能に対応していないテレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください（☞12 ページ）。
- パススルー機能を使用するには、HDMI コントロール対応の HDMI 接続機器を接続してください。

❑設定のしかた

1. **本機の HDMI コントロール機能を有効にする。**
   メニューの“HDMI コントロール”（☞70 ページ）を“オン”に設定してください。
2. **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。**
3. **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**
   - 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
   - いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。
4. **テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。**
5. **本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。**
6. **テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。**

✎

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。
- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの“HDMI コントロール”設定（☞70 ページ）が“オン”になっているか。
- メニューの“パワーオフコントロール”設定（☞70 ページ）が“全て”または“ビデオ”になっているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

☞ 次のページへ

ご注意

- **メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの“パワーオフコントロール”（☞70 ページ）を“オフ”に設定している場合は、接続している機器の電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- メニューの“HDMI コントロール”（☞70 ページ）を“オン”に設定している場合は、“入力端子の割り当て”（☞76 ページ）の設定で“TV”に HDMI 端子を割り当てることはできません。
- 次の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。
  - メニューの“入力端子の割り当て”⇨“HDMI”設定（☞76 ページ）の変更
  - HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

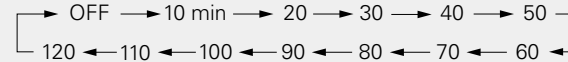
スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。

SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

ディスプレイの **SLEEP** 表示が点灯します。

- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。

OFF → 10 min → 20 → 30 → 40 → 50 → 60 → 70 → 80 → 90 → 100 → 110 → 120 → OFF

スリープタイマーの残り時間を確認するには

SLEEP を押す。

ディスプレイに“Sleep：＊min”を表示します。

＊ 残り時間

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“OFF”を選ぶ。

ディスプレイの **SLEEP** 表示が消灯します。

本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

チャンネルレベルを調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節ができます。

❏スピーカーごとにチャンネルレベルを調節する

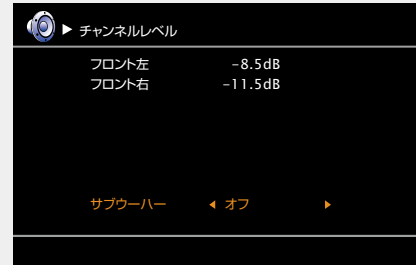
1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **CH LEVEL を押す。**

3 **△▽ を押して、調節するスピーカーを選ぶ。**

• ボタンを押すたびに、チャンネルが切り替わります。

4 **◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。**

• 2 チャンネルの DIRECT または STEREO モードで再生しているときは、サブウーハーの出力をダイレクトに“オフ”にすることができます。
“サブウーハー” を選び、◁ ▷ を押して“オン” または“オフ”を選んでください。

PHONES 端子にヘッドホンプラグを挿入しているときは、ヘッドホン用のチャンネルレベルを調節できます。

❏チャンネルレベルをまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / フロントハイトスピーカー / センタースピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のスピーカーの音量バランスを調節します。

1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **CH LEVEL を押す。**

3 **▽ を押して“フェーダー” を選び、◁ ▷ を押して調節するチャンネル（“フロント” または“リア”）を選ぶ。**

4 **◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。**
（◁：フロント側、▷：リア側）

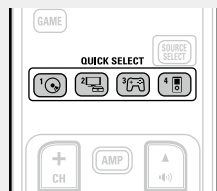
• フェーダー機能は、サブウーハーチャンネルにははたらきません。
• 一番小さい値に調節されているスピーカーの音量が、-12dB になるまで調節できます。

基本編
応用編
情報編

クイックセレクト機能

手順 1 の設定内容をまとめて記憶させることができます。
- よく使う設定を **QUICK SELECT 1**～**4** ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。

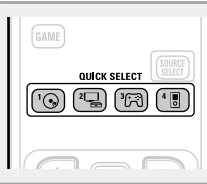
❑記憶のさせかた

1 **次の内容を記憶させたい状態に設定する。**
① 入力ソース(☞23ページ)
② 音量(☞24ページ)
③ サラウンドモード(☞35ページ)
④ ビデオセレクト(☞77ページ)
⑤ Audyssey設定
(Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®)(☞63ページ)

2 **ディスプレイに"Memory" が表示されるまで、QUICK SELECT を長押しする。**
現在の設定を記憶します。

【 お買い上げ時の設定 】

記憶させるボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	BD	-40dB
QUICK SELECT 2	SAT/CBL	-40dB
QUICK SELECT 3	GAME	-40dB
QUICK SELECT 4	USB/iPod	-40dB

❑呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT を押す。

クイックセレクト名を変更するには

本機では、メニュー画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更することができます。
変更のしかたは、メニューの"クイックセレクトネーム"(☞72 ページ)をご覧ください。

本体の **QUICK SELECT** を押しても、リモコンと同じように操作できます。

ご注意

メニューの"使用ソースの選択"(☞71 ページ)で、クイックセレクト機能に記憶させている入力ソースを削除すると、そのクイックセレクトの設定も削除されます。このような場合は、もう一度クイックセレクト機能に記憶させてください。

各種メモリー機能

❑パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、HDMI 出力モード、サラウンドモード、MultEQ®、Dynamic EQ®、Dynamic Volume® やオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。

サラウンドパラメーター、トーンコントロールの設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

❑ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

詳細設定のしかた

メニュー一覧

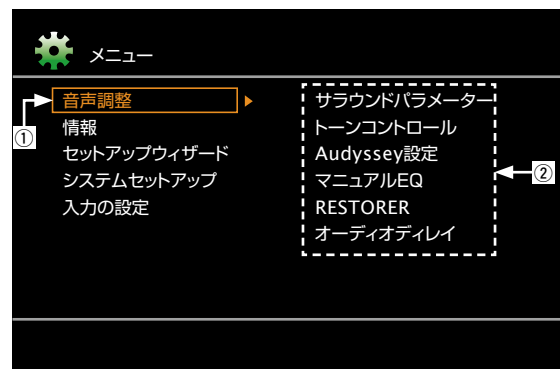
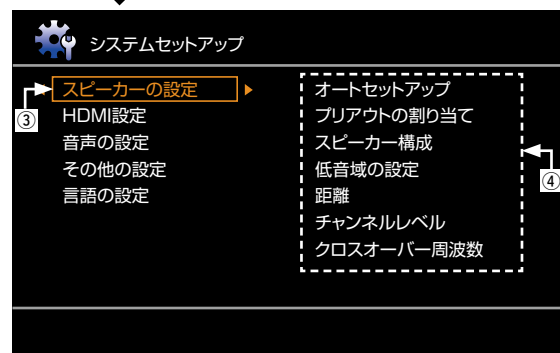
メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続(☞10 ページ)し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
メニューの操作のしかたは、下表の参照ページをご覧ください。

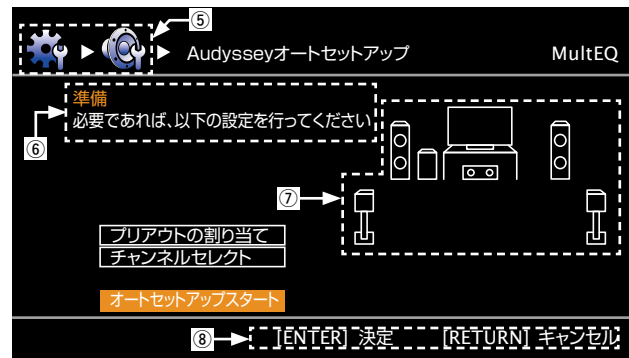
一度だけ設定すればよい項目
お買い上げ時などに設定してください。 一度設定していただくと、接続するスピーカーやスピーカーの設置を変更しない限り、設定の必要がありません。

設定項目	詳細項目	内　容	参照ページ
音声調整	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	60
	トーンコントロール	トーンを調節します。	62
	Audyssey 設定	Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume® の設定をします。	63
	マニュアル EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	64
	RESTORER (リストアラー)	MP3、WMA(Windows Media Audio)や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	64
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	64
情報	現在の設定	現在の設定状態を表示します。	65
	音声入力信号	音声入力信号の情報を表示します。	65
	HDMI 情報	HDMI の入出力信号やテレビの情報を表示します。	65
	オートサラウンドモード	オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	65
	クイックセレクト	クイックセレクト機能で記憶している内容を表示します。	65
	プリセットチャンネル	チューナーのプリセットチャンネル情報を表示します。	65
セットアップウィザード		テレビ画面の案内に沿って基本的な設置 / 接続 / 設定をおこないます。	📖 8
システムセットアップ	スピーカーの設定	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	67
	HDMI 設定	HDMI の映像 / 音声出力に関する設定をします。	70
	音声の設定	音声の再生に関する設定をします。	71
	その他の設定	その他の設定をします。	71
	言語の設定	テレビ画面に表示する言語を設定します。	73
入力の設定 ✎ "入力の設定" メニューは、選択している入力ソースによって、表示内容が異なります。	オートプリセット	自動で FM 放送局をプリセットします。	75
	プリセットスキップ	選局するとき、スキップしたい放送局をあらかじめ設定します。	75
	プリセットネーム	プリセットした放送局の表示名を変更します。	75
	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てを変更します。	76
	ビデオ	映像の設定をします。	77
	入力モード	入力モードとデコードモードを設定します。	78
	入力名の変更	選択した入力ソースの表示名を変更します。	78
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	78
	再生モード	iPod や USB メモリーの再生に関する設定をします。	79

メニュー画面の表示例

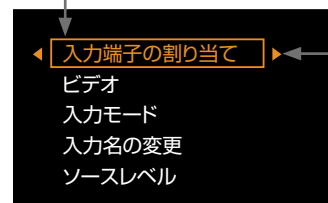
代表例を説明します。

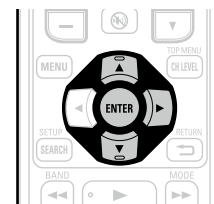
【例 1】メニュー選択画面（トップメニュー）

① 選択中の設定項目名
② 選択中の設定内容一覧

③ 選択した設定項目
④ 選択した設定内容の選択項目

【例 2】Audyssey® オートセットアップ画面（イラスト付き）

⑤ 階層アイコン
⑥ 操作ガイドテキスト
⑦ イラスト
⑧ 操作ボタンガイド

❑ リスト

選択項目

• △▽ を押して切り替える。

次の項目に進む

（▷ または ENTER を押して切り替える。）

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について、代表的な例を説明します。

	テレビ画面	ディスプレイ	説　明
トップメニューの表示	メニュー ②音声調整 ▶　サラウンドパラメーター 情報　トーンコントロール セットアップウィザード　Audyssey設定 システムセットアップ　マニュアルEQ 入力の設定　RESTORER オーディオディレイ	Audio Adjust ▶ ❷	❶ **MENU**を押して、メニュー画面を表示します。 ❷ テレビ画面：選択中の行を表示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 •設定したい項目に移動するときは、△▽ を押します。
設定を変更するときの表示	▶ 入力端子の割り当て [1/2] 初期化　[HDMI]　[DIGITAL]　[COMPONENT] BD　HDMI1 ①　無し　無し DVD　HDMI2　無し　1-D TV　無し　OPT1　無し SAT/CBL　HDMI3　OPT2　2-D GAME　HDMI4　無し　無し **ENTER** を押す。 ▶ 入力端子の割り当て [1/2] 初期化　[HDMI] ③ [DIGITAL]　[COMPONENT] BD　◀HDMI1▶　無し　無し DVD　HDMI2　無し　1-D TV　無し　OPT1　無し SAT/CBL　HDMI3　OPT2　2-D GAME　HDMI4　無し　無し	BD　[HDMI1] ❶ **ENTER** を押す。 BD　◀HDMI1▶ ❸	❶ テレビ画面：選択中の行を表示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 •設定したい項目に移動するときは、△▽ を押します。 ❷ **ENTER**を押して、設定したい項目を選びます。 ❸ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に ◀ ▶ を表示します。◁ ▷を押して、設定を変更します。
お買い上げ時の設定に戻すときの表示	▶ 入力名の変更 [1/2] 初期化 ① TUNER　TUNER BD　BD DVD　DVD TV　TV SAT/CBL　SAT/CBL GAME　GAME **ENTER** を押す。 ▶ 入力名の変更 設定を初期値に戻しますか? ② はい ◀ ▶ いいえ	Default ❶ **ENTER** を押す。 Default?　:◀No	❶ △を押して“初期化”を選び、**ENTER**を押して設定します。 ❷ ◁を押して“はい”を選び、**ENTER**を押します。

文字入力について

本機は、次の画面に表示する名前をお好みに合わせて変更することができます。

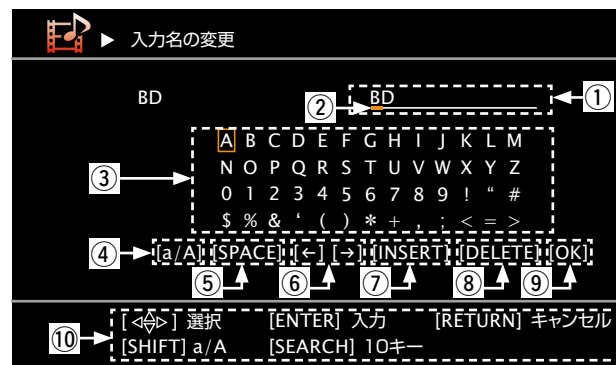
- "プリセットネーム"(☞75 ページ)
- "入力名の変更"(☞78 ページ)
- "クイックセレクトネーム"(☞72 ページ)

文字の入力には、次の 3 通りの方法があります。

文字入力方式の種類

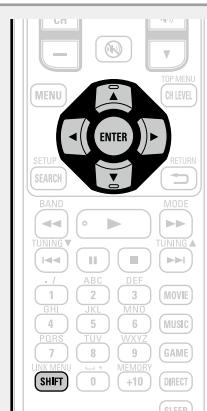
入力方式	操作の概要
キーボード画面で入力する	• リモコンで操作します。 • テレビ画面に表示される文字を選んで、文字を入力します。
数字ボタンで入力する（数字ボタン入力画面）	• リモコンで操作します。 • 1 つのボタンに複数の文字が割り当ててあり、ボタンを押すたびに文字が切り替わります。
カーソルボタンで入力する（数字ボタン入力画面）	• リモコンで操作します。 • △▽◁ ▷ と **ENTER** で文字を入力します。

キーボード画面で名前を入力する

❑キーボード入力画面

① 文字入力部(最大8文字)
② カーソル
③ キーボード部
④ 大文字/小文字の切り替え
⑤ スペース入力キー
⑥ カーソル移動キー
⑦ 挿入キー
⑧ 削除キー
⑨ OKキー
⑩ 操作ボタンガイド

❑入力のしかた

1 文字の入力をおこなう画面を表示する(☞53 ページ「メニュー一覧」)。

2 変更したい文字を選ぶ。
① △▽◁ ▷ を押して [←] または [→] を選ぶ。
② **ENTER** を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。
ENTER を押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ移動します。

3 △▽◁ ▷ を押して、入力したい文字を選び、**ENTER** を押す。

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字 / 数字 / 記号】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789
!"#$%&'()*+,;<=>
【英小文字 / 数字 / 記号】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
.@-_/:˜?[\]^`{|}

- 文字を入力中に **SHIFT** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

4 手順 2、3 をくり返して、名前を変更する。

5 △▽◁ ▷ を押して [OK] を選び、**ENTER** を押す。

☞ 次のページへ

数字ボタンで名前を入力する

❑数字ボタン入力画面の表示

① 文字入力部(最大8文字)
② 操作ボタンガイド

❑入力のしかた

数字ボタンで入力する

1 **文字の入力をおこなう画面を表示する(☞53 ページ「メニュー一覧」)。**

2 **キーボード入力画面の表示中に、SEARCH を押す。**
数字ボタン入力画面に切り替わります。

• キーボード入力画面の表示中に **0 ~ 9** を押しても、数字ボタン入力画面に切り替わります。

3 **◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせ、入力したい文字が表示されるまで、数字ボタン(0 ~ 9)を押す。**

• 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

ボタン	文字
1	1 . @ - _ / : ˜
2 (ABC)	A B C a b c 2
3 (DEF)	D E F d e f 3
4 (GHI)	G H I g h i 4
5 (JKL)	J K L j k l 5
6 (MNO)	M N O m n o 6
7 (PQRS)	P Q R S p q r s 7
8 (TUV)	T U V t u v 8
9 (WXYZ)	W X Y Z w x y z 9
0	0(空白)! “ # $ % & ’ ( ) * + , ; < = > ? [\ ] ^ ` { I }

• 文字を入力中に **SHIFT** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。
• 同じボタンに割り当てられている文字を続けて入力するときは、文字を入力したあとに ▷ を押してカーソルを右に移動させ、次の文字を入力してください。
• 別のボタンに割り当てられている文字を続けて入力するときは、続けて別のボタンを押すと、自動的にカーソルを移動し、文字を確定します。

4 **手順 3 をくり返して名前を変更し、ENTER を押して入力した文字を確定する。**

例：入力ソース“DVD”を“DENON”に変更する場合

① “V”にカーソルを合わせる。 DVD
② 3(DEF) を2回押す。
“V”が“E”に変わります。 DED
③ 6(MNO) を2回押す。
自動的に“E”を確定し、“D”が“N”に変わります。 DEN
④ ▷を押す。
“N”を確定します。 DEN■
⑤ 6(MNO) を3回押す。
“O”を入力します。 DENO
⑥ ▷を押す。
“O”を確定します。 DENO■
⑦ 6(MNO) を2回押す。
“N”を入力します。 DENON
⑧ **ENTER**を押して、入力ソース名を確定する。

☞次のページへ

カーソルボタンで入力する

1 **文字の入力をおこなう画面を表示する（☞53ページ「メニュー一覧」）。**

2 **キーボード入力画面表示中に、SEARCH を押す。**
数字ボタン入力画面に切り替わります。

3 **◁ ▷ を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。**

4 **△▽ を押して文字を変更し、ENTER を押す。**

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
【英小文字】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
【記号】! “ # $ % & ‘ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ˜
【数字】0123456789（空白）

- 文字を入力中に **SHIFT** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

5 **手順 3、4 をくり返して名前を変更し、ENTER を押して入力した文字を確定する。**

音声調整

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサラウンドモードによって異なります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」(☞94 ページ)をご覧ください。

ご注意

設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。

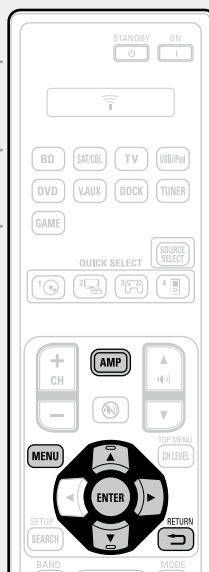
メニューの操作のしかた

1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

3 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

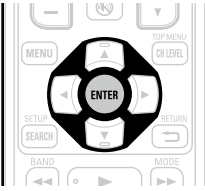
4 **ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。**

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** ⮌ を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

"音声調整"メニューでできること

サラウンドパラメーター

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音場効果を調節します。入力信号がある状態で操作してください。
入力信号によっては、本設定ができない場合があります(☞94 ページ「サラウンドモードとパラメーター一覧表」)。

設定項目	設定内容
モード 再生するソースに合わせてモードを選びます。	❏ **PLⅡx または PLⅡ モードのとき** **Cinema**:映画ソースに適したモードです。 **Music**:音楽ソースに適したモードです。 **Game**:ゲームに適したモードです。 **Pro Logic**:ドルビープロロジック再生モードです(PLⅡ モードのみ)。 ❏ **PLⅡz モードのとき** **Height**:ドルビーPLⅡz フロントハイトの再生モードです。 ❏ **DTS NEO:6 モードのとき** **Cinema**:映画ソースに適したモードです。 **Music**:音楽ソースに適したモードです。 •メニューの"サラウンドパラメーター" ⇨"PLⅡz Height" の設定(☞61 ページ)が"オン"のときは、自動的に"Height" モードになります。 •"Music" モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。
シネマ EQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	**オン**:"シネマ EQ"を使用します。 **オフ**:"シネマ EQ"を使用しません。
DRC ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。	**オート**:再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。Dolby TrueHD ソースのときに設定できます。 **弱** / **中** / **強**:ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **オフ**:ダイナミックレンジを圧縮しません。
ダイナミックレンジ圧縮 ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。	**オフ**:ダイナミックレンジを圧縮しません。 **弱** / **中** / **強**:ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。

設定項目	設定内容
LFE 低域信号(LFE)レベルを調節します。	**-10dB~0dB** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 •Dolby Digital ソース:"0dB" •DTS の映画ソース:"0dB" •DTS の音楽ソース:"-10dB"
センターイメージ センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0.0~1.0 (0.3)**
パノラマ フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。	**オン**:設定します。 **オフ**:設定しません。
ディメンション 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。	**0~6 (3)**
センター幅 センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0~7 (3)**
ディレイタイム 遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。	**0ms~300ms (30ms)**
エフェクトレベル エフェクトレベルを調節します。	**1~15 (10)** サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。
ルームサイズ 音場空間の大きさのイメージを設定します。	**小**:小さな音場空間のイメージ **やや小**:やや小さな音場空間のイメージ **標準**:標準的な音場空間のイメージ **やや大**:やや大きな音場空間のイメージ **大**:大きな音場空間のイメージ ご注意 "ルームサイズ"は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
Height ゲイン フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。	**弱**：フロントハイトチャンネルの音量を小さくします。 **中**：フロントハイトチャンネルを標準音量で出力します。 **強**：フロントハイトチャンネルの音量を大きくします。 **ご注意** “Height ゲイン”は、次の設定のときに表示します。 • メニューの“プリアウトの割り当て”設定（☞67 ページ）が“F.HEIGHT”のとき • メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”の設定（☞68 ページ）が“無し”以外のとき • サラウンドモードが“PLⅡz”または PLⅡz のデコーダーを使用しているとき
PLⅡz Height フロントハイトチャンネルを設定します。	**オン**：フロントハイトチャンネルを使用します。 **オフ**：フロントハイトチャンネルを使用しません。 **ご注意** • “PLⅡz Height”は、メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”設定（☞68 ページ）が“無し”以外のときに表示します。 • 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルが含まれている場合は、“PLⅡz Height”を表示しません。このような場合は、PLⅡz モードでデコードせずに、入力信号のままフロントハイトチャンネルを再生します。
AFDM **（オートフラグディテクトモード）** ソースのサラウンドバックチャンネル信号を検出して自動的に最適なサラウンドモードを設定します。	**オン**：設定します。 **オフ**：設定しません。 **【例】Dolby Digital ソフト（EX フラグ（識別信号）あり）の再生** • “AFDM”を“オン”に設定すると、サラウンドモードは自動的に“DOLBY D+PLⅡx C”モードになります。 • Dolby Digital EX モードで再生する場合は、“AFDM”を“オフ”、メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“サラウンドバック”を“MTRX ON”に設定してください。 Dolby Digital EX ソースには、EX フラグ（識別信号）が含まれていないものがあります。“AFDM”を“オン”に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“サラウンドバック”を“MTRX ON”または“PLⅡx C”に設定してください。

設定項目	設定内容
サラウンドバック サラウンドバックチャンネルの生成方法（デコード方法）を設定します。	❑ **2 チャンネルソースのとき** **オン**：サラウンドバックチャンネルを使用します。 **オフ**：サラウンドバックチャンネルを使用しません。 ❑ **マルチチャンネルソースのとき** サラウンドバックチャンネルのデコード方法を設定します。 **オン** ＊1：DTS-HD の 5.1 チャンネルソースを、DTS が推奨する 7.1 チャンネル出力に変換して再生します。 **MTRX ON**：サラウンドチャンネル信号から Dolby Digital EX デコーダーを使用し、サラウンドバックチャンネル信号を生成して再生します。 **ES MTRX**＊2：DTS ソースのサラウンドチャンネル信号から DTS-ES デコーダーを使用し、サラウンドバックチャンネル信号を生成して再生します。 **PLⅡx C**＊3：Dolby Pro Logic Ⅱx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx M**：Dolby Pro Logic Ⅱx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **オフ**：サラウンドバックチャンネルを再生しません。 ＊1　DTS-HD の 5.1 チャンネルソースを再生中に選べます。 ＊2　DTS ソースを再生中に選べます。 ＊3　メニューの“スピーカー構成”⇨“サラウンドバック”の設定（☞67 ページ）が“2 台”のときに選べます。 再生中のソースにサラウンドバック信号が含まれている場合は、AFDM 機能によりデコーダーの種類を自動的に選択します。お好みのデコードに切り替えるには、メニューの“AFDM”を“オフ”に設定してください。 **ご注意** メニューの“スピーカー構成”⇨“サラウンドバック”設定（☞67 ページ）が“無し”のとき、“サラウンドバック”は表示しません。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
サブウーハー サブウーハー出力のオン / オフを設定します。	**オン**：出力します。 **オフ**：出力しません。 ご注意 サラウンドモードが"DIRECT" モード（☞35 ページ）で、メニューの"サブウーハーモード" 設定（☞68 ページ）が"LFE+ メイン" のときに設定できます。
初期化 "サラウンドパラメーター"で設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化" を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか ?" というメッセージが表示されますので、"はい" または"いいえ"を選び、**ENTER** を押してください。

トーンコントロール

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
トーンコントロール トーンコントロール機能のオン / オフを設定します。	**オン**：低音や高音のトーンを調節できます。 **オフ**：トーンを調節せずに再生します。 メニューの"Dynamic EQ®"（☞63 ページ）設定が"オフ" のときに設定できます。 ご注意 サラウンドモードが"DIRECT" モードのとき、トーンの調節はできません。
低音 低音を調節します。	**-6dB～+6dB** メニューの"トーンコントロール" の設定が"オン" のときに設定できます。
高音 高音を調節します。	**-6dB～+6dB** メニューの"トーンコントロール" の設定が"オン" のときに設定できます。

基本編
応用編
情報編

Audyssey 設定

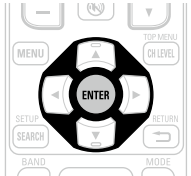
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の設定をします。
これらの設定は、Audyssey® オートセットアップをおこなったあとに設定できます。
Audyssey 技術に関する詳細な情報については、101 ページをご覧ください。

ご注意

- Audyssey® オートセットアップをおこなっていない場合、または Audyssey® オートセットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ®/Dynamic Volume® を選択できず、"Audyssey® オートセットアップを実行してください"を表示します。
このような場合は、再度 Audyssey® オートセットアップをおこなうか、"再設定"（☞22 ページ）をおこなって Audyssey® オートセットアップ実行後の設定に戻してください。
- サンプリング周波数が 96kHz を越える HD オーディオを再生している場合、"Audyssey 設定"は設定できません。

設定項目	設定内容
MultEQ® MultEQ® は、Audyssey® オートセットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。 3 種類の補正カーブから選択します。"Audyssey"に設定することをおすすめします。 MultEQ® の設定は、Dynamic EQ® や Dynamic Volume® を動作させるために必要です。	**<u>Audyssey</u>**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **マニュアル**：メニューの"マニュアル EQ"（☞64 ページ）で調節された周波数特性を適用します。 **オフ**："MultEQ®"を使用しません。 • Audyssey® オートセットアップをおこなうと、"Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"および"Audyssey Flat"が選択できます。 • Audyssey® オートセットアップ後は自動的に"Audyssey"になります。 • "Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"または"Audyssey Flat"が選ばれたときは、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ 表示が点灯します。 • Audyssey® オートセットアップをおこなったあと、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ 表示が点灯します。 **ご注意** • メニューの"EQ カスタマイズ"（☞71 ページ）で、"使用しない"に設定したイコライザーは選択できません。 • ヘッドホン使用時、"MultEQ®"の設定は自動的に"オフ"になります。

"MultEQ®"、"Dynamic EQ®"および"Dynamic Volume®"の設定は、入力ソースごとに記憶します。

設定項目	設定内容
Dynamic EQ® 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 Dynamic EQ® は MultEQ® と連動して動作します。	**<u>オン</u>**："Dynamic EQ®"を使用します。 **オフ**："Dynamic EQ®"を使用しません。 "オン"に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ または AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL 表示が点灯します。 **ご注意** メニューの"Dynamic EQ®"の設定が"オン"のときは、"トーンコントロール"（☞62 ページ）の調節はできません。
リファレンスレベルオフセット Audyssey Dynamic EQ® は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ® は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB/10dB/15dB）が可能です。右記が推奨の設定レベルになります。	**<u>0dB</u>**（フィルムリファレンス）：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 **15dB**：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 メニューの"Dynamic EQ®"設定（☞63 ページ）が"オン"のときに設定できます。
Dynamic Volume® テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をお好みの音量設定値に自動的に調節します。	**Midnight**：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 **Evening**：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **Day**：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **<u>オフ</u>**："Dynamic Volume®"を使用しません。 • "Dynamic Volume®"を"Midnight"、"Evening"または"Day"に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL 表示が点灯します。 • Audyssey® オートセットアップ（☞16 ページ）で"Dynamic Volume®"を"はい"に設定した場合は、自動的に"Evening"になります。

マニュアル EQ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。
“マニュアル EQ” は、“MultEQ®” の設定(☞63 ページ)が“マニュアル” のときに設定できます。

設定項目	設定内容
調節チャンネル 各スピーカーの音色を調節します。	① スピーカーの音色の調節方法を選択する。 **すべて**：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **左右**：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **各スピーカー**：スピーカーごとに音色を調節します。 ② スピーカーを選択する。 ③ 調節する周波数帯を選択する。 **63Hz/125Hz/250Hz/500Hz/1kHz/2kHz/4kHz/8kHz/16kHz** • “左右” や“各スピーカー” を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 ④ レベルを調節する。 **-20.0dB～+6.0dB (0.0dB)**
カーブコピー MultEQ® の“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。	**はい**：“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。 **いいえ**：“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーしません。 • “カーブコピー”は、Audyssey® オートセットアップをおこなったあとに表示します。 • “カーブコピー”を選んで **ENTER** を押すと、“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーしますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、**ENTER** を押してください。
初期化 “マニュアル EQ”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化” を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？” というメッセージが表示されますので、“はい” または“いいえ” を選び、**ENTER** を押してください。

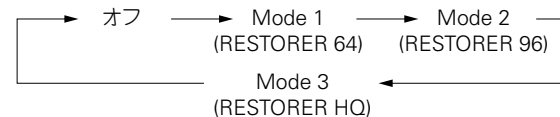
RESTORER（リストアラー）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MP3、WMA(Windows Media Audio)や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER(リストアラー)は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定内容

オフ：RESTORER を使用しません。
Mode 1(RESTORER 64)：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。
Mode 2(RESTORER 96)：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。
Mode 3(RESTORER HQ)：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

• アナログ入力や PCM 信号 (fs = 44.1/48kHz) が入力されたときに設定できます。
• “RESTORER”の設定は、各入力ソースごとに記憶します。
• 入力ソース“USB/iPod”のお買い上げ時の設定は、“Mode 3”です。その他のお買い上げ時の設定は、すべて“オフ”です。
• “オフ”以外に設定すると、ディスプレイの RSTR 表示が点灯します。
• サラウンドモードが“DIRECT”モードのときは設定できません。
• 本体の **RESTORER** を押しても、RESTORER の設定ができます。
RESTORER を押すたびに、次の順序でモードが切り替わります。

オーディオディレイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容

0ms～200ms

• メニューの“オートリップシンク” の設定(☞70 ページ)が“オン” のとき、およびオートリップシンク対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
• “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
• メニューの“ビデオモード”(☞77 ページ)が“オート” または“ゲーム” モードのときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定することができます。

情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

項目	設定内容
現在の設定 現在の設定状態を表示します。	表示する内容は、入力ソースによって異なります。 **選択ソース** / **ネーム** / **サラウンドモード** / **入力モード** / **デコードモード** / **入力端子の割り当て** / **ビデオセレクト** / **ビデオモード** / **Content Type**（コンテンツ・タイプ）など
音声入力信号 音声入力信号の情報を表示します。	**サラウンドモード**：設定しているサラウンドモード **信号**：入力信号の種類 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **フォーマット**：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **オフセット**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **フラグ**：サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が Dolby Digital EX、DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。 **ダイアログノーマライゼーション機能について** Dolby Digital ソースの再生中、自動的に動作します。 この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。 補正値は、本体の **STATUS** を押しても確認できます。 Offset　－ 4dB 数字は補正値です。変更できません。
HDMI 情報 HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**信号情報** • **解像度** / **カラースペース** / **ビット数** **モニター情報** • **インターフェース** / **対応解像度**
オートサラウンドモード オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	**アナログ /PCM 2ch**/ **デジタル 2ch**/ **デジタル 5.1ch**/ **マルチチャンネル**

項目	設定内容
クイックセレクト 「クイックセレクト機能」（☞52 ページ）に記憶している内容を表示します。	**クイックセレクト 1**/ **クイックセレクト 2**/ **クイックセレクト 3**/ **クイックセレクト 4**/ **ネーム** / **音量レベル** / **選択ソース** / **ビデオセレクト** / **MultEQ®**/**Dynamic EQ®**/**Dynamic Volume®**/ **オートサラウンドモードアナログ /PCM 2ch**/ **オートサラウンドモードデジタル 2ch**/ **オートサラウンドモードデジタル 5.1ch**/ **オートサラウンドモードマルチチャンネル**
プリセットチャンネル プリセットチャンネルの情報を表示します。 TUNER	**A1 ～ A8**/**B1 ～ B8**/**C1 ～ C8**/**D1 ～ D8**/**E1 ～ E8**/**F1 ～ F8**/ **G1～G8**

システムセットアップ

Audyssey® オートセットアップの設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更するときに設定します。

- Audyssey® オートセットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の選択ができなくなります（☞63 ページ）。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

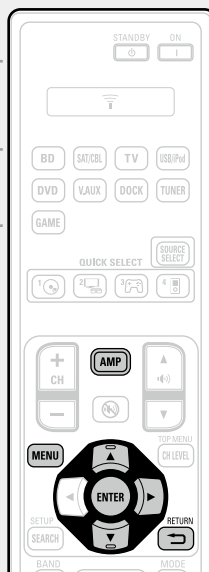
2 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

"システムセットアップ"メニューでできること

基本編
応用編
情報編

スピーカーの設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey® オートセットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey® オートセットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の選択ができなくなります（☞63 ページ）。
- システムセットアップの設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

設定項目	設定内容
プリアウトの割り当て PRE OUT の SURR.BACK/FRONT HEIGHT 端子から出力する信号をご使用になるスピーカー環境に合わせて切り替えて出力することができます。	**NORMAL**：PRE OUT の SURR.BACK/FRONT HEIGHT 端子に別売りのパワーアンプを接続してサラウンドバックスピーカーを使用するときに選びます。 **F.HEIGHT**：PRE OUT の SURR.BACK/FRONT HEIGHT 端子に別売りのパワーアンプを接続してフロントハイトスピーカーを使用するときに選びます。 接続には別売りのパワーアンプが必要です。
スピーカー構成 スピーカーのあり・なしや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 ご注意 “大”と“小”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、メニューの“クロスオーバー周波数”（☞69 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**フロント**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。 • “フロント”の設定が“小”の場合、“センター”、“サラウンド”、“サラウンドバック”および“フロントハイト”を“大”に設定することはできません。
	センター：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：センタースピーカーを使用しません。 “フロント”の設定が“小”の場合、“大”は表示しません。
スピーカー構成 （つづき）	**サブウーハー**：サブウーハーの有無を設定します。 • **有り**：サブウーハーを使用します。 • **無し**：サブウーハーを使用しません。 “フロント”の設定が“小”の場合、“サブウーハー”の設定は自動的に“有り”になります。
	サラウンド：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：サラウンドスピーカーを使用しません。 • “サラウンド”の設定が“大”のとき、“サラウンドバック”および“フロントハイト”を“大”に設定できます。 • “サラウンド”の設定が“無し”のとき、“サラウンドバック”および“フロントハイト”の設定は自動的に“無し”になります。
	サラウンドバック：サラウンドバックスピーカーの有無や大きさ、本数を設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2 台**：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1 台**：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときは、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 “サラウンドバック”を“無し”以外に設定しても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。このような場合は、メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“サラウンドバック”（☞61 ページ）を“オフ”以外に設定してください。 ご注意 “サラウンドバック”は、メニューの“プリアウトの割り当て”設定（☞67 ページ）が“NORMAL”のときに設定できます。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
スピーカー構成 （つづき）	**フロントハイト**：フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 ご注意 “フロントハイト” は、メニューの“プリアウトの割り当て” 設定（☞67 ページ）が“F.HEIGHT”のときに設定できます。
低音域の設定 サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**サブウーハーモード**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+ メイン**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • “サブウーハーモード” は、メニューの“スピーカー構成” ⇨“サブウーハー”設定（☞67 ページ）が“有り”のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+ メイン”に設定してください。 ご注意 メニューの“スピーカー構成”⇨“フロント”、“センター”設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード” の設定が“LFE” の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。
	LFE 用ローパスフィルター：LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。 • **80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz**

設定項目	設定内容
距離 リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**単位**：距離の単位を設定します。 • **メートル** / **フィート**
	ステップ：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m**/**0.01m** • **1ft**/**0.1ft**
	初期化：“距離”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化” を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか ?” というメッセージが表示されますので、“はい” または“いいえ” を選び、**ENTER** を押してください。
	フロント左 / **フロント右** / **センター** / **サブウーハー** / **サラウンド左** / **サラウンド右** / **サラウンドバック左** * / **サラウンドバック右** * / **フロントハイト左** / **フロントハイト右**：距離を設定するスピーカーを選びます。 * メニューの“スピーカー構成” ⇨“サラウンドバック” 設定（☞67 ページ）が“1 台”のときは、“サラウンドバック”を表示します。 • **0.00m ～ 18.00m** / **0.0ft ～ 60.0ft**：距離を設定します。 • メニューの“プリアウトの割り当て”（☞67 ページ）および“スピーカー構成”（☞67 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： フロント左 / フロント右 / センター / サブウーハー / フロントハイト左 / フロントハイト右：3.6 メートル（12.0 フィート） サラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバック左 / サラウンドバック右：3.00 メートル（10.0 フィート） • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。 ご注意 メニューの“スピーカー構成”（☞67 ページ）で、“無し” に設定したスピーカーは表示しません。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
チャンネルレベル 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**テストトーン開始**：テストトーンを出力します。 • **フロント左 / フロントハイト左 / センター / フロントハイト右 / フロント右 / サラウンド右 / サラウンドバック右 */ サラウンドバック左 */ サラウンド左 / サブウーハー**：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。 ＊ メニューの“スピーカー構成”⇨“サラウンドバック”設定（☞67 ページ）が“1 台”のときは、“サラウンドバック”を表示します。 • **-12.0dB～+12.0dB (0.0dB)**：音量を調節します。 “チャンネルレベル”を調節すると、調節した値をすべてのサラウンドモードに対して設定します。サラウンドモードごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、51 ページをご覧ください。 **ご注意** • メニューの“スピーカー構成”設定（☞67 ページ）で、“無し”に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合は、“チャンネルレベル”を表示しません。
	初期化：“チャンネルレベル”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化”を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、**ENTER** を押してください。

設定項目	設定内容
クロスオーバー周波数 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。	**クロスオーバー**：すべてのスピーカーのクロスオーバー周波数を設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。 • **40Hz/60Hz/80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz** **スピーカー別**：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • **フロント / センター / サラウンド / サラウンドバック / フロントハイト**：クロスオーバー周波数を設定するスピーカーを選びます。 • **40Hz/60Hz/80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。 • “クロスオーバー周波数”は、メニューの“低音域の設定”⇨“サブウーハーモード”設定（☞68 ページ）が“LFE+ メイン”のとき、または“小”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。 • クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • “小”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • メニューの“サブウーハーモード”（☞68 ページ）の設定により、“スピーカー別”で設定できるスピーカーが異なります。 　• “LFE”の場合は、“スピーカー構成”で“小”に設定しているスピーカーの設定ができます。“大”に設定しているスピーカーのときは、“フルバンド”が表示され、設定できません。 　• “LFE+ メイン”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。

HDMI 設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
オートリップシンク 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**オン**：補正します。 **オフ**：補正しません。
HDMI 音声出力 HDMI の音声の出力先を設定します。	**アンプ**：本機に接続したスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続したテレビで再生します。 • HDMI 音声出力を "TV" に設定することで、HDMI 入力端子からの音声信号を HDMI 出力端子に出力することができます。 アナログ入力端子やデジタル入力端子（OPTICAL）から入力される音声信号を、HDMI 出力端子に出力することはできません。 • HDMI コントロール機能がはたらいているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します（☞49 ページ「HDMI コントロール機能」）。
HDMI コントロール HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	**オン**：HDMI コントロール機能を使用します。 **オフ**：HDMI コントロール機能を使用しません。 • HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、"HDMI コントロール" を "オフ" に設定してください。 • 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」（☞49 ページ）をご覧ください。 **ご注意** • **"HDMI コントロール" を "オン" に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。** 長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 • HDMI コントロール機能は、電源をオンにするか、スタンバイ状態のときに動作します。 • HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 • "HDMI コントロール" の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
スタンバイ時の HDMI 入力 電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	**最後のソース**：電源を入れたとき、前回使用していた入力ソースでスタンバイします。 **HDMI1** / **HDMI2** / **HDMI3** / **HDMI4**：電源を入れたとき、それぞれの入力端子を割り当てた入力ソースでスタンバイします。 "スタンバイ時の HDMI 入力" は、メニューの "HDMI コントロール" 設定（☞70 ページ）が "オン" のときに設定できます。
パワーオフコントロール 本機と外部機器の電源オフを連動します。	**全て**：入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **ビデオ**：入力ソースが BD/DVD/TV/SAT/CBL/GAME/V.AUX/DOCK のときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **オフ**：本機はテレビの電源に連動しません。 "パワーオフコントロール" は、メニューの "HDMI コントロール" 設定（☞70 ページ）が "オン" のときに設定できます。

音声の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
オートサラウンドモード 入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。	**オン**：記憶します。入力信号の種類に対して、最後に設定したサラウンドモードで、自動再生します。 **オフ**：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。 オートサラウンドモードは、次の 4 種類の入力信号に対して、最後に設定したサラウンドモードを記憶します。 ① アナログやPCMの2チャンネル信号 ② Dolby DigitalやDTSなどの2チャンネル信号 ③ Dolby DigitalやDTSなどのマルチチャンネル信号 ④ PCMのマルチチャンネル信号
EQ カスタマイズ “MultEQ®”イコライザーを選択しているとき、使用しないイコライザーを表示しないように設定します。 “使用しない”に設定したイコライザーは、**QUICK SELECT** に記憶させることができません。また、呼び出すこともできません。	**マニュアル**：“マニュアル”イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない** **Audyssey Flat**：“Audyssey Flat” イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない** “Audyssey® オートセットアップ” をおこなったあとに、“Audyssey Flat” の設定ができます。 **Audyssey Byp. L/R**：“Audyssey Byp L/R” イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない** “Audyssey® オートセットアップ” をおこなったあとに、“Audyssey Byp. L/R” の設定ができます。
バイリンガルモード AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	**主音声**：主音声のみ出力します。 **副音声**：副音声のみ出力します。 **主 / 副**：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 **主＋副**：主音声と副音声をミックスして出力します。 このモードは、二重音声のソースを再生中のみ有効です。

その他の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

その他の設定をします。

設定項目	設定内容
音量の設定 音量に関する設定をします。	**音量表示**：音量の表示方法を設定します。 • **相対値**：- - -dB（最小）、-80.5dB ～ 18dB の範囲で表示します。 • **絶対値**：0（最小）～ 99 の範囲で表示します。 “音量表示” を設定すると、“音量の上限” や“電源オン時の音量” の表示方法も切り替わります。 **音量の上限**：音量の上限を設定します。 • **オフ**：音量の上限を設定しません。 • **-20dB（61）/-10dB（71）/0dB（81）** **電源オン時の音量**：電源をオンにしたときの音量を設定します。 • **前回の音量**：前回使用したときの音量になります。 • **- - -（0）**：常に消音状態になります。 • **-80dB ～ 18dB（1 ～ 99）**：設定した音量になります。 **ミューティングレベル**：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **消音**：消音状態になります。 • **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。
使用ソースの選択 使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	**BD/DVD/TV/SAT/CBL/GAME/V.AUX/DOCK/USB/iPod/TUNER**：使用しない入力ソースを選びます。 • **使用する** • **使用しない** ご注意 “使用しない” に設定した入力ソースは、入力ソース選択ボタンを操作しても選択できません。 BD SAT/CBL TV USB/iPod DVD V.AUX DOCK TUNER GAME

次のページへ

設定項目	設定内容
GUI テレビ画面の表示に関する設定をします。	**スクリーンセーバー**：スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **<u>オン</u>**：メニューの表示中、USB、iPod およびチューナー画面を表示中に何も操作をしない状態が 5 分以上続くとスクリーンセーバー画面に切り替わります。△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、スクリーンセーバー表示前の画面を表示します。 • **オフ**：使用しません。
	フォーマット：ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。 • **<u>NTSC</u>**：NTSC 方式で出力します。 • **PAL**：PAL 方式で出力します。 "フォーマット"は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面は表示されません。 1. 本体の ■ と ▶▶I を 3 秒以上長押しする。 ディスプレイに"V.Format:<NTSC>"を表示します。 2. 本体の **TUNER PRESET CH +**、**–** を押して映像信号方式を設定する。 3. 本体の **iPod** ▶ を押して、設定を終了する。 ご注意 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。
	操作内容の表示：サラウンドモードや入力モード切り替えなどの操作時に、各状態を表示します。 • **<u>オン</u>**：表示します。 • **オフ**：表示しません。
	主音量表示：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **<u>下</u>**：画面下に表示します。 • **上**：画面上に表示します。 • **オフ**：表示しません。 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、"上"に設定してください。

設定項目	設定内容
GUI （つづき）	**USB**：入力ソースが"USB/iPod"のときに、USB 画面の表示時間を設定します。 • **常に表示**：常に表示します。 • **<u>30s</u>**：30 秒間表示します。 • **10s**：10 秒間表示します。 • **オフ**：表示しません。
	iPod：入力ソースが"DOCK"または"USB/iPod"のときに、iPod 画面の表示時間を設定します。 • **常に表示**：常に表示します。 • **<u>30s</u>**：30 秒間表示します。 • **10s**：10 秒間表示します。 • **オフ**：表示しません。
	Tuner：入力ソースが"TUNER"のときに、チューナー画面の表示時間を設定します。 • **常に表示**：常に表示します。 • **<u>30s</u>**：30 秒間表示します。 • **10s**：10 秒間表示します。 • **オフ**：表示しません。
リモコン設定ガイド 付属のリモコンに登録可能なプリセットコードを検索して表示させることができます。	「プリセットコードを登録する」(☞81 ページ) をご覧ください。
クイックセレクトネーム 画面に表示される"クイックセレクトネーム"をお好みの名前に変更します。	• 16 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、56 ページをご覧ください。
ディスプレイの明るさ 本体のディスプレイの明るさを調節します。	**<u>通常</u>**：通常の明るさです。 **薄暗い**：薄暗くします。 **暗い**：暗くします。 **消灯**：ディスプレイを消灯します。 本体の **DIMMER** を押しても、ディスプレイの明るさを調節できます。 **DIMMER** を押すたびに、次の順序で明るさが切り替わります。 通常 → 薄暗い → 暗い → 消灯 → 通常

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
設定の保護 設定した内容を変更できないようにロックします。	**オン**：設定した内容をロックします。 **<u>オフ</u>**：設定した内容をロックしません。 設定を解除するときは、“設定の保護”を“オフ”に設定してください。 **ご注意** “設定の保護”を“オン”に設定すると、次の設定が変更できなくなります。また、次の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“Setup Lock!”を表示します。 • メニュー操作　• チャンネルレベル

言語の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

テレビ画面に表示する言語を設定します。

設定内容
<u>日本語</u> / English

“言語の設定”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、テレビ画面にメニューを表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本体の ■ と ▶▶I を 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“V.Format:<NTSC>”を表示します。
2. **STATUS** を押して“Lang.:<JAPANESE>”を選ぶ。
3. 本体の **TUNER PRESET CH +**、**–** を押して言語を設定する。
4. 本体の **iPod** ▶ を押して設定を終了する。

入力の設定

GUI

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
• 設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

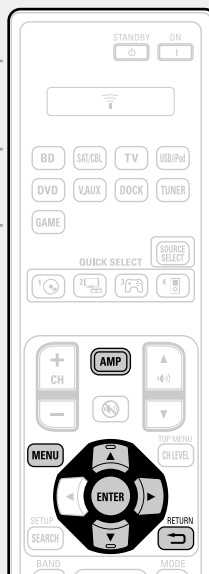
2 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

3 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

4 **ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。**

• 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
• メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

“入力の設定”メニューでできること

オートプリセット（☞75 ページ）
プリセットスキップ（☞75 ページ）
プリセットネーム（☞75 ページ）
入力端子の割り当て（☞76 ページ）
ビデオ（☞77 ページ）
入力モード（音声）（☞78 ページ）
入力名の変更（☞78 ページ）
ソースレベル（音声）（☞78 ページ）
再生モード（☞79 ページ）

知っておいてほしいこと

❏本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。

BD | DVD | TV | SAT/CBL | DOCK | GAME | V.AUX | USB/iPod | TUNER

ご注意

メニューの“使用ソースの選択”（☞71 ページ）で、“使用しない”に設定した入力ソースは選べません。

オートプリセット

自動で FM 放送を選局し、プリセットします。

設定項目	設定内容
スタート FM 放送の選局をはじめます。 TUNER	"オートプリセット" でお好みの FM 放送を選局できない場合は、「手動でラジオ放送を選局しプリセットする（マニュアルプリセット）」（☞30 ページ）でお好みの放送を選局してください。

プリセットスキップ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選局するとき、表示させない放送局をあらかじめ設定します。

設定項目	設定内容
ブロック スキップするプリセットブロックを選びます。 TUNER	**A/B/C/D/E/F/G** プリセットブロックやプリセットチャンネルについては、「FM/AM 放送を聴く」（☞30 ページ）をご覧ください。
ブロックプリセット 選択したブロックの表示の設定をします。"スキップ" に設定すると、そのブロックに含まれているすべてのプリセットチャンネルを表示しません。 TUNER	**オン**：選択したブロックを表示します。 **スキップ**：選択したブロックを表示しません。
A1～G8 選択したチャンネルの表示の設定をします。 TUNER	**オン**：選択したチャンネルを表示します。 **スキップ**：選択したチャンネルを表示しません。 選択したブロックを "スキップ" に設定すると、ブロック（A～G）ごとにスキップすることができます。

プリセットネーム

プリセットチャンネルの表示名を変更します。
プリセットした放送局名を入力して、表示させることができます。

設定項目	設定内容
ブロック 表示名を変更したいチャンネルが入っているプリセットブロックを選びます。 TUNER	**A/B/C/D/E/F/G**
A1～G8 選択したチャンネルの表示名を変更します。 TUNER	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、56 ページをご覧ください。
初期化 変更されたプリセット名をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化" を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？" というメッセージが表示されますので、"はい" または "いいえ" を選び、**ENTER** を押してください。

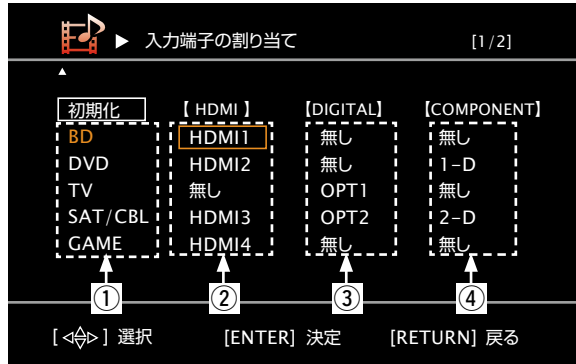
基本編

応用編

情報編

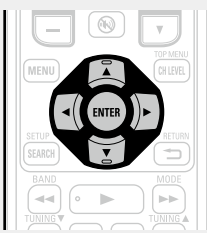
入力端子の割り当て

“入力端子の割り当て”メニュー画面の表示例

この画面は、メニューの“入力の設定”➪“入力ソース”➪“入力端子の割り当て”を選択したときに表示します。
この“入力端子の割り当て”メニューでは、①各入力ソースに対して、お買い上げ時の設定で割り当てられている② HDMI 端子、③デジタル端子、④ D 端子を変更することができます。

“入力端子の割り当て”メニューの操作のしかた

1 △▽◁ ▷ を押して、設定したい項目へカーソルを移動させ、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ を押して、入力端子を割り当てる。

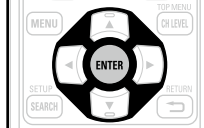
3 ENTER を押して、設定を確定する。

ご注意

“GAME”ソースの“HDMI”、“DIGITAL”および“コンポーネント”の割り当てをすべて“無し”に設定すると、入力ソースの切り替えで“GAME”ソースが選べなくなります。

設定項目	設定内容
HDMI 入力ソースに割り当てられているHDMI入力端子を変更するときに設定します。 BD DVD TV SAT/CBL GAME V.AUX DOCK	**HDMI 1**/**HDMI 2**/**HDMI 3**/**HDMI 4**：選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。 **無し**：選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	TV	SAT/CBL
お買い上げ時の設定	HDMI1	HDMI2	無し	HDMI3

入力ソース	GAME	V.AUX	DOCK
お買い上げ時の設定	HDMI4	無し	無し

- HDMI 入力端子の割り当てができない入力ソースには、“---”を表示します。
- “HDMI”で割り当てた映像信号と、メニューの“入力端子の割り当て”➪“DIGITAL”で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、“入力モード”（☞78 ページ）を“デジタル”に設定してください。
- アナログ端子およびデジタル端子から入力された音声信号は、テレビに出力しません。
- 入力ソースの“DOCK”に HDMI 入力端子を割り当てていても、iPod 用コントロールドックが接続されているときは、S ビデオ入力端子が有効になります。
- メニューの“HDMI コントロール”（☞70 ページ）を“オン”に設定している場合は、“TV”に“HDMI”を割り当てることはできません。

設定項目	設定内容
DIGITAL 入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。 BD DVD TV SAT/CBL GAME V.AUX DOCK	**OPT**（光デジタル入力端子）**1**、**2**：選択した入力ソースに、いずれかのデジタル入力端子を割り当てます。 **無し**：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	TV	SAT/CBL
お買い上げ時の設定	無し	無し	OPT1	OPT2

入力ソース	GAME	V.AUX	DOCK
お買い上げ時の設定	無し	無し	無し

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
COMPONENT 入力ソースに割り当てられている D5 入力端子を変更するときに設定します。 BD DVD TV SAT/CBL GAME V.AUX DOCK	**1-D、2-D**（D5 入力端子）：選択した入力ソースに D5 入力端子を割り当てます。 **無し**：選択した入力ソースに D5 入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。 入力ソース：BD / DVD / TV / SAT/CBL お買い上げ時の設定：無し / 1-D / 無し / 2-D 入力ソース：GAME / V.AUX / DOCK お買い上げ時の設定：無し / 無し / 無し • D5 入力端子の割り当てができない入力ソースには、“---”を表示します。 • 入力ソースの“DOCK” に D5 入力端子を割り当てていても、iPod 用コントロールドックが接続されているときは、S ビデオ入力端子が有効になります。
初期化 “入力端子の割り当て” で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化” を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか ?” というメッセージが表示されますので、“はい” または“いいえ” を選び、**ENTER** を押してください。

ビデオ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

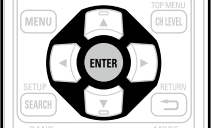
映像に関する設定をします。

＊ “BD”、“TV” および“GAME” は、各入力ソースに“HDMI”（76 ページ）または“COMPONENT”（77 ページ）を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容
ビデオセレクト 今聴いている音声に好きな映像を組み合わせて再生します。	**入力ソース**：入力ソースの映像と音声を再生します。 **BD**/**DVD**/**TV**/**SAT/CBL**/**GAME**/**V.AUX**/**DOCK**：見たい映像の入力ソースを選びます。今聴いている音声に、選択した入力ソースの映像を組み合わせて再生します。入力ソースごとに設定できます。 “BD”、“TV” および“GAME” は、各入力ソースに“COMPONENT” を割り当てているときのみ選べます。 ご注意 • HDMI 入力信号は選べません。 • メニューの“使用ソースの選択”（71 ページ）で、“使用しない” に設定した入力ソースは選べません。
ビデオモード 映像コンテンツの種類に合わせて映像処理のしかたを設定します。 BD* DVD TV* SAT/CBL GAME* V.AUX DOCK	**オート**：HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。 **ゲーム**：ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。 **ムービー**：通常の映像処理をおこないます。 “ビデオモード” の設定が“オート” の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。

入力モード（音声）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目	設定内容
入力モード 各入力ソースの音声入力モードを設定します。 通常は、"オート"に設定することをおすすめします。	**オート**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI**：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **デジタル**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **アナログ**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 • "HDMI" は、メニューの"入力端子の割り当て"（☞76 ページ）で"HDMI"を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • "デジタル" は、メニューの"入力端子の割り当て"（☞76 ページ）で"DIGITAL"を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 入力ソースが"TV" および"GAME" のときは、"アナログ" に設定できません。 • デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの DIG. 表示が点灯します。DIG. 表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当て"入力端子の割り当て"（☞76 ページ）や接続を確認してください。 • メニューの"HDMI コントロール""の設定が"オン"で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソース"TV" の入力モードは ARC 固定になります。
デコードモード 入力ソースの音声をデコードするモードを設定します。 BD DVD TV SAT/CBL GAME V.AUX DOCK	**オート**:デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 • メニューの"入力端子の割り当て" 設定（☞76 ページ）で"HDMI" または"DIGITAL"に割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 通常は、"オート"に設定してください。"PCM" や"DTS"は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

入力名の変更

選択した入力ソースの表示名を変更します。

設定項目	設定内容
入力名の変更 選択した入力ソースの表示名を変更します。	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、56 ページをご覧ください。
初期化 変更した入力ソース名をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化" を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？" というメッセージが表示されますので、"はい" または"いいえ" を選び、**ENTER** を押してください。

ソースレベル（音声）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

• 選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
• ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容
-12dB～+12dB（0dB）
メニューの"入力端子の割り当て" 設定（☞76 ページ）で、"HDMI" または"DIGITAL" を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。

基本編 応用編 情報編

再生モード

❏ 入力ソース："DOCK"

設定項目	設定内容
リピート リピート再生モードを設定します。 DOCK	**全て**：すべての曲をリピート再生します。 **曲**：再生中の曲をリピート再生します。 **オフ**：リピート再生モードをキャンセルします。
シャッフル シャッフル再生モードを設定します。 DOCK	❏ **DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R を接続しているとき** **曲**：曲をシャッフル再生します。 **アルバム**：アルバムをシャッフル再生します。 **オフ**：シャッフル再生モードをキャンセルします。 ❏ **DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を接続しているとき** **オン**：シャッフル再生モードを有効にします。 **オフ**：シャッフル再生モードをキャンセルします。

❏ 入力ソース："USB/iPod"

設定項目	設定内容
リピート リピート再生モードを設定します。 USB/iPod	❏ **iPod 再生時** **全て**：再生中のフォルダの中の曲をリピート再生します。 **1 曲**：再生中の曲をリピート再生します。 **オフ**：リピート再生モードをキャンセルします。 ❏ **USB メモリー再生時** **全て**：再生中のフォルダの中の曲をリピート再生します。 **1 曲**：再生中の曲をリピート再生します。 **フォルダー**：フォルダ内のファイルをリピート再生します。
シャッフル シャッフル再生モードを設定します。 USB/iPod	❏ **iPod 再生時** **曲**：曲をシャッフル再生します。 **アルバム**：アルバムをシャッフル再生します。 **オフ**：シャッフル再生モードをキャンセルします。 ❏ **USB メモリー再生時** **オン**：シャッフル再生モードを有効にします。 **オフ**：シャッフル再生モードをキャンセルします。

基本編
応用編
情報編

リモコンで接続機器を操作する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。

接続機器を操作する

1 **入力ソース選択ボタンを押して、入力ソースを選ぶ（☞23ページ）。**

リモコンの操作モードを次の表のように切り替えます。

入力ソース選択ボタン	本機の入力ソース	操作モード リモコンで操作できる機器
AMP	–	本機（アンプ操作）＊2
BD ＊1	BD	**BD** ボタンに登録している機器
SAT/CBL ＊1	SAT/CBL	**SAT/CBL** ボタンに登録している機器
TV ＊1	TV	**TV** ボタンに登録している機器
USB/iPod	USB/iPod	USB 端子に接続した iPod、または iPod 用コントロールドック
DVD ＊1	DVD	**DVD** ボタンに登録している機器
V.AUX ＊1	V.AUX	**V.AUX** ボタンに登録している機器
DOCK	DOCK	iPod 用コントロールドック
TUNER	TUNER	本機（チューナー操作）
GAME ＊1	GAME	**GAME** ボタンに登録している機器

＊1　このボタンにプリセットコードを登録すると、本機のリモコンでお手持ちの機器の操作がおこなえます。
＊2　このモードでは、iPod、USB メモリー、iPod 用コントロールドックおよびチューナーの操作が可能です。

SOURCE SELECT を押すと、自動的にアンプ操作モードに移行します。

ご注意

リモコンがアンプ操作モード以外のときに、下記の動作をおこなう場合は、**AMP** を押してリモコンをアンプ操作モードに切り替えてください。

- **MENU**を押して、本機のメニュー操作をおこなうとき
- **CH LEVEL** を押して、本機のチャンネルレベルを設定するとき

2 **本機または入力ソースを切り替えた機器の操作をおこなう。**

- 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。また、iPod、チューナーおよび USB メモリーの操作については、次のページをご覧ください。
  - iPod（☞28、29 ページ）
  - チューナー（☞32 ページ）
  - USB メモリー（☞34 ページ）

プリセットコードを登録する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、お手持ちのDVD プレーヤーやテレビなど各社の機器の操作ができるようになります。
プリセットコードの登録には、メニューの“リモコン設定ガイド”（☞72 ページ）を使用してください。このメニューでは、付属のリモコンに登録可能なプリセットコードを検索して、表示させることができます。

❑機器の操作に使用できる主なボタン

① **DEVICE I、DEVICE ⏻**
各機器の電源オン / オフを切り替えます。
② **△▽◁ ▷、ENTER、RETURN ⮌**
各機器のメニュー操作をします。
③ **MENU、TOP MENU、SETUP**
各機器のメニューを表示します。
④ **◀◀、▶▶、▶、I◀◀、▶▶I、II、■**
⑤ 数字ボタン（**0**〜**9**、**+10**）
⑥ **CH +、CH –**
⑦ **TV I/⏻、TV INPUT**
テレビの操作をおこないます。
このボタンは、どのモードのときでも有効です。

各機器のリモコン操作の詳細については、28、29、32、34、84、85 ページをご覧ください。

❑お買い上げ時に設定されているプリセットコード

お買い上げ時の設定では、各入力ソース切り替えボタンに次の機器を登録しています。ご使用になる機器に合わせて変更できます。

入力ソース選択ボタン	カテゴリー	ブランド	プリセットコード
BD	ブルーレイディスクプレーヤー	DENON	32258
SAT/CBL	衛星チューナー（セットトップボックス）	DirecTV	01377
TV	テレビ	SONY	10810
DVD	DVD プレーヤー	DENON	32134
V.AUX	デジタルカメラ（DVD レコーダー）	Panasonic	21378
DOCK ＊	iPod 用コントロールドック	DENON	72516
GAME	ケーブルテレビ（セットトップボックス）	Motorola	01376

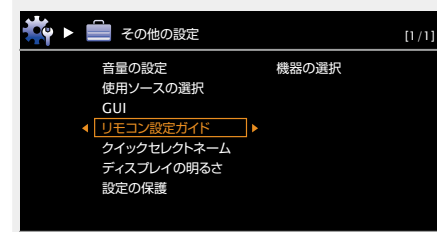
＊ iPod 用コントロールドックを使用しない場合は、**DOCK** に他の機器のプリセットコードを登録できます。

ご注意

USB/iPod および **TUNER** にはプリセットコードを登録できません。

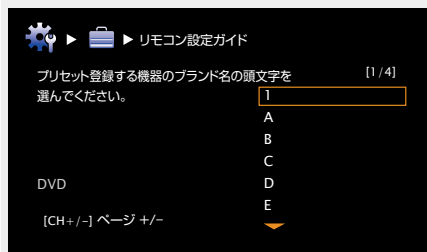
1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

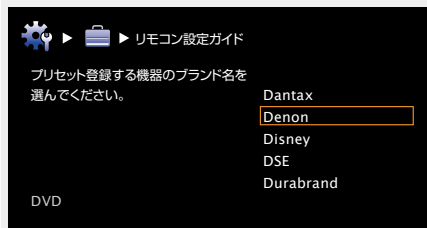
2 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

3 **△▽ を押して、メニューの“システムセットアップ”⇨“その他の設定”⇨“リモコン設定ガイド”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **△▽ を押してプリセット登録したい機器のカテゴリーを選び、ENTER を押す。**

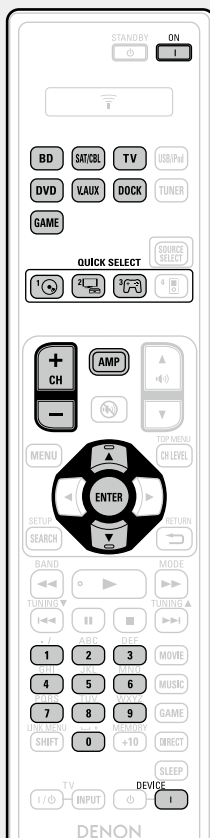
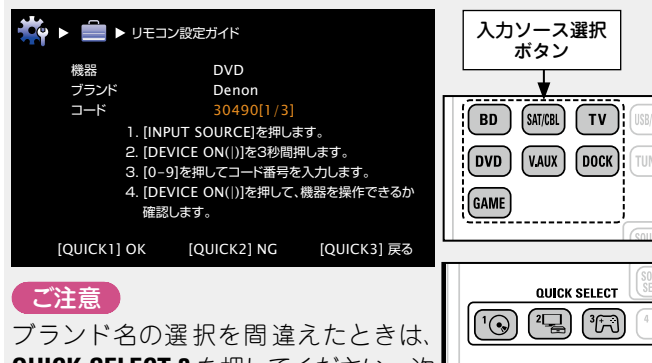
- “TV”、“TV/DVD”、“TV/VCR”カテゴリーは、**TV** ボタンのみプリセットコードの登録ができます。
- 登録する機器が複数ページある場合は、**CH +** または **CH –** を押すと、ページを切り替えることができます。

☞ 次のページへ

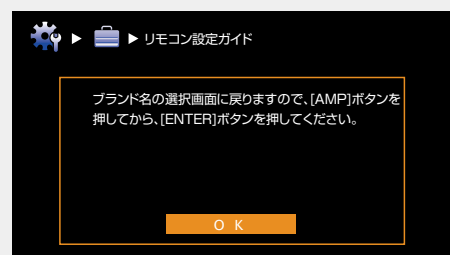
5 △▽ を押してブランド名の頭文字を選び、ENTER を押す。

- 頭文字は、1、A～Z で表示します。（各カテゴリーで、ブランドが存在する頭文字のみ表示します。）
  数字ではじまるブランド名は、“1” を選んでください。
- ブランド名の頭文字が複数ページある場合は、**CH +** または **CH –** を押すと、ページを切り替えることができます。

6 △▽ を押してブランド名を選び、ENTER を押す。

- ブランド名の頭文字が複数ページある場合は、**CH +** または **CH –** を押すと、ページを切り替えることができます。

ご注意

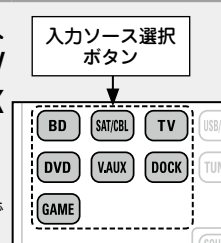
リストにご希望のブランド名が表示されない場合は、本機に付属のリモコンで、ご使用の機器を操作することはできません。このような場合は、ご使用の機器に付属のリモコンを使用して操作してください。

7 リモコンコードとリモコンのプリセット登録の操作手順を表示します。

入力ソース選択ボタン

ご注意

ブランド名の選択を間違えたときは、**QUICK SELECT 3** を押してください。次の画面を表示します。

AMP を押して **ENTER** を押すと手順 6 に戻ります。

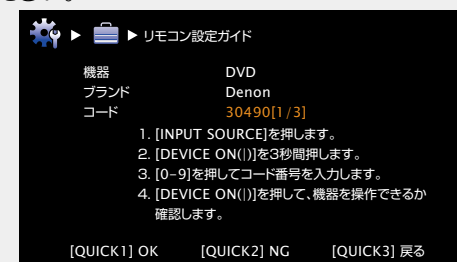
8 プリセット登録したい機器の入力ソース選択ボタン（BD、SAT/CBL、TV、DVD、V.AUX、DOCK または GAME）を押す。

入力ソース選択ボタン

- **TV** ボタンへ登録できるカテゴリーは、“TV”、“TV/DVD”、“TV/VCR”のみです。

9 DEVICE I を 3 秒以上長押しする。

表示が 2 回点滅します。

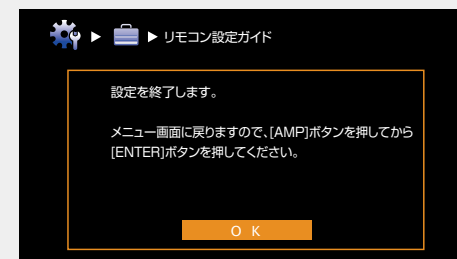
10 0 ～ 9 を押して 5 桁のコードを入力する。

ボタンの入力は、10 秒以上の間隔をあけずにおこなってください。

- 正しく登録できたとき
  → 表示が 2 回点滅します。
- 正しく登録できなかったとき
  → 表示がゆっくりと 1 回点滅します。
  手順 8 から操作をやり直してください。
- 番号を間違えて入力した場合
  → **ON** を 1 回押し、手順 8 から操作をやり直してください。

11 ご使用の機器の操作をおこない、操作できるか確認する。

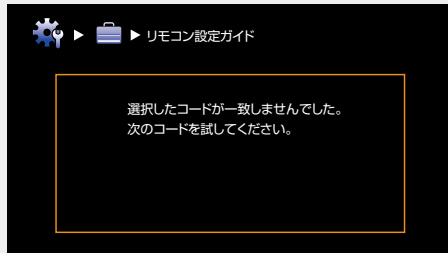
- 機器を操作できた場合は、**QUICK SELECT 1** を押す。
  → 手順 12 へ進んでください。
- 機器を操作できない場合は、**QUICK SELECT 2** を押す。
  → 手順 13 へ進んでください。

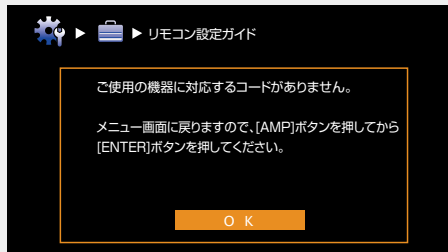
- ご使用の機器の操作については、「機器を操作する」（☞84 ページ）をご覧ください。

12 次の画面を表示し、プリセットコードの登録を完了します。

- メニュー画面に戻りますので、**AMP** を押したあと、**ENTER** を押してください。

☞ 次のページへ

13 次のいずれかの画面を表示します。

①

- 上記の画面を約３秒間表示後、自動的に次のプリセット登録画面に進みます。

②

【① の画面が表示された場合】
次に表示されるプリセットコードで動作する可能性があります。プリセット登録画面に進みますので、手順８〜11 をくり返しおこなってください。

【② の画面が表示された場合】
本機に付属のリモコンで、ご使用の機器を操作できません。ご使用の機器に付属のリモコンを使用してください。メニュー画面に戻りますので、**AMP** を押してから **ENTER** を押してください。

メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。

ご注意

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

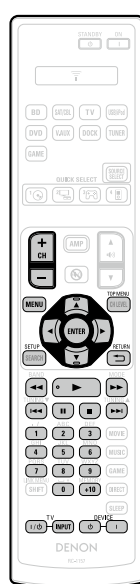
機器を操作する

付属のリモコンは、本機以外のコンポーネント製品も操作できます。

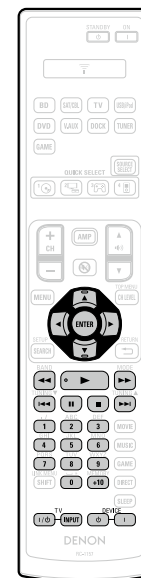
1 操作したい機器のプリセットコードが登録してある入力ソース選択ボタンを押す（☞80ページ）。

2 機器を操作する。

- 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❏ブルーレイディスクプレーヤー / HD DVD プレーヤー /DVD プレーヤー

操作ボタン	機能
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	（ポップアップ）メニュー
TOP MENU	トップメニュー
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	セットアップ
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
DEVICE I	電源オン ＊
DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❏CD プレーヤー /CD レコーダー

操作ボタン	機能
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	曲の選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
DEVICE I	電源オン ＊
DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

☞ 次のページへ

❑DVD レコーダー / デジタルビデオレコーダー(PVR)/ ビデオデッキ

操作ボタン	機能
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	セットアップ
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
DEVICE I	電源オン ＊
DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❑テレビ

操作ボタン	機能
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	セットアップ
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	再生
❚❚	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
DEVICE I	電源オン ＊
DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❑衛星チューナー(SAT)/ ケーブルテレビ(CBL)/IP テレビ / セットトップボックス

操作ボタン	機能
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	ガイド
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
DEVICE I	電源オン ＊
DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

リモコンの全設定を初期化する

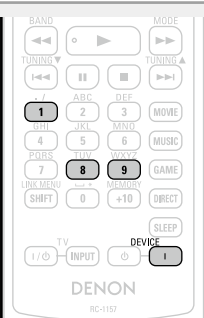
すべての設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。

1 **DEVICE I を 3 秒以上長押しする。**

表示が 2 回点滅します。

2 **9、8、1 の順に押す。**

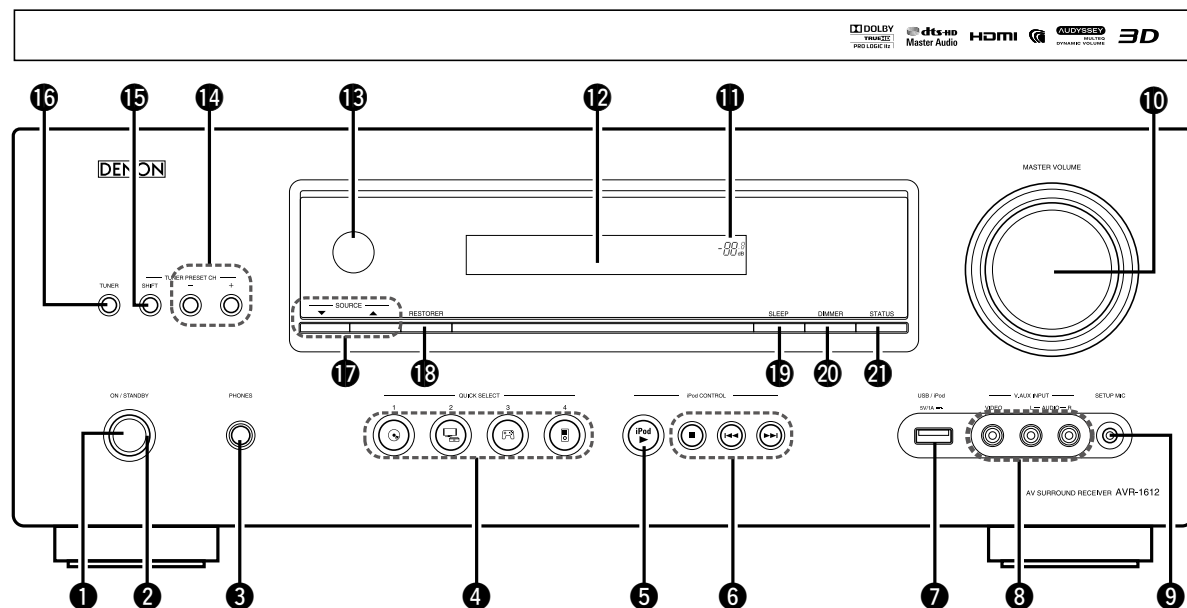
表示が 4 回点滅します。
すべての設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

基本編
応用編
情報編

情報編

ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ 電源ボタン(ON/STANDBY) …… (9)
本機の電源をオン / スタンバイに切り替えます。

❷ 電源表示 …… (9)

❸ ヘッドホン端子(PHONES)
ヘッドホンのプラグを差し込むと、接続したスピーカーから音が出なくなります。

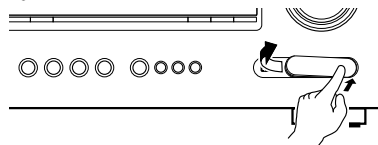
ご注意
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

❹ クイックセレクトボタン
(QUICK SELECT) …… (52)

❺ iPod再生ボタン(iPod ►) …… (29)

❻ iPodシステムボタン …… (28、29、106)
• ストップボタン(■)
• スキップボタン(I◄◄、►►I)

❼ USB/iPod端子 …… (14)

❽ V.AUX入力端子(V.AUX INPUT) …… (13)
V.AUX 入力端子をご使用になるときは、カバーを取り外してください。

❾ セットアップマイク端子
(SETUP MIC) …… (17、47)

❿ 主音量調節つまみ(MASTER VOLUME) …… (24)

⓫ 主音量表示

⓬ ディスプレイ …… (89)

⓭ リモコン受光部 …… (92)

⓮ チューニングプリセットボタン
(TUNER PRESET CH +、-) …… (31)

⓯ シフトボタン(SHIFT) …… (30、57)

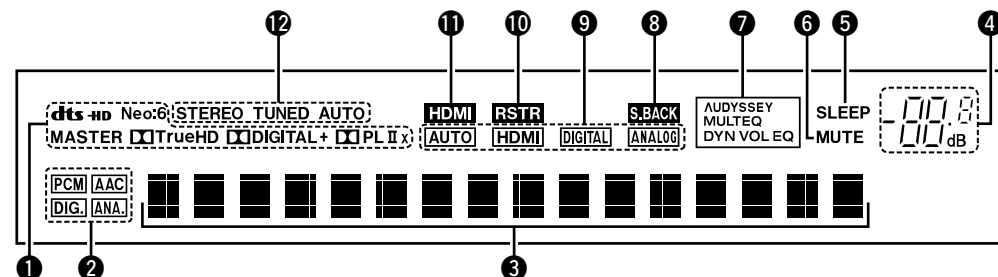
⓰ チューナーボタン(TUNER) …… (30)

⓱ 入力ソース選択ボタン(SOURCE ▲▼) …… (23)

⓲ RESTORERボタン …… (64)

⓳ スリープタイマーボタン(SLEEP) …… (50)

⓴ ディマーボタン(DIMMER) …… (72)

㉑ ステータスボタン(STATUS) …… (65)

ディスプレイ

❶ デコーダー表示
各デコーダーが動作しているときに点灯します。

❷ 入力信号表示

❸ インフォメーションディスプレイ
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹ 主音量表示

❺ スリープタイマー表示
スリープタイマーを設定しているときに点灯します（☞50 ページ）。

❻ ミュート表示
ミューティング中に点灯します（☞24 ページ）。

❼ AUDYSSEY®表示
“MultEQ®”（☞63 ページ）、“Dynamic EQ®”（☞63 ページ）および“Dynamic Volume®”（☞63 ページ）の設定により、次のように点灯します。

AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL	“MultEQ®”、“Dynamic EQ®”および“Dynamic Volume®”の設定が“オン”のとき
AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ	“MultEQ®”および“Dynamic EQ®”の設定が“オン”、“Dynamic Volume®”の設定が“オフ”のとき
AUDYSSEY MULTEQ	“MultEQ®”の設定が“オン”、“Dynamic EQ®”および“Dynamic Volume®”の設定が“オフ”のとき

❽ サラウンドバック表示
サラウンドバックスピーカーから音声を出力しているときに点灯します（☞67 ページ）。

❾ 入力モード表示
各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します（☞78 ページ）。

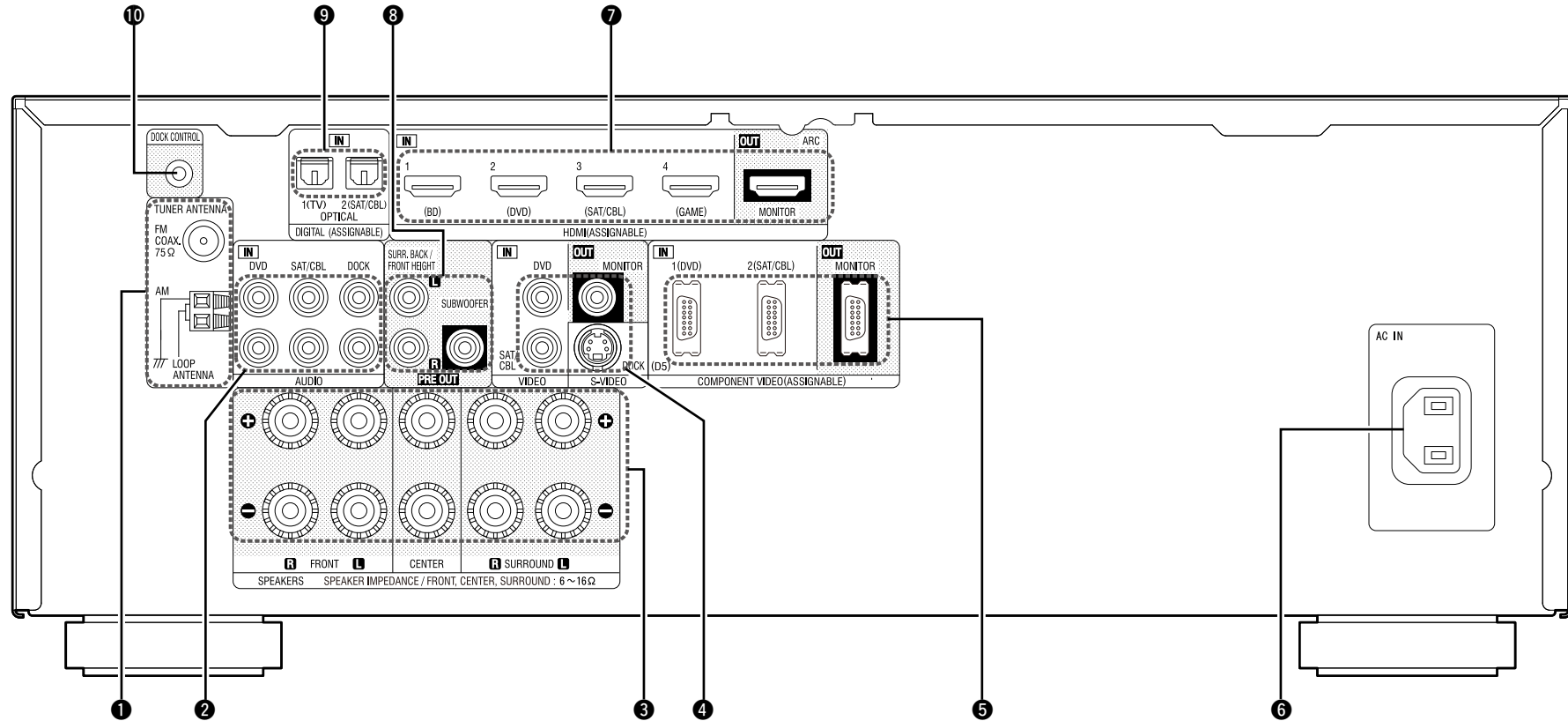
❿ RESTORER表示
RESTORER モードが選ばれているときに点灯します（☞64 ページ）。

⓫ HDMI表示
HDMI 接続で再生しているときに点灯します。

⓬ チューナー受信モード表示
入力ソースが“TUNER”のとき、放送局の受信状態により点灯します。

STEREO: FM モードで、アナログステレオ放送を受信したときに点灯します。
TUNED: 放送を受信したときに点灯します。
AUTO: オートチューニングモードのときに点灯します（☞30 ページ）。

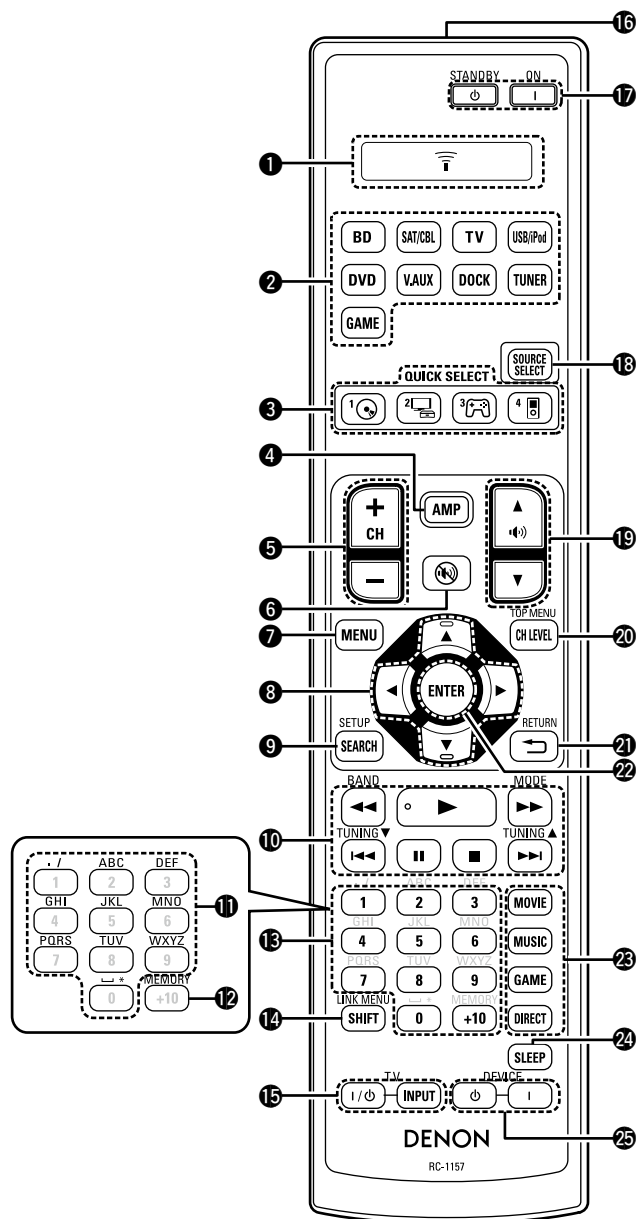
リアパネル

詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶FM/AMアンテナ端子(TUNER ANTENNA)…………(15)
❷アナログ音声端子(AUDIO)………………………(12、13、14)
❸スピーカー端子
(SPEAKERS)………………………(10、43、44、45、46)
❹ビデオ/S ビデオ端子
(VIDEO/S-VIDEO)…………………………………(12、13、14)
❺コンポーネントビデオ/D5端子
(COMPONENT VIDEO)……………………………(12、13)
❻ACインレット(AC IN)………………………………(9)
❼HDMI端子………………………………………………(7、10)
❽プリアウト端子
(PRE OUT)………………………(10、43、44、45、46)
❾デジタル音声端子(DIGITAL)…………………………(12、13)
❿ドックコントロール端子(DOCK CONTROL)…………(14)

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、( ) 内のページをご覧ください。

❶ 操作モード表示( ) ……(82、86)
❷ 入力ソース選択ボタン ……(23)
❸ クイックセレクトボタン(QUICK SELECT) ……(52)
❹ アンプボタン(AMP) ……(80)
❺ チャンネルボタン (CH +、-) ……(30、31、81、84、85)
❻ ミューティングボタン( ) ……(24)
❼ メニューボタン(MENU) ……(59)
❽ カーソルボタン(△▽◁ ▷) ……(55、56、57、59)
❾ サーチボタン(SEARCH) ……(25、28、31、57)
❿ システムボタン ……(28、29、34、84、85)
- サーチボタン(◀◀、▶▶)
- スキップボタン(I◀◀、▶▶I)
- プレイボタン(▶)
- ポーズボタン(II)
- ストップボタン(■)

チューナーシステムボタン ……(32)
- FM/AM バンド切り替えボタン(BAND)
- チューニングモード切り替えボタン(MODE)
- 選局ボタン (TUNING ▲▼)

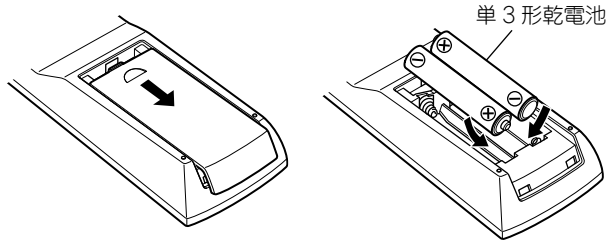
⓫ 文字入力ボタン ……(56)
⓬ メモリーボタン(MEMORY) ……(30)
⓭ 数字ボタン ……(30、81、84、85)
⓮ シフトボタン(SHIFT) ……(30、57)
⓯ テレビ操作ボタン (TV I/⏻ / INPUT) ……(84、85)
⓰ リモコン信号送信窓 ……(92)
⓱ 電源操作ボタン (ON / STANDBY) ……(9)
⓲ ソース選択ボタン(SOURCE SELECT) ……(23)
⓳ 主音量調節ボタン(▲▼) ……(24)
⓴ チャンネルレベル調節ボタン(CH LEVEL) ……(51)
㉑ リターンボタン(RETURN) ……(59)
㉒ エンターボタン(ENTER) ……(55、56、57、59)
㉓ サラウンドモードボタン ……(35)
- ムービーボタン(MOVIE)
- ミュージックボタン(MUSIC)
- ゲームボタン(GAME)
- ダイレクトボタン(DIRECT)

㉔ スリープタイマーボタン(SLEEP) ……(50)
㉕ デバイス用電源ボタン (DEVICE ⏻ / I) ……(84、85)

次のページへ

乾電池の入れかた

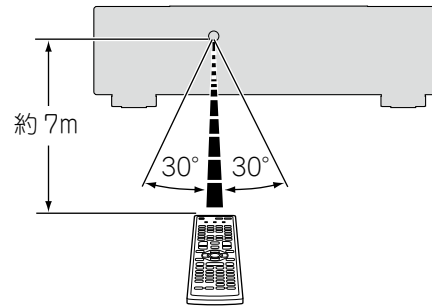
① 裏ぶたを矢印の方法へスライドさせて取り外す。

② 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- リモコンには単 3 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例に従って処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D 映像機器を構成している各ユニット(モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど)間の信号の伝送を無線通信(赤外線通信など)でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

❏ 登録商標について（☞93 ページ）
❏ サラウンド（☞94 ページ）
❏ 映像信号とモニター出力の関係（☞100 ページ）
❏ 用語の解説（☞101 ページ）

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。（順不同）

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTSHD および DTS-HDMaster Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc.©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。

AUDYSSEY
MULTEQ
DYNAMIC VOLUME

本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。Dynamic EQ® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。

“Made for iPod” and “Made for iPhone” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.
Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance.
iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle, and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

- iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サラウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サラウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サラウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカー構成”(☞67ページ)の設定により出力するチャンネルが異なります。

サラウンドモード(☞35 ページ)	チャンネル出力						サラウンドパラメーター(☞60 ページ)				
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンドバック 左 / 右	フロントハイト 左 / 右	サブウーハー	モード (☞60 ページ)	シネマ EQ. (☞60 ページ)	DRC∗8 (☞60 ページ)	ダイナミックレンジ圧縮 ∗9 (☞60 ページ)	LFE∗10 (☞60 ページ)
DIRECT(2 チャンネル)	○					◎∗3			○	○	
DIRECT(マルチチャンネル)	○	◎	◎	◎∗1	◎∗1	◎			○	○	○
STEREO	○					◎			○	○	○
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○			○
MPEG-2 AAC	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○			○
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎		◎	◎	○∗4	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎		◎	○	○∗5	○	○	
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎			◎	○	○∗6	○	○	
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎		◎	○	○∗5	○	○	
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○∗7		○	○
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○∗7		○	○
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○∗7	○		○
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○∗7		○	○
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○∗7		○	○
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○∗7		○	○
DTS Express	○	◎	◎	◎	◎∗2	◎		○∗7		○	○
MULTI CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○
VIRTUAL	○					◎			○	○	○

∗1 各チャンネルの入力信号が含まれる場合に音声を出力します。
∗2 メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“PLIIz Height”設定(☞61 ページ)が“オン”のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
∗3 メニューの“サブウーハーモード”設定(☞68 ページ)が“LFE+ メイン”のときに、サブウーハーから音声を出力します。
∗4 このサラウンドモードを選択したときは、メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“モード”設定(☞60 ページ)が“Height”モードで固定になります。
∗5 この項目は、メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“モード”設定(☞60 ページ)が“Cinema”のときに設定できます。
∗6 この項目は、メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“モード”設定(☞60 ページ)が“Cinema”または“Pro Logic”のときに設定できます。
∗7 この項目は、メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“サラウンドバック”設定(☞61 ページ)が“PLIIx Music”以外のときに設定できます。
∗8 この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。
∗9 Dolby Digital または DTS 信号を再生時に選択できます。
∗10 この項目は、Dolby Digital、DTS または DVD オーディオを再生時に選択できます。

サラウンドモード（☞35 ページ）	サラウンドパラメーター（☞60 ページ）							
	ディレイタイム（☞60 ページ）	エフェクトレベル（☞60 ページ）	ルームサイズ（☞60 ページ）	Height ゲイン（☞61 ページ）	PLIIz Height*12（☞61 ページ）	AFDM*13（☞61 ページ）	サラウンドバック（☞61 ページ）	サブウーハー（☞62 ページ）
DIRECT（2 チャンネル）								○*3
DIRECT（マルチチャンネル）								
STEREO								
MULTI CH IN				○*11	○			
MPEG-2 AAC				○*11	○			
DOLBY PRO LOGIC IIz				○	○			
DOLBY PRO LOGIC IIx							○	
DOLBY PRO LOGIC II							○	
DTS NEO:6							○	
DOLBY DIGITAL				○*11	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus				○*11	○	○	○	
DOLBY TrueHD				○*11	○	○	○	
DTS SURROUND				○*11	○	○	○	
DTS 96/24				○*11	○	○	○	
DTS-HD				○*11	○	○	○	
DTS Express				○*11	○		○	
MULTI CH STEREO								
ROCK ARENA		○	○					
JAZZ CLUB		○	○					
MONO MOVIE		○	○					
VIDEO GAME		○	○					
MATRIX	○							
VIRTUAL								

*3　メニューの"サブウーハーモード"設定（☞68 ページ）が"LFE+ メイン"のときに、サブウーハーから音声を出力します。
*11 この項目は、メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"PLIIz Height"（☞61 ページ）が"オン"のときに選択できます。
*12 メニューの"スピーカー構成"⇨"フロントハイト"設定（☞68 ページ）が"無し"のとき、この項目を選択できません。
*13 Dolby Digital または DTS 信号を再生時に選択できます。

基本編
応用編
情報編

サラウンドモード（☞35 ページ）	サラウンドパラメーター（☞60 ページ）				トーンコントロール *14（☞62 ページ）	Audyssey 設定 *16（☞63 ページ）			RESTORER *19（☞64 ページ）
	PRO LOGIC II/IIx Music モードのみ			NEO:6 Music モードのみ					
	パノラマ（☞60 ページ）	ディメンション（☞60 ページ）	センター幅（☞60 ページ）	センターイメージ（☞60 ページ）		MultEQ®（☞63 ページ）	Dynamic EQ® *17（☞63 ページ）	Dynamic Volume® *18（☞63 ページ）	
DIRECT（2 チャンネル）									
DIRECT（マルチチャンネル）									
STEREO					○	○	○	○	○
MULTI CH IN					○	○	○	○	
MPEG-2 AAC					○	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIz					○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	○	○		○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II	○	○	○		○	○	○	○	○
DTS NEO:6				○	○	○	○	○	○
DOLBY DIGITAL					○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus					○	○	○	○	
DOLBY TrueHD					○	○	○	○	
DTS SURROUND					○	○	○	○	
DTS 96/24					○	○	○	○	
DTS-HD					○	○	○	○	
DTS Express					○	○	○	○	
MULTI CH STEREO					○	○	○	○	○
ROCK ARENA					○*15	○	○	○	○
JAZZ CLUB					○	○	○	○	○
MONO MOVIE					○	○	○	○	○
VIDEO GAME					○	○	○	○	○
MATRIX					○	○	○	○	○
VIRTUAL					○	○	○	○	○

*14 メニューの"Dynamic EQ®"設定（☞63 ページ）が"オン"のとき、この項目を設定できません。
*15 このモードのときは、低音が +6dB、高音が +4dB になります。（お買い上げ時の設定）
*16 入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。
*17 メニューの"MultEQ®"設定（☞63 ページ）が"オフ"または"マニュアル"のとき、この項目を設定できません。
*18 メニューの"Dynamic EQ®"設定（☞63 ページ）が"オフ"のとき、この項目を設定できません。
*19 この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。

❏入力信号の種類と対応するサラウンドモード

この表は、各サラウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認のうえ、サラウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

● お買い上げ時に設定されているサラウンドモードを示します。
◎ メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“AFDM”設定（☞61ページ）が“オン”のときに、固定するサラウンドモードを示します。
○ 選択できるサラウンドモードを示します。

サラウンドモード（☞35 ページ）	注意	入力信号の種類とフォーマット																		
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG-2 AAC		
		ANALOG	PCM（マルチチャンネル）	PCM（2 チャンネル）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグあり）	DTS ES MTRX（フラグあり）	DTS（5.1 チャンネル）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグあり）	DOLBY DIGITAL EX（フラグなし）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4/3 チャンネル）	DOLBY DIGITAL（2 チャンネル）	AAC（5.1 チャンネル）	AAC（2 チャンネル）	AAC（1+1 チャンネル）
DTS SURROUND																				
DTS-HD MSTR					●															
DTS-HD HI RES						●														
DTS ES DSCRT6.1	∗1∗3							●												
DTS ES MTRX6.1	∗1∗3								●◎											
DTS SURROUND								○	○	●										
DTS 96/24											●									
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	∗2∗3				○	○	○		○	○	○									
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	∗1∗3				○	○	○		○	○	○									
DTS (–HD) + PLIIz	∗4				○	○	○	○	○	○	○									
DTS EXPRESS							●													
DTS (–HD) + NEO:6	∗1∗3				○	○	○		○	○	○									
DTS NEO:6 CINEMA		○		○													○		○	
DTS NEO:6 MUSIC		○		○													○		○	

∗1 メニューの“スピーカー構成”⇨“サラウンドバック”設定（☞67 ページ）が“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗2 メニューの“スピーカー構成”⇨“サラウンドバック”設定（☞67 ページ）が“1 台”または“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗3 このサラウンドモードは、メニューの“プリアウトの割り当て”設定（☞67 ページ）が“NORMAL”のときに選択できます。
∗4 メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”設定（☞68 ページ）が“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。

サラウンドモード（☞35 ページ）	注意	入力信号の種類とフォーマット																		
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG-2 AAC		
		ANALOG	PCM（マルチチャンネル）	PCM（2 チャンネル）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグあり）	DTS ES MTRX（フラグあり）	DTS（5.1 チャンネル）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグあり）	DOLBY DIGITAL EX（フラグなし）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4/3 チャンネル）	DOLBY DIGITAL（2 チャンネル）	AAC（5.1 チャンネル）	AAC（2 チャンネル）	AAC（1+1 チャンネル）
DOLBY SURROUND																				
DOLBY TrueHD												●								
DOLBY DIGITAL+													●							
DOLBY DIGITAL EX	＊1＊3													○	○	○				
DOLBY (D+) (HD) +EX	＊1＊3											○	○							
DOLBY DIGITAL														○	●	●				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	＊2＊3											○	○	●◎	○	○				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	＊1＊3											○	○	○	○	○				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIz	＊4											○	○	○	○	○				
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	＊1＊3	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	＊1＊3	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	＊1＊3	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIz	＊4	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC		○		○													○		○	
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN			●																	
MULTI CH IN + PLIIx CINEMA	＊2＊3		○																	
MULTI CH IN + PLIIx MUSIC	＊1＊3		○																	
MULTI CH IN + PLIIz	＊4		○																	
MULTI CH IN + Dolby EX	＊1＊3		○																	
MULTI CH IN 7.1	＊3		●◎ (7.1)																	
MPEG-2 AAC																				
AAC + DOLBY EX	＊1＊3																	○		
AAC + PLIIx CINEMA	＊2＊3																	○		
AAC + PLIIx MUSIC	＊1＊3																	○		
AAC + PLIIz	＊4																	○		
MPEG2 AAC																		●		●

＊1　メニューの"スピーカー構成"➪"サラウンドバック"設定（☞67 ページ）が"無し"のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊2　メニューの"スピーカー構成"➪"サラウンドバック"設定（☞67 ページ）が"1 台"または"無し"のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊3　このサラウンドモードは、メニューの"プリアウトの割り当て"設定（☞67 ページ）が"NORMAL"のときに選択できます。
＊4　メニューの"スピーカー構成"➪"フロントハイト"設定（☞68 ページ）が"無し"のとき、このサラウンドモードを選択できません。

サラウンドモード（☞35 ページ）	注意	入力信号の種類とフォーマット																		
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG-2 AAC		
		ANALOG	PCM（マルチチャンネル）	PCM（2 チャンネル）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグあり）	DTS ES MTRX（フラグあり）	DTS（5.1 チャンネル）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグあり）	DOLBY DIGITAL EX（フラグなし）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4/3 チャンネル）	DOLBY DIGITAL（2 チャンネル）	AAC（5.1 チャンネル）	AAC（2 チャンネル）	AAC（1+1 チャンネル）
DIRECT																				
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DSP SIMULATION																				
MULTI CH STEREO		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

映像信号とモニター出力の関係

入力端子				出力端子			メニュー表示		
HDMI	D	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	D	VIDEO	HDMI	D	VIDEO
×	×	×	×	×	×	×	メニュー表示のみ	×	×
×	×	×	○	×	×	○ <VIDEO>	メニュー表示のみ	×	× (VIDEO)
×	×	○	×	×	×	○ <S-VIDEO>	メニュー表示のみ	×	× (S-VIDEO)
×	○	×	×	×	○ <D>	×	メニュー表示のみ	× (D)	×
×	○	×	○	×	○ <D>	○ <VIDEO>	メニュー表示のみ	× (D)	× (VIDEO)
×	○	○	×	×	○ <D>	○ <S-VIDEO>	メニュー表示のみ	× (D)	× (S-VIDEO)
○	×	×	×	○ <HDMI>	×	×	○ (HDMI)	×	×
○	×	×	○	○ <HDMI>	×	○ <VIDEO>	○ (HDMI)	×	× (VIDEO)
○	×	○	×	○ <HDMI>	×	○ <S-VIDEO>	○ (HDMI)	×	× (S-VIDEO)
○	○	×	×	○ <HDMI>	○ <D>	×	○ (HDMI)	× (D)	×
○	○	×	○	○ <HDMI>	○ <D>	○ <VIDEO>	○ (HDMI)	× (D)	× (VIDEO)
○	○	○	×	○ <HDMI>	○ <D>	○ <S-VIDEO>	○ (HDMI)	× (D)	× (S-VIDEO)

○：映像入力あり
×：映像入力なし

○ < >：< > の中の入力信号を出力します。
×　：映像出力なし

○ ( )：( ) 内の映像にスーパーインポーズ
× ( )：( ) 内の映像のみ出力

ご注意

- 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度（例：VGA）の映像を再生中にメニューを操作すると、再生中の映像がメニュー画面に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 本機は 3D ビデオコンテンツまたはコンピューター解像度（例：VGA）の映像を再生中は、状態表示画面を表示しません。

用語の解説

A

Adobe RGB color/Adobe YCC601 color
x.v.Color同様、これらのカラースペースは、従来のRGBよりも広い色空間を定義します。

Audyssey Dynamic EQ®
Audyssey Dynamic EQ®は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。Dynamic EQ®は、Audyssey MultEQ®技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®
Audyssey Dynamic Volume®は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。
また、Audyssey Dynamic Volume®は、Audyssey Dynamic EQ®の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ®
Audyssey MultEQ®は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
Audyssey MultEQ®は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

D

Deep Color(ディープ・カラー)
従来の8ビットの色数を超える色調表現が可能な技術で、色縞のない、より自然に近い色を再現することができます。

Dolby Digital
Dolby Digitalは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント3チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド2チャンネル(SL、SR)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AVルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital EX
Dolby Digital EXは、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット"DOLBY DIGITAL SURROUND EX"を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した6.1チャンネルのサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた6.1チャンネルでの音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plusは、Dolby Digitalを改良した信号フォーマットで、最大7.1チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来のDolby Digitalに対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHDは、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
このフォーマットはサンプリング周波数96kHz/24bitでは最大8チャンネル、サンプリング周波数192kHz/24bitでは最大6チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic II
Dolby Pro Logic IIは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CDのような通常の音楽は5チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性20Hz～20kHz以上)し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic IIx
Dolby Pro Logic IIxは、Dolby Pro Logic IIをさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大7.1チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した"Music"モードと映画再生に適した"Cinema"モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な"Game"モードがあります。

Dolby Pro Logic IIz
Dolby Pro Logic IIzは、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2チャンネルソースや7.1/5.1マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画/音楽/ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

DTS
Digital Theater Systemの略で、DTS社が開発した、デジタル音声システムです。DTS対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24
DTS 96/24は、DVD-Video上でサンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24bitの高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は5.1チャンネルとなります。

DTS Digital Surround
DTS™ Digital Surroundは、DTS社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が44.1kHzまたは48kHz、再生チャンネル数が最大5.1チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1
DTS-ES™ Discrete 6.1は、DTSデジタルサラウンド音声に加えてSBチャンネルを追加した6.1チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の5.1チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1
DTS-ES™ Matrix 6.1は、DTSデジタルサラウンド音声にSBチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した6.1チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の5.1チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express
DTS Expressは、最大5.1チャンネルの24kbps～256kbpsまでのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD
ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来のDTSをさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大7.1チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio は、従来のDTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS NEO:6™ Surround
DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した“DTSNEO:6 Cinema”と、音楽再生に適した“DTS NEO:6 Music”があります。

H

HDCP
機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

HDMI
High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

L

LFE
Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz ～ 120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)
音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4
デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

MPEG-2 AAC
MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

S

sYCC601 color
x.v.Color 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

X

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

あ行

オートリップシンク
オートリップシンク機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

さ行

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことでΩ（オーム）という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

た行

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

は行

プログレッシブ（順次走査）
映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

保護回路
何らかの原因で過負荷、過電圧や高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。
本機では、異常発生時には電源表示が点滅し、スタンバイ状態になります。

故障かな？と思ったら

❏ 各接続は正しいですか
❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 • 保護回路がはたらいています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5 〜 10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。	9 102
ディスプレイの表示が消える。	• メニューの“ディスプレイの明るさ”設定を“消灯”以外の設定にしてください。	72
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	– –
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。	10、43 10
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	106

【HDMI】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI 音声出力”の設定を“アンプ”に設定してください。 • HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの“HDMI 音声出力”の設定を“TV”に設定してください。	11 70 70
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 • テレビが著作権保護（HDCP）に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	11 11、23 10
HDMI コントロール対応機器に次の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源のオン / オフ • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• メニューの“HDMI コントロール”を“オフ”に設定してください。また、本機の電源オフを HDMI コントロール対応機器と連動させない場合は、メニューの“パワーオフコントロール”を“オフ”に設定してください。	49、70

【映像】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	7 7

【音声】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。 • スピーカーの接続とスピーカー構成の設定を確認してください。 • 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。 • 主音量を適切な大きさに調節してください。 • ミューティング（消音）モードを解除してください。 • 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 • デジタル入力端子を割り当てた端子と入力モードを合わせてください。 • 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取り外してください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子から音が出なくなります。	7、11、12、13、14、15 10、43、44、45、46 – 24 24 23 78 88
サラウンドスピーカーから音が出ない。	• SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。	–
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• メニューの"プリアウトの割り当て"設定で、サラウンドバックスピーカーを使用する設定になっているか確認してください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"サラウンドバック"設定が"無し"以外になっているか確認してください。 • メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"サラウンドバック"設定が"オフ"以外になっているか確認してください。 • サラウンドモードが"STEREO"以外になっているか確認してください。	67 67 61 35
フロントハイトスピーカーから音が出ない。	• メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"PLⅡz Height"設定が"オン"になっているか確認してください。 • メニューの"プリアウトの割り当て"設定で、フロントハイトスピーカーを使用する設定になっているか確認してください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"フロントハイト"設定が"無し"以外になっているか確認してください。	61 67 67
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。 • サブウーハーの電源を入れてください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"サブウーハー"を"有り"に設定してください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"フロント"、"センター"の設定が"大"で、なおかつ"サブウーハーモード"の設定が"LFE"の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	10、43、44、45、46 – 67 67、68
DTS 音声が出力されない。	• メニューの"デコードモード"を"オート"または"DTS"にしてください。	78
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI で接続してください。	11
Dolby PLⅡ モードや DTS NEO:6 モードが選択できない。	• メニューの"スピーカー構成"⇨"センター"または"サラウンド"を"無し"以外に設定しているか確認してください。スピーカーシステムが 2.0/2.1 チャンネルの場合は選択できません。 • ヘッドホン使用時は、Dolby PLⅡ または DTS NEO:6 を選択できません。	67 –
Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® が選択できない。	• サラウンドモードを"DIRECT"以外に切り替えてください。 • ヘッドホン使用時は、Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® を選択できません。	35 –
Dynamic EQ および Dynamic Volume が選択できない。	• Audyssey® オートセットアップを実行してください。	16、47
RESTORER（リストアラー）が選択できない。	• アナログ信号または PCM 信号（fs=44.1/48kHz）が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生は RESTORER（リストアラー）を使用することができません。 • サラウンドモードを"DIRECT"以外に切り替えてください。	64 35

【FM/AM チューナー】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
受信できない。または、雑音や歪みが多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。 • 本機から AM ループアンテナを離してください。 • FM 屋外アンテナを使用してください。 • アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	15 15 15 15

【iPod 用コントロールドック】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
iPod が再生できない。	• iPod の接続を確認してください。 • iPod 用コントロールドックの AC アダプターをコンセントに挿入してください。 • 入力ソースを“DOCK”に切り替えてください。	14 – 23

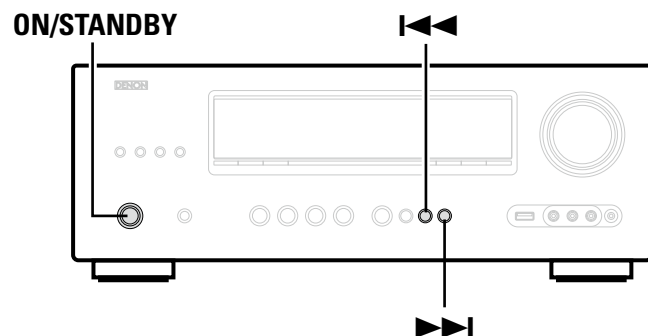
【iPod/USB メモリー】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
USB メモリーを接続したとき、メニュー画面に“USB”が表示されない。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。接続を確認してください。 • 本機は、マスストレージクラスまたは MTP 対応の USB メモリーに対応しています。それ以外の USB メモリーは認識できません。 • 本機が認識できないデバイスを接続しています。すべての USB メモリーに対して、動作や電源の供給を保証するものではありません。 • USB ハブを経由した接続はできません。	14 – – –
USB メモリーのファイルを再生できない。	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。詳しくは、USB メモリーの取扱説明書をご覧ください。 • USB デバイス内が複数のパーティションに別れている場合は、第 1 パーティション以外は再生できません。 • ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	– – 33 33
ファイル名が“. . . ”など、正しく表示されない。	• 本機で表示できない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。	–
iPod が再生できない。	• USB 端子に iPod を直接接続して使用する場合、対応していない iPod があります。	14

【リモコン】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 • リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 • 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 • 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 • 本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。 • 操作モードと操作したい機器の設定が合っていません。操作モードを確認してください。	92 92 92 92 92 80

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

1 **ON/STANDBY を押して、電源を切る。**

2 **9 と 8 を同時に押しながら、ON/STANDBY を押す。**

3 **ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。**

手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、手順 1 からやり直してください。

保証と修理について

❏保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❏修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❏依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 ……. 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❏補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

❏お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑ オーディオ部

• パワーアンプ部

定格出力：	フロント： 75W+75W（負荷 8 Ω、20Hz〜20kHz T.H.D 0.08%） センター： 75W（負荷 8 Ω、20Hz〜20kHz T.H.D 0.08%） サラウンド： 75W+75W（負荷 8 Ω、20Hz〜20kHz T.H.D 0.08%）
実用最大出力：	フロント： 130W+130W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA） センター： 130W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA） サラウンド： 130W+130W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA）
出力端子：	6〜16 Ω

• アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV/47k Ω
周波数特性：	10Hz〜100kHz：+1、–3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	98dB（IHF-A、DIRECT モード時）

❑ ビデオ部

• 標準ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p、75 Ω
周波数特性：	5Hz〜10MHz：0、–3dB

• コンポーネントビデオ（D）端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：1Vp-p/75 Ω PB/CB（青色）信号：0.7Vp-p/75 Ω PR/CR（赤色）信号：0.7Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz〜60MHz：0、–3dB

❑ チューナー部

• FM 部

受信周波数範囲：	76.0MHz〜90.0MHz
アンテナ端子：	75 Ω
実用感度	1.2 μ V/75 Ω（12.8dBf）
S/N 比：	モ　　ノ：72dB（IHF-A、DIRECT モード時） ステレオ：67dB（IHF-A、DIRECT モード時）
ひずみ率	モ　　ノ：0.3%（1kHz、100% 変調時） ステレオ：0.7%（1kHz、90% 変調時）

• AM 部

受信周波数範囲	522kHz〜1629kHz
アンテナ	ループアンテナ（付属）
実用感度	18 μ V

❑ 総合

電源：	AC 100V、50/60Hz
消費電力：	360W（電気用品安全法による） 0.1W（スタンバイ時） 3W（CEC スタンバイ）

＊ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

• 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
• 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。
• 本機は国内仕様です。
必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

基本編
応用編
情報編

寸法

単位：mm
22.0
338.5
382.0
21.5
236.8
54.7
435.0
DENON
147.0
162.0
340.0
15.0
質量：9.2 kg

DENON

デノンお客様相談センター

☎ 044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル 3F

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

V00

3520 10032 002DA